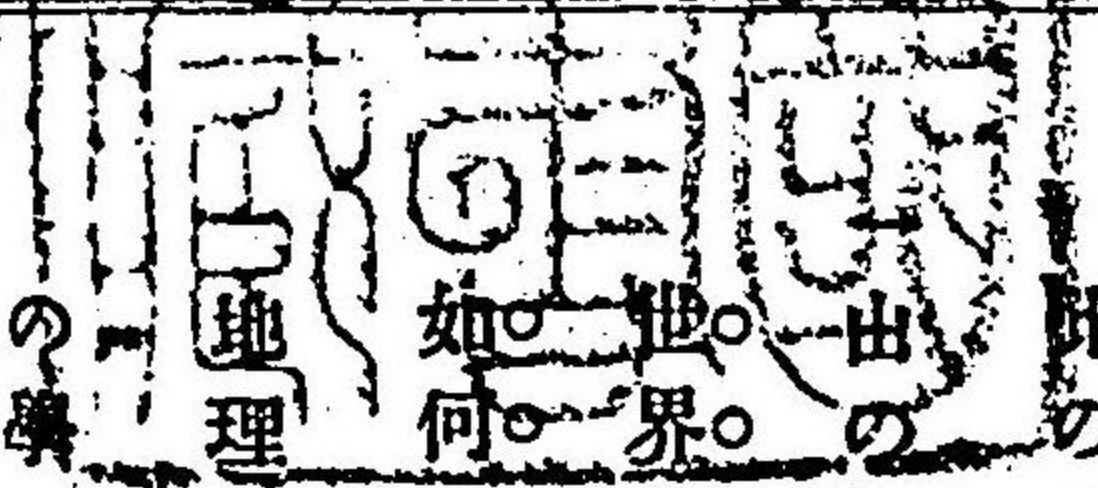


日本地理法讀



一日本地理は吾人の最も愛する郷國の紀事なれば、恰も各自の住居する邸宅の方角、位置、景況を知るの必要と同じきものなれば、此の心得を以て學習せざるべからず。

山の高さ、川の長さ、都邑の人口等を知るは、地理の末なり、我國は、世界の如何なる部分に位置するや、其の天然は如何、其の人事は如何、將た其の國勢及發達は如何等に著眼せざるべからず。

地理を學ぶに諳記、記憶の必要なるは、勿論なれども、地理は諳誦の學にわらず、山、何故に其處に峙つか、河、何故に其處に流るるや、都邑、何故に其の處に建ちしや、等、即ち「何故」も亦必要なるを忘るべからず。



## 凡例

一本書は、日本の最新事實に據り、前著<sup>新編</sup>中學地理と同じく、中學校、師範學校を始め、中等教育の地理教科用に充つる目的を以て編修したり。

一本書は、自然地理、地方誌、人文地理の三編に、大別し、最初自然地理によりて、日本帝國自然上の概念を興へ、進みて地方誌に至り、全國各部に於ける天然、及人事上の事項を分解説明し、終りに、人文地理によりて、日本全國を概括して、國勢の一斑を知らしめ、以て日本帝國なる觀念を興ふるの趣向なり。

一日本の區劃は、從來の畿道區劃に據らずして、帝國統計年鑑に定むる所の區劃法を探れり、是れ畿道區劃なるものは、單に地理上の一名目として存すれども、人事上既に何の關係をも有せず、然るに統計年鑑の區劃法は、較、我が國風土的事情に適合し、地勢、水系、交通等の聯絡關係を知らしむに便なればなり。

一各地方誌の終に於て、風土比較を示せり、是れ已に學べる個々の事項を、彼れ是れ相對比し、觀念をして一層確實ならしめんが爲めなり、但其の一端を擧げれば、教授者は、宜しく敷衍添加あらんことを望む。



北海道區誌……………一七三

臺灣區誌……………一八七

### 第三編 人文地理

人誌……………二〇六

人口、風俗、氣質、宗教、教育

土地……………二二二

農産、工産、林産、畜産、水産、鑛産、商業

交通……………二二三

道路、鐵道、郵便、電信、電話、海運

國體及政體……………二三五

立法、行政、司法

國防……………二三八

陸軍、海軍

外交……………二三三

### 目次終

かしこくも照る日の本と名づける皇らわ君をあるじにはして  
宗其親王



日本誌

### 自然地理

矢津昌永監修  
角田政治編修

●我れ等の郷土なる大日本帝國は、地球上に於て氣候溫和、に財源亦豊富なる天賦の島國にして、上に至尊至榮の皇室を戴き、下に忠孝義勇の同胞棲みて、國運愈々進み、各々其の生を樂めり、是れ必竟我が國地理形勢の最も優勝なるに據らずんばあらず。今左に之を説かんとす。

### 境域

位置  
 南緯北緯二十  
 一度四十五分  
 アライト島北  
 緯五十五度五  
 六分、花嶼の  
 西端東緯百十  
 九度二十分、  
 占守島東經百  
 五十六度三十  
 二分、

三十七度は支  
 那の中央、波  
 斯の北部、希  
 臘の中央、伊  
 太利、西班牙  
 の南部、北米  
 合衆國の中央  
 なり、  
 我邦は好位  
 置を占む

●位置 我が國は亞細亞洲の絶東なる北太平洋中に羅列する群島にして、東北より斜に西南に延びたり。其の極南は臺灣島の南岬にして、既に熱帯に入り、北端は千島のアライト島なり。極西は澎湖島花嶼の西端より、極東は千島の占守島に至る。故に南僅に熱帯に入る外、總て北温帯内にあり。中央緯度の三十七度なれば、寒暖中和の國なり。

○西は日本海を隔て、露領西伯利及朝鮮に對し、東海を隔て、支那と相望む。南は一葦水の巴西水道を隔て、比律賓群島呼ば、應んとす。北は千島群島により、堪察加半島に接し、東は太平洋を隔て、遙に亞米利加洲に相對す。島彙宛も亞細亞東岸に連珠を掛けたるが如く、凡そ二千哩の間に斷續して、オコック海、日本海、黄海、及東海を扼せり。故に西伯利

廣袤  
 約十六萬方哩

朝鮮及支那北部より、東方に到らんには、必ず路を我が領海に藉らざる可らず。又世界最多の人口を有する支那大國を西にし、富源限りなき北米大陸を東に控へ、南は南洋諸島の珍品異産を收むべく、北は西伯利によりて、陸路歐亞兩大洲に通ずべし。故に我が國は、兵要上、商業上、交通上、實に樞要の位置にあり。

●廣袤 我が國の面積は、二萬七千〇六十二方里あり、五大島及約四千の島嶼より成る。中央の最大島は本州本土にして、次ぎの大島は北に在りて蝦夷島(北海道)と謂ひ、九州は本州の西南に位し、又本州と九州間の大島を四國とす。臺灣島は遙か南に在りて、其の大き九州に次ぐ、其の他重なる島嶼を擧ぐれば、千島、琉球、佐渡、淡路、對馬、隱岐、壹岐等なり。此の

各島の面積、及大小の比例を示せば左の如し。

| 土地面積                         | 百分比   | 土地面積                         | 百分比   |
|------------------------------|-------|------------------------------|-------|
| 本州 一四、五七一 <sup>方里</sup> 、一二  | 五三、八四 | 蝦夷 五、〇六一 <sup>方里</sup> 、九〇   | 一八、七〇 |
| 九州 二、六一七、五四                  | 九、六七  | 臺灣 二、二五九、九〇                  | 八、三五  |
| 四國 一、二八〇、六七                  | 四、三六  | 千島(三十二島) 一、〇三三、四六            | 三、八二  |
| 琉球(五十五島) 一五六、九一              | 〇、五八  | 佐波 五六、三三                     | 〇、二一  |
| 對島 四四、七二                     | 〇、一七  | 澎湖島(五十二島) 八、二〇               | 〇、〇三  |
| 淡路 三六、六九                     | 〇、一四  | 隱岐 二一、八九                     | 〇、〇八  |
| 壹岐 八、六三                      | 〇、〇三  | 小笠原島(二十島) <sup>方里</sup> 四、五〇 | 〇、〇二  |
| 總計 一二七、〇六二 <sup>方里</sup> 、四六 |       |                              |       |

○全面積の内、本州は其の半を占め、蝦夷は本州の三分の一、九州臺灣は略、相同じく、四國は蝦夷の四分の一に當り、其の他諸島の面積を合せて、本州に比すれば約十分の一に當る。

●區劃 我が國の區劃に二様あり。一は現今の政治區劃

國は又州と稱することあり、武州(武藏)江州(近江)野州(下野)の如き是なり、

五大島及屬島面積比較圖



鑑の區劃法に従ひて、本州を中區、北區、西區とし、其の他を四國區、九州區、附沖繩、北海道區、及臺灣區とす。各區に包轄する府縣(北海道)左の如し(區劃地圖を看よ)

- |    |     |    |    |    |    |
|----|-----|----|----|----|----|
| 東京 | 神奈川 | 埼玉 | 千葉 | 茨城 | 栃木 |
| 群馬 | 長野  | 山梨 | 静岡 | 愛知 | 三重 |
| 岐阜 | 滋賀  | 福井 | 石川 | 富山 |    |

|    |     |     |    |    |     |     |     |
|----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|
| 地勢 | 本州  | 新潟  | 福島 | 宮城 | 巖手  | 山形  | 秋田  |
|    | 北區  | 青森  |    |    |     |     |     |
|    | 本州  | 京都  | 大阪 | 奈良 | 和歌山 | 兵庫  | 岡山  |
|    | 西區  | 廣島  | 山口 | 島根 | 鳥取  |     |     |
|    | 四國  | 德島  | 香川 | 愛媛 | 高知  |     |     |
|    | 九州  | 長崎  | 佐賀 | 福岡 | 熊本  | 大分  | 宮崎  |
|    | 鹿兒島 | 附沖繩 |    |    |     |     |     |
|    | 北海  | 渡島  | 後志 | 石狩 | 天鹽  | 北見  | 膽振  |
|    | 道區  | 日高  | 十勝 | 釧路 | 根室  | 千島  |     |
|    | 臺灣  | 臺北  | 臺中 | 臺南 | 宜蘭廳 | 澎湖廳 | 臺東廳 |

沿海 日本海岸線一  
 里二付面積  
 三万六、歐  
 羅巴百四十三  
 方里、北亞米  
 利加二百六十  
 五方里、濠洲  
 三百三十二方  
 里、南亞米利  
 加四百三十四  
 方里、亞細亞  
 四百六十九方  
 里、亞弗利加  
 八百九十五方  
 里、

本州の沿海

●沿海 海岸の出入多ければ、港灣半島等に富み、従ひて交通商賣に便にして、其の國の文明開發を補助すること尠からず。故に海岸線の長短は、直に國の文野を卜すべき者なり。本邦の海岸線は屈曲甚だ多く、之を延長すれば七千四百六十七里に及ぶべし、此の延長里程は國の廣さに比すれば甚だ長く、世界中我が邦に比すべき國なし、左に各島に就き其の沿海の状を述ぶべし。

○本州海岸線の形勢を、先づ太平洋方面より之を説かば、本州の北端に斗南半島斗出し、西津輕山嘴と相對し、内に陸奥灣を抱き、蝦夷島と津輕海峽を挟む。斗南半島以南、犬吠岬に至る海岸は、鋸齒状を呈して大灣入なく、唯、仙臺灣あるに過ぎず。犬吠岬の南に房總半島出でて、三浦半島と共に東京灣

を擁す。

○伊豆半島其の西に出でて、東に相模洋、西に駿河灣を作る。知多半島は、志摩と三河の間に出でて、渥美灣、伊勢海に分つ。伊豆の南端石廊崎より、志摩に至る海上は、有名なる遠州灘なり、志摩の西に紀伊半島出でて、紀州灘、熊野浦を左右にし、何れも舟行の難所とす。

本州の瀬戸内海沿岸

○紀伊水道を入れれば大阪灣にして、是れより西、馬關海峽(早瀬)或は長(豊海峽)に至る間を瀬戸内海とす、風景甚だ好く、海岸は犬牙の如く相錯り、無数の島嶼其の内に點綴せり。

本州の日本海沿岸

○早瀬海峽を出れば、日本海にして、海岸線の屈曲は、太平洋の如く多からず、島根半島、若狹入江、能登半島、富山灣、男鹿半島等を大なる出入とす。

四國島の沿岸

本州を圍む海岸線の延長は、一、千、九、百、五、十、三、里にして、屬島に五百二十三里あり。

○四國島は他の四大島に比して小なれば、海岸線長からず、其の延長は屬島を合せて、六、百、七、十、六、里あり。瀬戸内海には、讚岐、伊豫の兩突出ありて、燧灘を抱く。太平洋には東に室戸岬あり、西に蹉蛇岬ありて、土佐灣を擁す。伊豫の佐田岬は、西に走りて九州と聯絡せんとし、其の間は早吸海峽(豊後水道)として、潮流急なり。

九州島の沿岸

○九州島は海岸の出入頗る多く、北岸一帯は支海洋に臨み、一二の小灣あるに過ぎざれど、西部は灣入岬角相交錯せり、即肥前は全國中最も海岸の屈曲に富み、全部西に突出して、半島狀をなし、内に筑紫灣、及大村灣を抱き、數多の半島あり。



又薩隅は舞へる猿猴の兩股の如く、股間は鹿兒島灣にして、其の内に櫻島を挿めり。瀬戸内海に面しては、國東半島及齒灣あり、其の以南に一二の小灣入あるの外、日向は海岸線の屈曲に乏しく、南端に一の志布志灣あるのみ。海岸線の延長八百六十一里、之に壹岐、對馬の二大島及他の屬島を加へ、一千八百四十七里の長きに達す。

蝦夷島の沿岸

○蝦夷島は赤鰻の尾を振ふに似て、宗谷、襟裳の兩岬を兩鰭とし、知床、納紗布の兩岬其の頭頸を作り、渡島半島は振へる尾にして、其の尾間に内浦灣を抱けり。海岸線の延長は、六百二十九里にして、千島列島を合せて、一千二百四十一里とす。

○臺灣島は五大島中、海岸の屈曲最も少し。北岸に僅の小灣入あれど、東岸は峻崖絶壁にして、港灣に乏し、恒春半島、遙か

臺灣島の沿岸

南に突出し、内に南灣を抱き、西岸一帯は遠淺にして、且つ屈曲乏しく、臺灣海峽を隔て、支那の福建地方と相對し、其の内に澎湖島を擁して、澎湖水道を作る。其の海岸線の延長、僅かに三百五十二里にして、澎湖島を加へて、四百二十七里に過ぎず。

地形

●地形

日本の地體は東南に擴張して、略三連の弓形より成り、其の走向は皆東北より西南に横はりて、亞細亞大陸の東に懸れり。三連の弓形とは、(一)千島列島、(二)本土列島、(三)琉球列島、並に臺灣是れなり。故に其の觀頗る莊麗にして、恰も三連の珠玉を亞細亞東岸に掛けたるに異ならずとて、外國の地學者は、東洋の「花彩島」と稱揚せり、而して此の花彩島の内部は、到る處山岳多き、所謂山國にして、平地は全面積の九

分の一に過ぎず、故に山脈の配布を知るは、本邦地理を學ぶに最も必要なり。國內に起伏する山岳は、種々の方向に亘りて、甚だ錯雜せるが如きも、本邦を構造する地體は、二大山系に過ぎず。樺太山系、崑崙山系、是れなり。

山系

●山系 樺太山系は、樺太島より蝦夷島を経て、本州に入り、地形の如く走り、遂に中央部に達す、崑崙山系(從來支那山系と稱せり)は、其の脈遠く支那の崑崙山より延くを以て名けられ、東海を渡り來りて、九州に達し、四國中國の地體をなし、遂に本州の中央部に於て、樺太山系と相會せり、此の二大山系の結節する所は、本州中幅員最も廣く、地勢最も雄峻なる、甲、駿、信、越地方とす。地學者は此の結節以北を北日本と謂ひ、以南を南日本と稱す、此の兩山系とも太平洋方面は、陸地自ら擴出し

火山脈

て能く發達し、日本海方面は彎曲して陷落の所多し、故に地學者又太平洋方面を外帶或は表日本と謂ひ、日本海方面を内帶或は裏日本と稱す。

○普通なる山系と異なりて、火山脈なるものあり、此の火山は地火力の地殼の軟弱なる所を破りて、迸發したるものなるを以て、若し地盤に一系列の裂罅等あれば、火山は此の線上に噴起して、一帯の脈をなす。我が北日本と南日本と會合する所に、本州を南北に横斷する裂縫帶ありて、一大火山脈茲に迸發す、之を富士火山帶と稱す。

樺太山系

●樺太山系 先づ我が國の東北より舉れば、蝦夷山脈、千島火山帶あり、共に北海道本地に於て隆起し、其の地體を作る。本州に入りて、東部に北上山脈、阿武隈山脈あり、共に太平

富士帶

洋に沿ふて南北に走り、南端は筑波山彙に連り、關東山脈は武藏の東北部に起伏す、那須火山脈(中央山脈)は北上、阿武隈兩山脈と並行し、太平洋と日本海の分水嶺となり、奥羽の境上より岩代の東部を南走す、此の山脈は高峻なる火山多し、本脈の主山なる、那須岳より二派に分れ、一は日光山彙、他は常釋山脈と名づけられ、上野を経て富士帶に合す。

○那須火山脈の西に、鳥海火山脈、彌彦火山脈あり、一は兩羽及岩越の境上を経て富士帶に合し、他は日本海に一二の火山島を作り、信濃に入り又富士帶に接す。

○富士帶 樺太、崑崙兩山系の接合線に噴起する一大火山脈にして、富士の高峯を盟主とし、北は八ヶ岳、淺間の諸山より、越後の妙高山、燒山等に連り、南は箱根の群山より、伊豆を

崑崙山系

經て豆南諸島を起し、終にマリアナ群島に到る。

○崑崙山系 九州に於て本系に屬するものには、九州南部山脈、九州北部山脈あり、其の名の如く一は九州の北部、他は南部に起伏せり、その他火山脈には、阿蘇火山脈、霧島火山帶あり、共に有名なる大火山あり。

○九州南部山脈は、東に走りて四國山脈、紀伊山脈、赤石山脈となる、共に表日本を構造する山脈にして、遂に駿信の境より富士帶に會す。

○裏日本に於ては、中國山脈、美濃飛驒高原ありて、共に水成山脈なり、火山脈には、白山火山脈、隱岐火山脈等あり、又本州の中央部に於て、乘鞍火山脈、木曾山脈等蟠りて、共に本州中の雄峻なる高臺を作る。

臺灣山脈

○臺灣山脈 臺灣の地路を造る高峻の山脈にして、新高山脈中に聳えたり、又火山脈は澎湖群島より、臺灣島の西北端に渡り、琉球帯の裏面に沿ひて、遂に霧島帯に連れり。

日本は山國  
又火山國

○本邦は斯く水成山脈、及火山脈連亘し特に火山は、到る所に多く、火山岩は我が國全面積の五分の一を覆へる程の火山國にして、時々猛烈の噴裂をなす。近くは磐梯山、吾妻山の爆裂の如きは、人の能く知る所なり。

水系

●水系 五大島の中央には、各脊梁山脈ありて、水系皆是れより分配せられ幅廣からざる兩側の斜面を下り、太平洋及日本海等に流注す。故に河道總て短く、其の流れ又急に、頗る運輸の便に乏し。

蝦夷島の河

○蝦夷島に石狩川、天鹽川、十勝川の三大河あり、特に石狩川

本州の河流

は本邦に於て一二を争ふ長流なり。

○本州の地形は狹長にして、山脈中央に脊梁をなし、河水は其の兩側に配送せらるゝを以て、長流を成す能はず、其の中稍長大なるものは必ず兩脈を横斷して流るゝものなり。今其等の河流を擧ぐれば、太平洋水系に屬するものは、北上、阿武隈、利根、木曾、天龍の諸川あり。又日本海系に能代、御物、最上、信濃の諸川あり、此等諸大河は、頗る廣き流域を開き運輸灌漑を資け、其の灌域は人煙稠密の主要地となれり。近畿には、紀川、淀川、大和川を稍大なりとす。中國は地形已に大河の養成を許さず、僅に江川あるのみ。

四國の河流

○四國の河流は、多く四國山脈に分水せられて、南北に分流す。唯、吉野川は東西に流れ稍大にして、其の他、仁淀川、渡川、肱

九州の河流

川等あり。

○九州の河流も亦北部、南部の兩山脈によりて分水せらるるが故に、大河を成す能はず。西の筑後川、球磨川、川内川、東の大淀川、五箇瀬川等を稍大なりとす。

臺灣の河流

○臺灣も地勢上大河なく、獨り淡水河は北流して稍大なり、之に次ぎ濁水溪あり。

○以上河流の内石狩、信濃、利根は日本三大河にして、富士、最上、球磨を日本三急流とす。

○本邦の河流は、多く山間を急下するを以て、上流と中流とあれども、幅廣く水深く流れ緩にして、運輸の便ある下流の特質を具ふるもの少なく、霖雨に逢へば雨水忽ち急斜面を下りて、平原に漲溢して、水害を蒙ること尠からず。然れども

湖沼

此の急流を利用して、電氣等の原動力と爲すに利あれば、工業上には、便益を興ふるに至るべし。又灌漑の利は稍多く、各河の流域は主要の生産地にして水田多く、河口の三稜洲には、繁盛なる都會建てり。

○我が國湖沼の大なるものは、近江の琵琶湖を以て最大とし、周圍五十九里餘、湖畔は風景絶佳にして湖上汽船往來し、運輸の便を占む。次ぎは常陸の霞ヶ浦にして、周圍三十六里、運輸灌漑共に便なり、北見の猿間湖は周廻二十里あり、其の他周圍十里以上の湖水を擧ぐれば、岩代の猪苗代湖(十六里)、出雲の中海(十六里)、羽後の八郎瀧(十五里)、陸奥の小河源沼(十三里)、出雲の六道湖(十三里)、下總の印旛沼(十二里)、陸奥の十和田湖(十里)等なり。

氣候 產物

溫度

●溫度 我が國の位置は、極南僅かに熱帯に入る外、總へて北温帶内に在りて、到る處氣候和順にして、四季皆愉快に生活することを得べし。亞細亞洲中に於いて氣候の暢和なること、我が邦に及ぶ處なし。今國內各地に就て、全年の平均溫度を述べれば、臺灣島の南端に於ける、二十四度七を最高とし、北海道の釧路に於ける、四度七を最低とす、其の差は二十度にして、中央部の平均溫度は、十三度なり。夏(八月)の平均溫度は、南部の二十七度より北部の十七度の間であり。冬(一月)は南部の二十一度を最高とし、北部の氷點下十度を最低とす。我が國は四面環海なる上に、南の方面は温暖なる黒潮

黒潮

と云へる海流の洗へるを以て、著しく温暖なり、但し東北の一部は寒流に洗はれて、稍寒冷なれども、全體より之れを見れば、寒、暖、中、和の好氣候にして、暑熱の人を傷害する所少なく、又、寒氣の營作を妨ぐる地稀なり。是れを以て動植の物皆其の所を得て、全土風景に富み、亞細亞洲中の樂園と稱せらる。

○黒潮は南方赤道附近より來り、臺灣の東岸及琉球列島の稍西部を北流し、本支二流に岐れ、本流は九州、四國、本州の南岸を洗ひ、犬吠岬の沖を東方に流る、支流は對馬海流と稱し、對馬海峽より日本海に入り、一部は津輕海峽に入りて消滅し、一部は宗谷海峽を経て、オホツク海に入る、以上を我が國近海を流るゝ暖流とす。

寒流

○寒流はオコックス海の東北部より起り、千島を洗ひ、本州の東岸を沿ふて、犬吠岬に至り、暖流に逢て消滅す、之を親潮と云ふ、他に二派あり、共に日本海に入る。

雨量

一耗は三厘三毛にして、一坪の地面に降る升目は一升八合三勺に當る。

○雨量 我が國は温帶中にありては、多雨の地に屬す、全年平均雨量は、一千五百七十三耗あり、即ち全邦土の面を五尺二寸の深さを以て、掩ふ割合に當れり、然れども各地により又多少の差あり、降雨の量最も多き所は、(一)大隅より志摩に至る、太平洋岸一帯の地、(二)越前加賀能登等の日本海岸、(三)臺灣の西北岸の三地方とし、何れも二千三百耗以上あり、又雨量の最も少なき所は、蝦夷島にして、之に亞ぐを信濃より兩野に至る本州内地、及瀬戸内沿岸の各地とす、季節に就て言へば、太平洋岸各地は、暑候に多雨にして、寒候には寡し、日本

風

夏の南風及西南風  
冬の西北風

海岸各地は之に反せり、六月及九月は霖雨多く、殊に六月は「五月雨」と稱し、降雨連日に亘ることあり、表日本に於ては、十一月より翌年三月頃までは天氣晴朗の日多し。

○風 我が邦は西北に大陸を受け、東南は大洋に瀕するを以て、風は主として此の二者に支配せらる。即ち夏期は太平洋より亞細亞大陸内地に向ふ風あり、是れ夏日南風及西南風多き所以なり、冬期は之に反して、亞細亞大陸より太平洋に向ふ西北風あり、此の風は烈寒の地を掃ひ來るを以て、此の風を被る間は、我が邦の寒氣は較強し、九月の上旬には、往往颶風起ることあり、此の颶風は比律賓群島附近に起り、東北に進みて、本邦各地共甚しく其の害を受く。

天産物

●天産物

我邦の地形は斜に長く、三十緯度を通じて、太

植物

平洋波上に横はり、且つ山岳高く聳え、雨量又多く、氣候各様なるを以て、各種の生産物あり。凡そ北緯三十二度以南なる九州南部、臺灣、琉球、小笠原島、及其の他の諸島には、熱帶の植物繁茂し、樟、榕樹、羊齒、蘇鐵、竹、栢、露兜樹、椰子樹、檳榔樹、龍眼肉、芭蕉實等特種の産あり。九州、四國、本州及蝦夷の南部には、温帶植物能く生茂し、國民の命脈を繋ぐ米麥の嘉穀を首とし、穀類、豆類及織緯植物能く生じ、喬木には杉、檜、樅、櫻、公孫樹、赤松、黒松、山毛櫸、梅、櫻、楓等の有用樹繁茂せざる地なし。又蝦夷の北部及千島列島に至れば、寒帶性の植物繁茂す、赤楊、蝦夷松、偃松、椴松、等を重なる特生樹とし、内地の高山には白檜、偃松、等を生ず。

動物

○動物 我が邦に繁殖する動物類は、必要なる食用及他の

礦物

用をなす、家畜、禽鳥、蟲類多く、有害なる猛獸、有毒なる蟲類等は實に少く、唯、北海道に熊狼を産すると、臺灣に山猫及豹を棲ましむるのみ。内地に最も多く産する獸類には、馬牛を始め野生の猪、鹿、狐、狸、麂、兎、猿の類とす、臺灣には、水牛を産す。魚鳥及蟲類は、何れも多く、特に魚介は熱帶より來る暖流、寒帶より來る寒流あるを以て、多種多様の水族、大抵産せざるものなく、貴重なる海生哺乳類をも産せり。

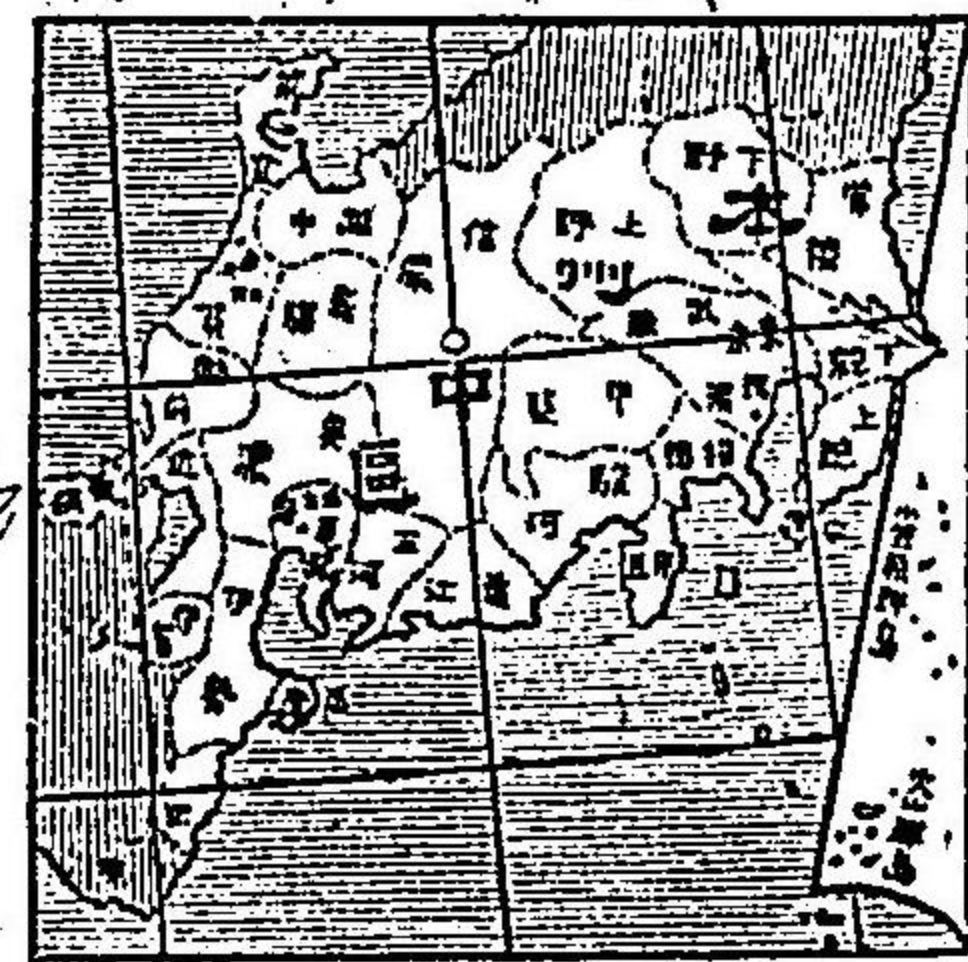
○礦物 礦物も亦各種の産ありと雖、産額の最も多きものは、石炭及銅にして、金、銀、鐵、アンチモニー、滿俺、等是に次ぎ石油、硫黃、石灰石、水晶等をも亦産す。



### 第二編

### 地方誌

### 本州中區誌



本州中區之圖

●本區は我が國の中央部を占め、南は太平洋に臨み、北は日本海に濱す。全國中、幅員最も廣濶に、人口亦稠密なる主要の部にして、其の疆域は東海道全部、中仙道及北陸道(越後を除く)の二十六國を包轄す。面積六千四百二十五方里、人口一千七百萬ありて左の一府十六縣を置く。

- 〔東京府 神奈川縣 埼玉縣 千葉縣 茨城縣

#### 本州中區

- 栃木縣 群馬縣 長野縣 山梨縣 靜岡縣
- 愛知縣 三重縣 岐阜縣 滋賀縣 福井縣
- 石川縣 富山縣

#### 地勢

●地勢 本區の中央部は、樺太山系、崑崙山系の會合所に當るを以て、高峻なる山岳起伏し、其の周圍には、稍廣濶の平野を存せり。今地形により大別して(一)中央高地(二)太平洋傾地(三)日本海傾地の三部となす。

#### 中央高地

(一)中央高地は本區の中央大部分を領する本邦第一の高隆地なり。信飛高原を中心とし、南は甲駿、遠に亘り、北は越中、加賀、越前に跨り、東は兩毛の北部に及ぶ。山勢一般に雄峻に、往一萬尺を抜く高峯ありて、河流の泉源となり、氣候寒冷にして風色蕭條たり、溪間處々に狭き低地を存するのみ。

太平洋傾地  
關東平野には  
人口一萬以上  
の都邑二十一  
個あり

(二) 太平洋傾地は、東部に關東平野あり、武藏を中心とし、八州に跨る所謂關八州の平原なり、地肥え人多く、最も形勝の地にして、繁盛の都邑多し、西部に濃尾平野あり、尾張より美濃に亘り、亦殷賑の沃野にして、中古群雄の衝を争ひし血戦場少からず。

日本海傾地

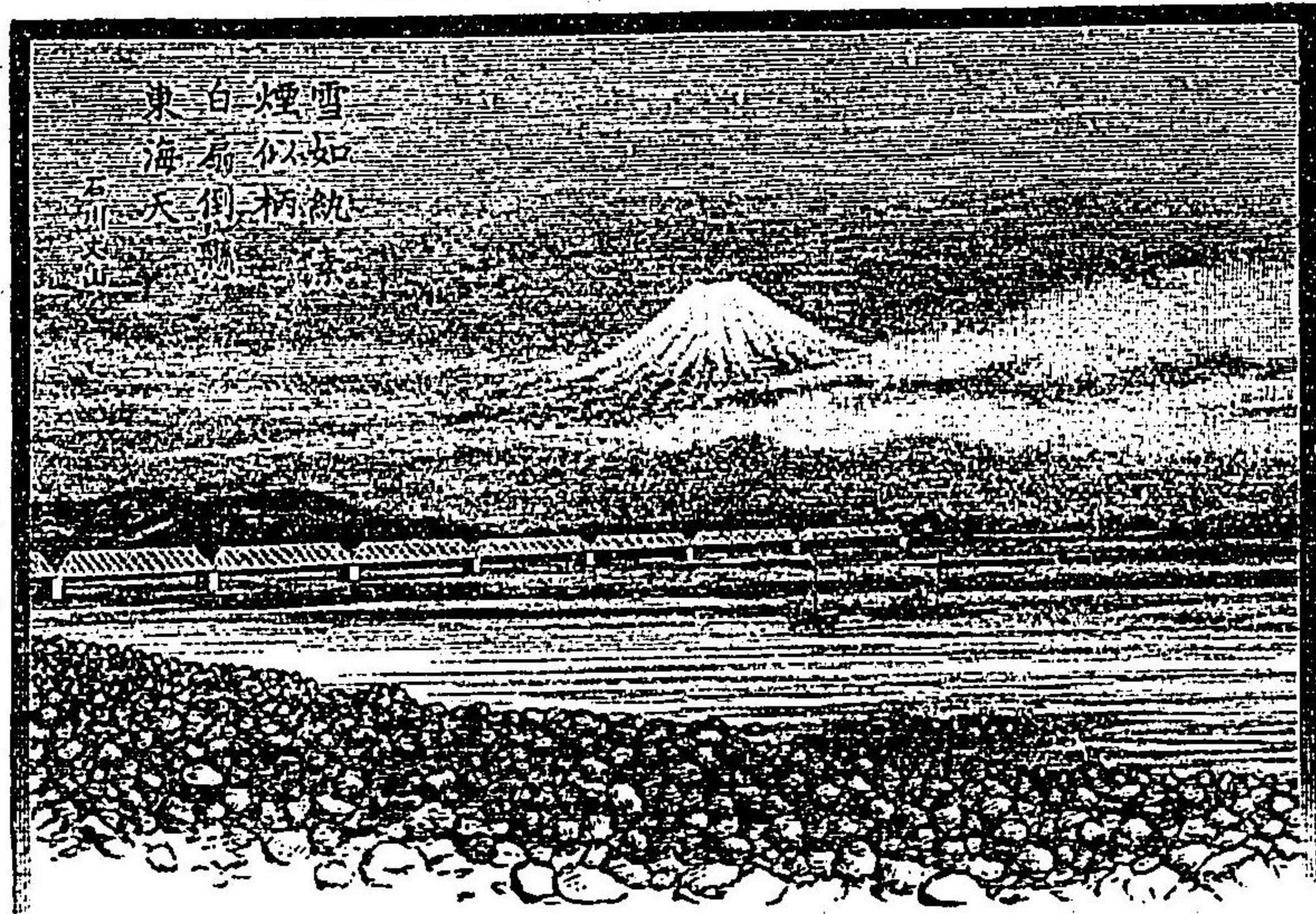
(三) 日本海傾地は幅廣からざる海濱の平野にして、越後及越中平原は主要の農産地なり。若狹、越前、加賀に亘る海濱にも、平地を存し、重なる農産地なり。能登は別に人掌狀をなして、海中に突出し、海岸は急斜にして奇景多し。

山脈

○本區の中央には北日本と南日本との分界なる富士帶あり、此帶以東の諸山脈は、那須火山脈、關東山脈、彌彦火山脈、(名東部沿岸)とし、富士帶以西には、赤石山脈、木曾山脈、乘鞍火山

富士帶

富士川より富士山を望む



脈、美濃、飛驒、高原、白山、火山脈、隱岐、火山脈等あり。

○富士帶は信濃より甲、駿、相を横斷し、伊豆の突出となり、太平洋中の豆南諸島噴起する高峻なる火山脈なり。此の脈伊豆にて天城山彙となり、山麓に熱海の間歇温泉あり、箱根山彙は其の北に連り、山間に箱根七湯涌出す、愛鷹山より本脈の主山なる富士の高峯となる、富士山は本州第

三大火山は  
淺間、那須、  
阿蘇なり

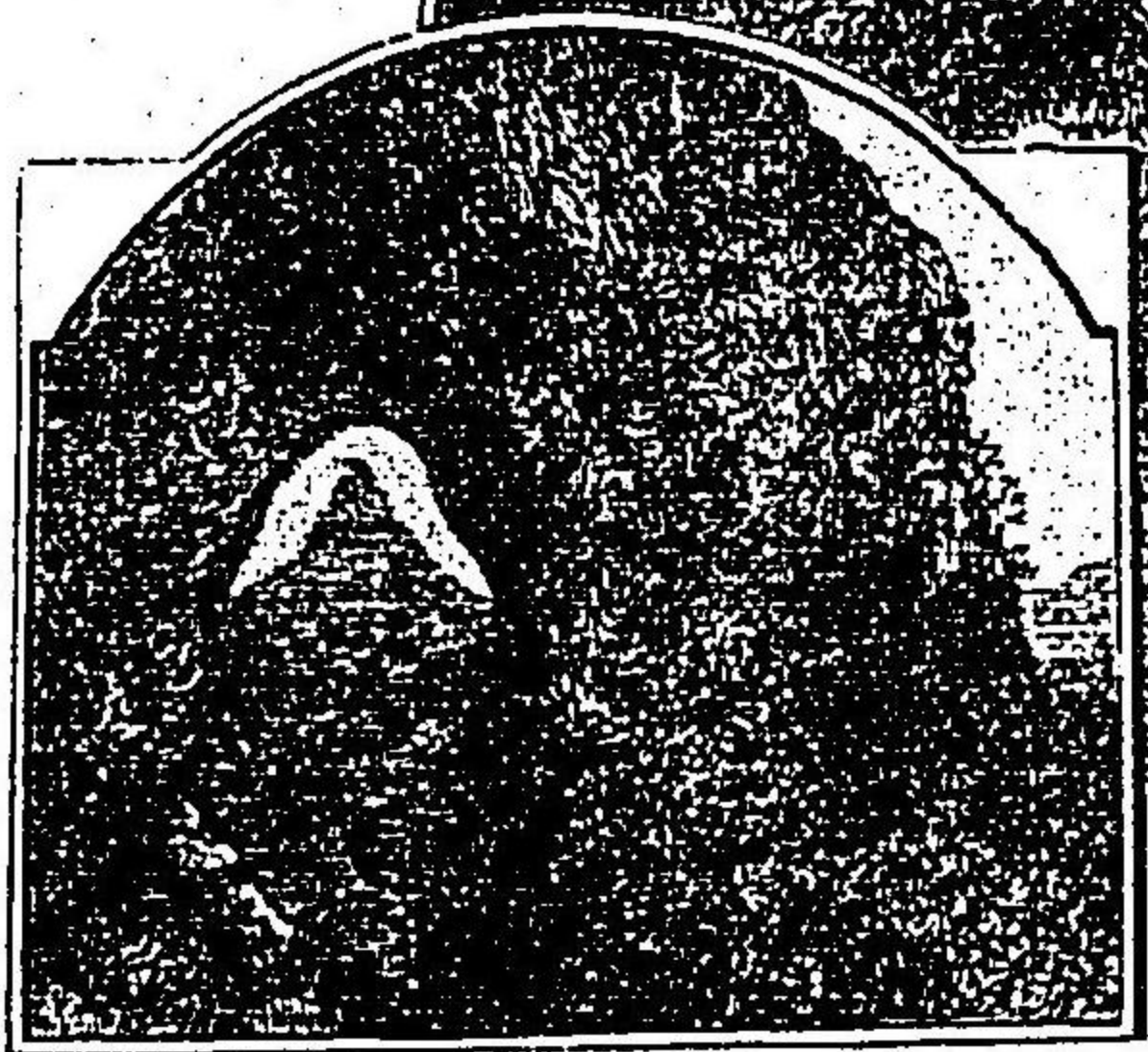
一の高山にして、一萬二千四百六十七尺に聳え、四時白雪消えず、其の觀望の雄壯なること世界に稀なり、頂上には内院と稱する舊噴火口あり、其の周邊には奇巖削立し、重なる頂八峰あり、故に八朶の芙蓉峰の名あり、富士の中腹に寶永山あり、富士山以北、本帶に屬する重なる山は、甲斐の八ヶ岳、鎗ヶ峰、信濃の立科山等なり。本帶は實に日本を兩分する、天然の一限界にして、本邦風土に關係あること甚だ深し。  
○那須火山脈は、本區に入りて、本邦三大火山の一なる那須岳となり、是より分岐し、稍南に走り、下野に入るを、日光山彙とす、山彙中の高峰を男體山と謂ひ、海拔八千二百尺あり、中禪寺湖は山彙の間に湛へたり。本脈は上野の境に於て白根山となり、是れより赤城、榛名、妙義の三山となる。妙義山は奇

日本三奇景  
木曾、妙義、耶  
馬溪



妙義の石門

同第一石門



巖削立し、巖腹に天然の石門を通ずるあり、其の壯觀我が邦三奇景の一なり、本脈は遂に淺間山に會す。淺間山は八千餘尺に聳え、本邦三大火山の一にして、噴烟絶えず、碓氷峠は其の南麓にあり、〔アプト〕式鐵道を以て上下し、二十六の隧道あり。又那須岳より西に折れ、下野、岩代の境を巨るを帝釋山脈と云ふ、帝釋山(六千二百七十尺)は其の主山なり、此の脈の西に連るを三國山脈とす、清水越は上野よ

いたづらに立  
や淺間の夕烟  
里とひびぬる  
なちこの山

天目山は武田  
勝頼戦死の地  
なり

彌彦の自然神  
さび青雲の腰



圖の烟噴山間淺

り本脈を踰えて、越後に入る阪路なり、是より白根山、及吾妻山に連る、草津の温泉は、此の脈間に涌出す。關東山脈は關東平野の北を限り、武藏の北部に於て秩父山、彙となる、武甲山、三峰山、雁坂峠より、甲斐の東北部に蟠まり、大菩薩峠、天目山となり、信濃境に於て富士帯に合す、小佛峠、笹子峠等は此の脈を踰ゆる「坂路」なり、

○彌彦山火山脈は、越後の彌彦山より、米山、妙高山、焼山等を

く日すら小雨  
そはふる

南日本の山  
脈  
赤石山脈

身延山の南麓  
には日蓮宗の  
總本山久遠寺  
あり

木曾山脈

經て、信濃に入りて、高妻、黒姫、戸隠山等峙てり。其他本區には、阿武隈山脈の末端を受け、磐城より常陸に入りて、加波山及筑波山彙となる。房總半島には、鹿野山及鋸山等あり。

○次に富士帯以西の重なる山脈を擧ぐれば、左の如し。

○赤石山脈は三河の海濱より東北に走り、遠江の大日山、秋葉山より、無間山、黒法師山となり、信、駿、甲の國界に於て、最も高峻となり、本脈の主山たる赤石山(三萬五〇百尺)及白峰山(一萬二千尺)等となり、其の東側に身延及七面の諸山あり、東海道の小夜の中山は、本脈を踰ゆる坂路にして、今は堀内、金谷に大隧道を穿ちて、汽車を通ぜり。

○木曾山脈は天龍川を隔て、赤石山脈と駢走し、天龍、木曾、犀川の分水界となる、駒ヶ岳、惠那山等の高峰ありて、本脈に

乗鞍火山脈

は良材に富める森林多く、木曾五木チシコ、ヒノキ、サワラ、ヒノキ、クサキ（樺、檜、榎、樺）の名あり。乗鞍火山脈は兩越及信、飛の境上に、蜿蜒たる高峻の火山脈なり。大蓮華山（十一萬三）立山（九千四百）鎗ヶ岳（一萬〇百）乗鞍岳は一萬尺以上の高峰並列せり。

濃飛高原

○濃飛高原は乗鞍火山脈の西方、濃飛に亘る壯大の山地なり。起伏錯雜して高臺狀を爲し、有名なる位山（ウキヤマ）此の中にある。

白山火山脈

○白山火山脈は山陰道より來り、若狹の青葉山（アヲキヤマ）を経て、越前の大日岳、荒島岳、及加賀の南部に於て、最も重厚の山彙をなせり。山脈中に抽出する白山は、海拔八千八百尺に聳え、多く白雪を戴けるを以て、白山の稱あり。此の脈北に延びて、礪波山となり、有名なる俱利伽羅谷あり。隱岐火山脈は隱岐より來り、能登の北部を經、海を越へて、佐渡の金鑛に名高き金北

隱岐火山脈

俱利伽羅谷は古戰場なり

水系

山に連る。その他近江、伊勢に亘りて鈴鹿山脈あり。鈴鹿山、膽吹岳、國見岳等峙てり。又不破の關は此の脈を踰ゆる古の關門にして、其の關ヶ原は昔徳川氏覇業の基をなせる古戰場なり。

大平洋水系  
利根川

●水系 地勢中央に雄峻の高地ありて、南北に傾斜するを以て、分水界は此の中央高地にあり。故に中央高地より兩斜面を降る水は、太平洋水系、及日本海水系となる。  
○太平洋水系は排水界の廣きを以て、自然に長大の河流を涵養せり。利根川は三國山脈、及日光山彙より降る諸水を、上野の平原に於て集め、關東平野の間を東南に流れ、行々諸水を合せ、下總の關宿（セキボ）に至り、本支兩流に分る。其支流は江戸川と稱し、武藏、下總の境を限りて、東京灣に注ぐ。本流は東南に

流れ、鬼怒川、小貝川等を合せ、更に手賀沼、印旛沼、霞ヶ浦等の水を入れ、銚子港に至り、海に注ぐ。長さ七十四里、下流は川の廣さ一里餘に及、水深く流れ緩に、汽船上下し、運送灌漑の便あること、本邦第一とす、又關東一の大河なるを以て阪東太郎の稱あり。

天龍川

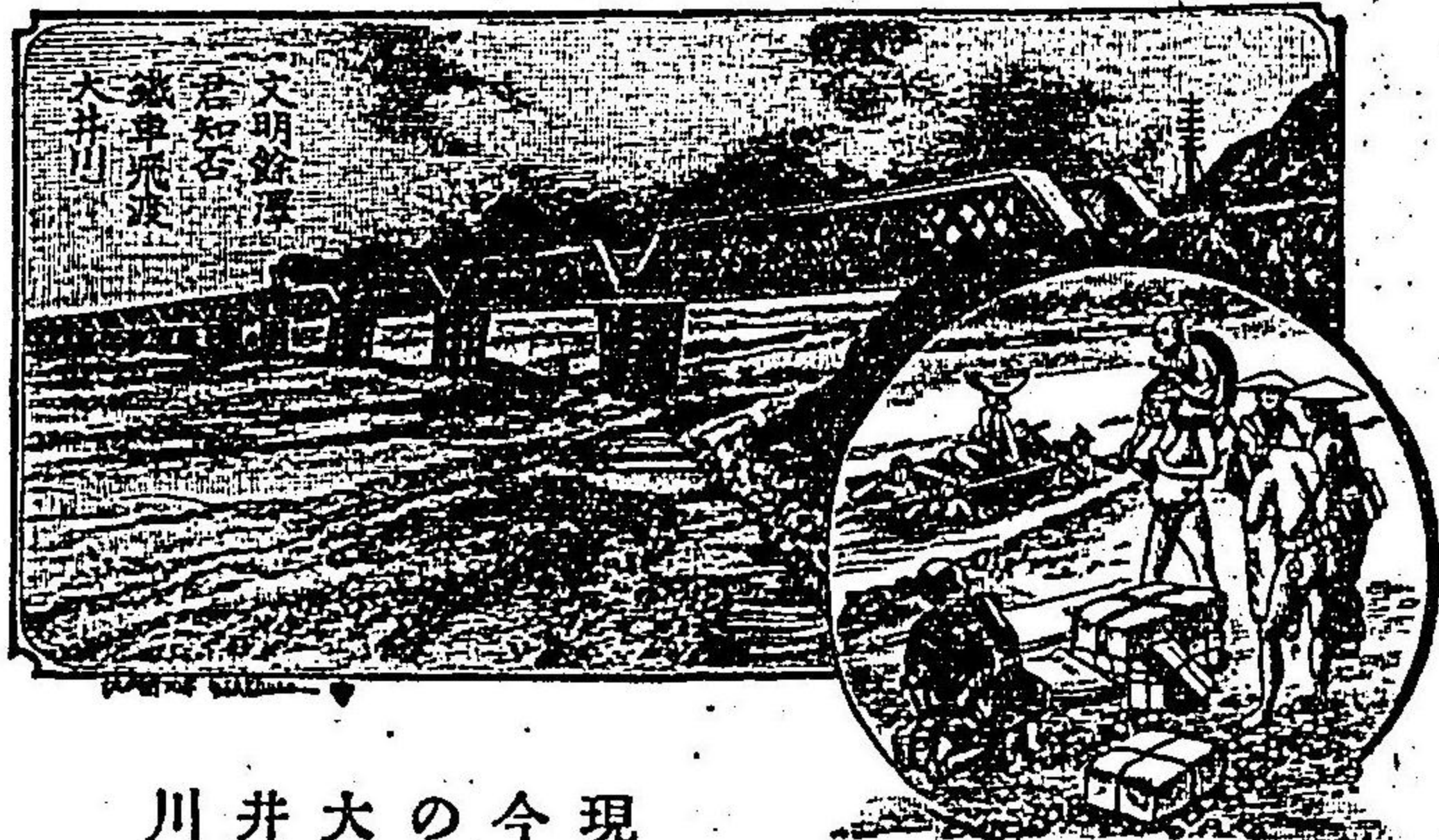
○天龍川は信濃の諏訪湖に發し、南流して遠江に入り、掛塚に至りて、遠江灘に注ぐ。長さ五十六里あれども、水淺く舟楫の便を缺く、其の鐵橋は長さ八百餘間、東海道線路第一の長橋なり。

大井川

○大井川は白根山より發し、駿遠の國境となり、駿河灣に注ぐ。流れ急に水淺く、運漕の便なく、却て往々水害を蒙る、下流には往時有名の「大井川渡」ありしが、今は鐵橋を架して汽車

大井川は管運  
橋渡しありき

木曾川



川井大の今現

川井大の昔

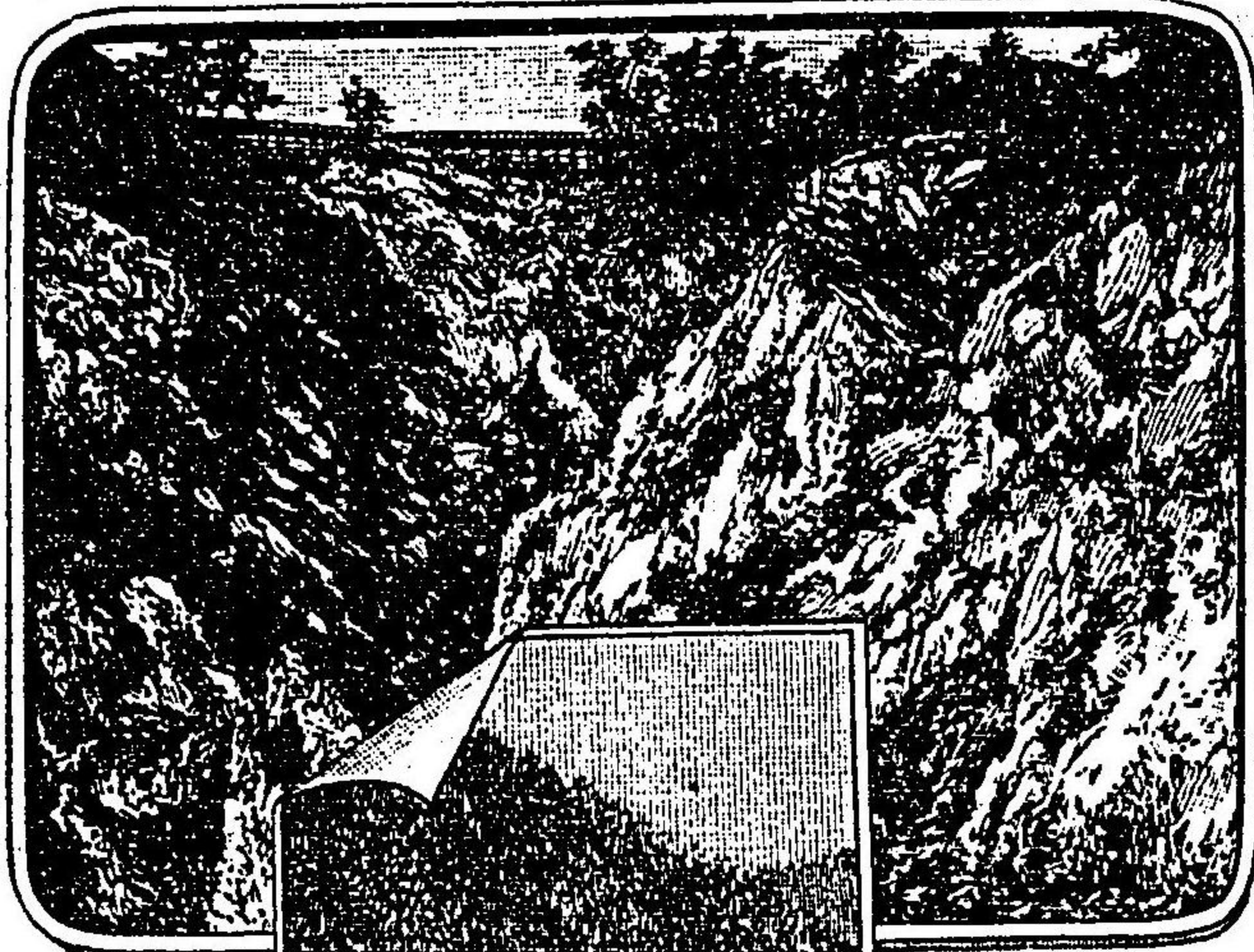
を通せり。

○富士川は甲斐の峽間に於て、釜無、笛吹、荒川等の水を集めて、駿河に出で、駿河灣に注ぐ、日本三急流の一にして、十八里の水程、僅に六時間にして下るべく、兩岸奇景に富めり。

○木曾川は信濃の小木曾山中より發し、乗鞍山脈と木曾山脈の峽間を刻み、所謂木曾谷の奇溪を作り、木曾の棧道「寢覺の床」等の奇景あり、十數里の間深山幽谷を通じ、日本三奇景の一と稱せらる、美濃に於て、飛驒より來

る飛驒川、長良川、及楫斐川等を合す、下流は緩にして、強雨に

逢へば、流域は氾濫の害を被る、然れども其の灌域は、所謂濃尾、沃野にして、米穀能く實れり、以



木曾釣橋及  
寝覺の床

○三河には、矢、  
矧川、豊川、太平  
川の三河あり、  
是れ國名の起  
因なり。

○武蔵には東に荒川、西に多摩川あり、荒川は秩父山より發

隅田の下流は  
學生の短艇競  
漕盛なり

六郷川の下流  
に矢口の渡あり

日本海水系

信濃川

し、下流は有名なる隅田川にして、東京は其兩岸に建てり、其の東岸の向島(墨田)は、櫻花の候には、都人蜩集し雑沓實に甚し。此の兩岸は名所少からず、水深く流れ緩に、運輸の便あり。多摩川は西部を東南流し、廣き農耕地を開き、又鮎の名産あり、下流を六郷川と稱す。

○常陸に那珂、久慈兩川あり、相模に馬入、酒匂の兩川あり。駿河に、急流安倍川あり、伊勢には雲出川、宮川、五十鈴川あり。

○日本海水系の河流は、中央高地の海に迫るを以て、長大の流れを成す能はず。獨り信濃川は、峽間に沿ひ、或は山脈を破るを以て、本州第一の長流なり。其の上流千曲川は、甲斐の金峯山に發し、北流して犀川と合す、此の合流の間は、有名なる川、中島の地なり。尚ほ北流して越後に入る、此の流は信州第

神通川は一名  
な吳江と云ふ

湖沼

山中、河口、  
蘆、西、本葉、  
精進、四尾連、  
及浮島沼(以  
上富士八湖)

一の農産地なり。  
○越中に射水、神通、黒部、常願寺の四大河あり。射水川は飛驒白川の末にして、國の西部を貫き伏木港に注ぐ。神通川は飛驒宮川の下流なり、國の中央を貫流し、富山市を過ぎ越中灣に入る。此の諸大河の灌域は、地廣く土肥へ、越中米の産地なり。

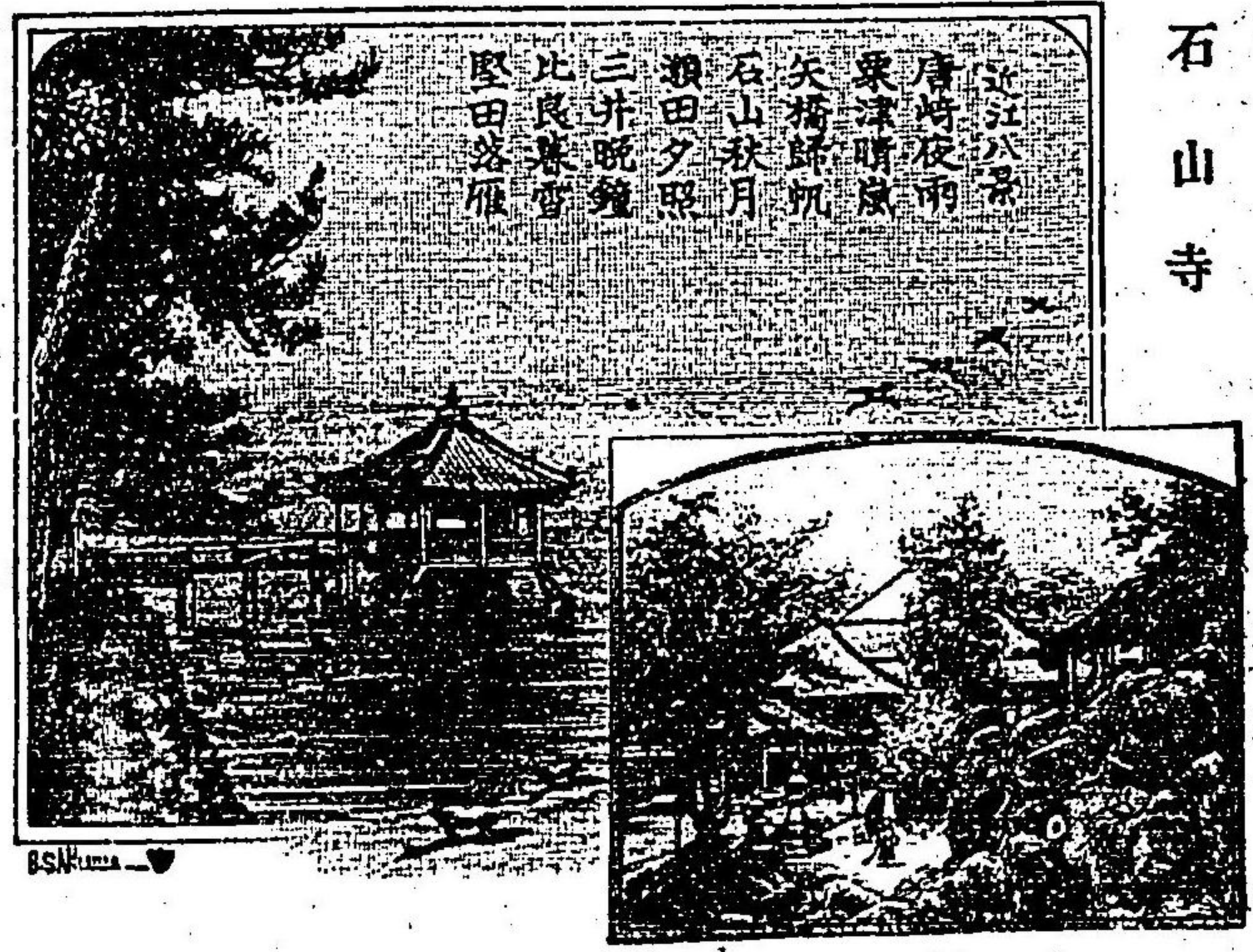
○加賀に手取川あり。越前の日野川は、足羽川、及九頭龍川を入れ、三國港に注ぐ。此の三大河域は、重要な農産地とす。

●湖沼 霞ヶ浦は本邦第二の大湖にして、汽船白帆絶えず湖中を往來す。之に通ずる北浦、印旛沼、手賀沼等あり、共に關東平原窪地の一部なり。富士の裾野を環りて、富士八湖あり、甲斐の川口、山中の湖を主とす。遠江の濱名湖は湖邊決して、

琵琶湖

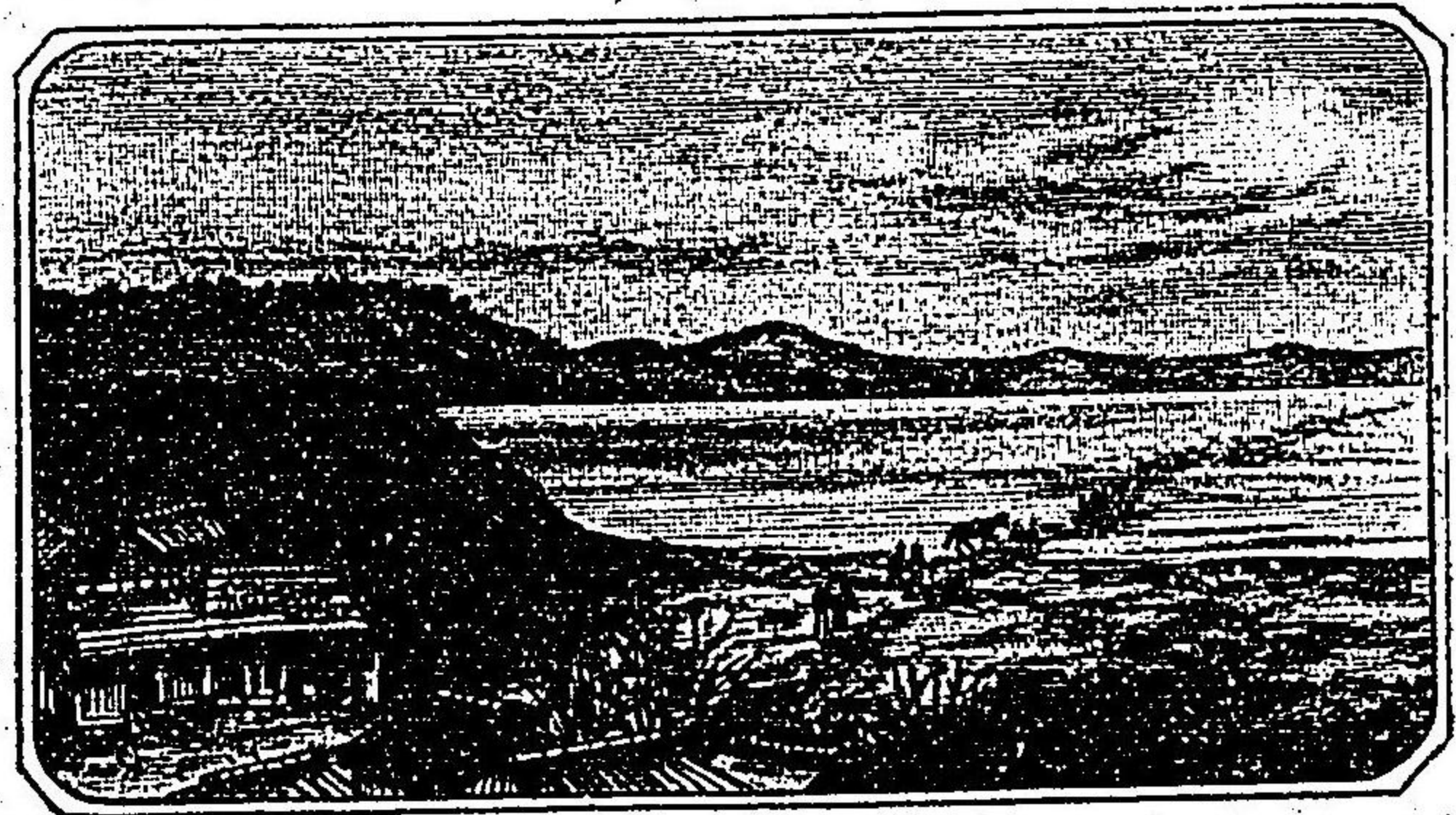
琵琶湖

石山寺



本邦の雙美とす。湖上汽船往來し、又灌漑に便なり。其北に余吾湖あり、兩

海に通ぜり、故に今切の名あり。○琵琶湖は日本第一の大湖にして、風光清絶にして、近江八景あり。富士山と並び稱して



行通之馬人氷結湖訪諏

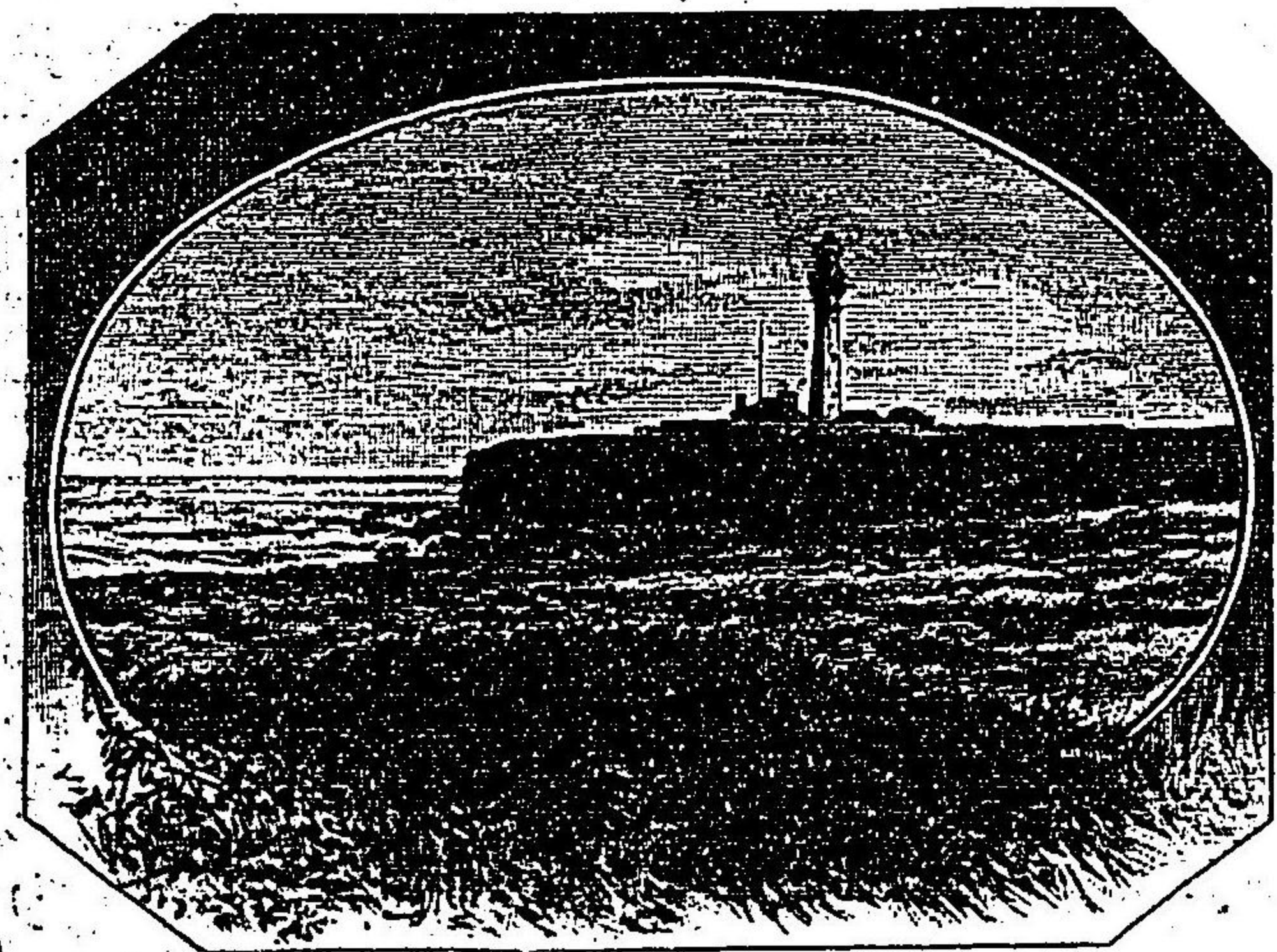


北海道

湖の間は有名なる賤ヶ岳の古戰場なり。信濃の諏訪湖は、中央高地の山間にあれば、嚴冬は湖面氷結す、日光山中の中禪寺湖は風光秀麗なり。

○日本海岸に在る湖沼は、多く潟と稱するものにして、即ち越前の北潟、加賀の河北潟、柴山潟、能登の邑知潟等ありて、何れも運輸灌漑の便あり。若狹に三方湖あり。

犬吠岬の燈臺



沿海

犬吠岬には有名な燈臺あり

●沿海 中仙道六國と、東海道の伊賀、甲斐二國の外は、皆濱海國なり。太平洋方面は、海岸線の

太平洋沿岸

九十九里濱は鰯漁の盛なること我が國第一なり

屈曲に富み、良港少なからずと雖も、日本海方面は、出入少く港灣に乏し、是れ表裏の相異なる一特相なり。

○太平洋沿岸は、常陸の沖を鹿島灘と稱し、犬吠岬其の南に突出せり、上總の沿岸は、鰯の漁場を以て有名なる九十九里濱にして、房總半島の南海横上を、房州沖と唱へ、半島の東端を、狹野岬(上)とし、南端を野島岬(安)とす、又西に突出して東京灣口を

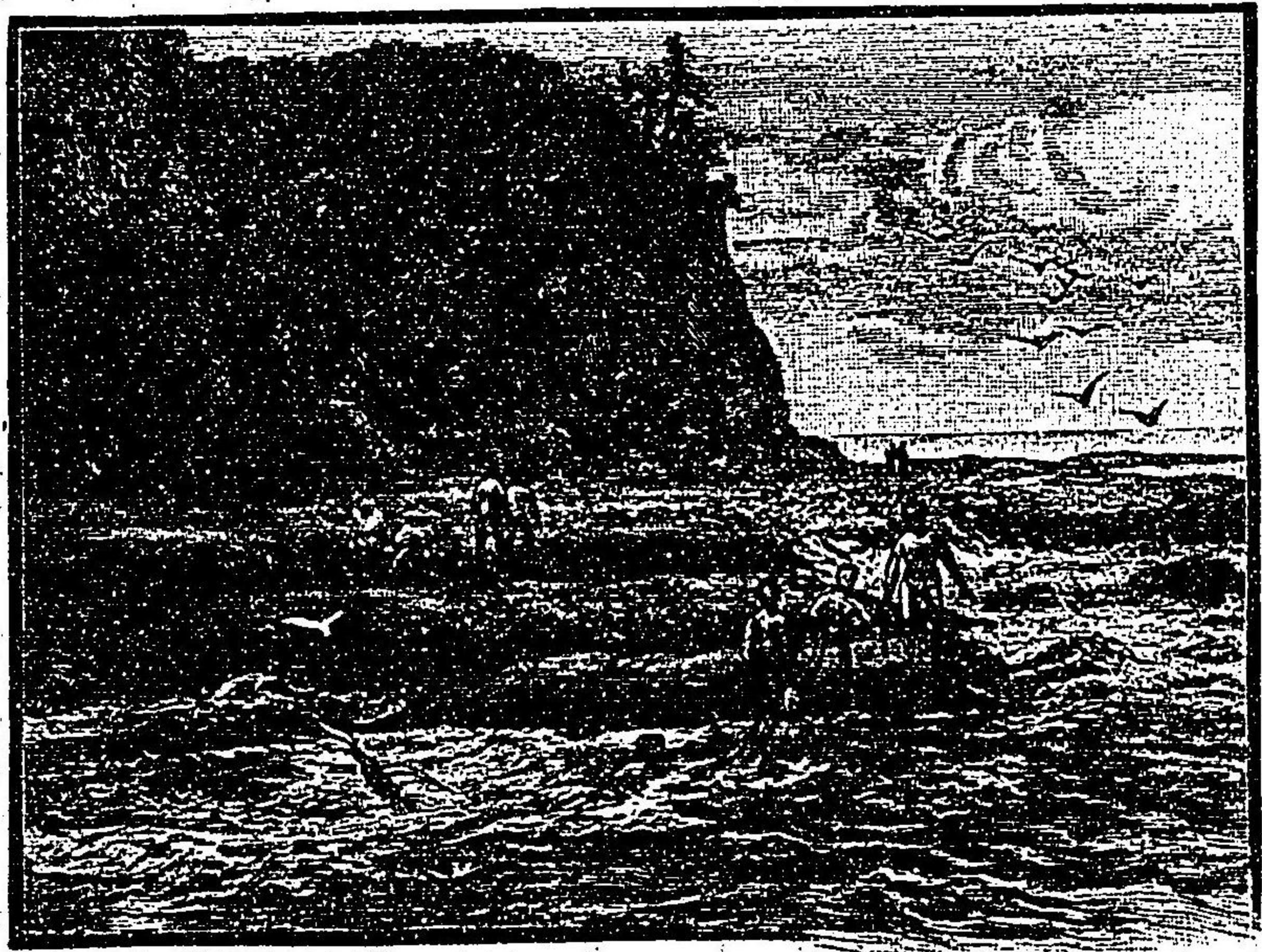
横須賀軍港



擁するは、洲崎なり。

○東京灣は房總及三浦の兩半島に擁せられ、南北十三里の大灣入なり。東岸に木更津、北條、館山の諸港あり。西岸に横濱、横須賀港あり。其の南の觀音崎は、上總の富津砂嘴と相對し、東京灣の咽喉を扼せり。三浦半島の三崎、真鶴崎の間は、相模灘にして、其の沿岸に鎌

横須賀軍港に  
は東洋に有名  
なる造船場あり



田子浦

「早乙女や田子へ植込む富士の影」

倉江の島、大磯等あり。都人士の遊覽常に絶えず。

○伊豆半島は南に出で、其の南端を石廊崎と云ひ、遠江の御前崎と相對し、其の間に駿河灣を抱けり。沿岸に興津、蒲原、田子浦等あり。白妙の富士の高峯を後に控へ、風景絶佳なり。清水港は、三保の松原に擁せらるゝ良港なり。

○三河の渥美半島は西に挺出し、其の端の伊良湖岬は、志摩と相對して、一大灣を擁す。灣内に知多岬出で、海を東西に分つ。東は衣ヶ浦にして、西を伊勢海とす。伊勢の沿岸には阿漕浦、及二見浦等の勝地あり。四日市は五港に亞げる要港にして、本州中部、及北陸の貨物は、多く此の港によりて集散す。其他桑名、熱田の良泊あり。志摩の大玉崎より、伊豆の石廊崎に至る迄は、遠州灘にして、黒潮緩流は東北に流通せり。

日本海沿岸

○日本海沿岸は怒濤に嚙まれ奇景に富めり。丹後、越前間は著しき灣入にして、其の間に岬灣の出入多し。若狹に小濱灣あり、内に小濱港あり。越前の立石岬は北に出て敦賀灣を作り、内に有望なる敦賀の要港あり。越前崎は遙に丹後の與謝半島を雲烟の間に望むべし。其の南に三國港(坂井)あり。加賀は海岸の出入に乏しく、唯一の金石港あるのみ。

○能登は人掌状をなし、能登島なる球を受けんとするに似たり。其の掌内は七尾入江にして、指頭に當り、珠洲岬あり。此の附近暗礁多く、航海甚だ危険なり。掌背には輪島港あり。能登半島の蔭にある越中灣は、半圓形をなし、内に伏木及魚津あり。是れより越後海岸に連れり。

處誌

●處誌 本區は我が國の中央主要部を占め、風土習俗自ら

關東氣質  
關西氣質

本邦の標本たり。東海道は地味肥え、産物多く、且交通便なる沿海を占め、形勢優勝なるを以て、民物夙に繁庶し、賴朝、幕府を鎌倉に開きしより、本邦の政權は久しく此の地にあり。家康、幕府を江戸に開くに至り、再び本邦の中心は、此の地に集り、人文も亦夙に發達し、我國の舊習古格は、概ね、本道に養成せられ、歴史上至大の關係を有せり。

○關東平原の人は、濶達にして、任俠を帶び、古來關東武者は、驍勇の稱ありき、然れども、近時都人士は、奢侈に流れ、輕佻に赴く傾きあり。關西の人は、質は温和にして、伶俐なり。中仙道は山地なれば、其人民は概して淳樸にして、強毅なれども、平野に住するものは、蠶業盛にして、富を得ること易きにより、柔弱に流れ、驕奢に趨る風あり。近畿地方は、屢々兵を被り、交通

東京府

も亦從て繁く、故に智慮に富み、辯舌爽快なり。  
●東京府 管轄 武藏の一市、八郡、伊豆七島、小笠原島、硫黄島。

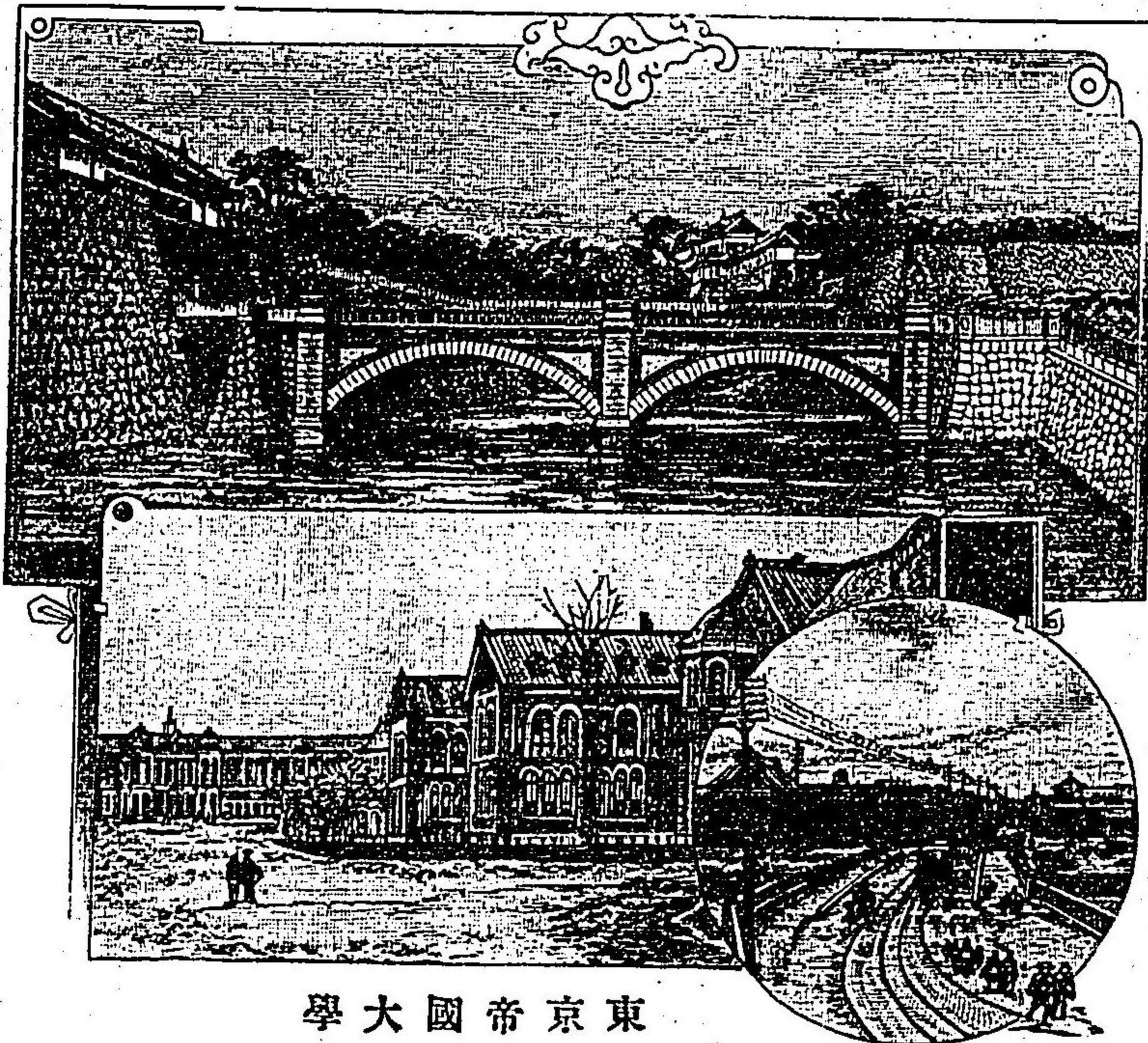
關東平野の南部を占め、南は内海に濱し、北は秩父山彙蟠まり、荒川、多摩川は其の東南に流る。往昔は武藏野と稱し、荒涼の原野なりしが、今は我が國の最も重要な處となれり。

○東京市は我帝國の首府にして、南は東京灣に臨み、北は關東平野を控へ、中に隅田川を帶へる形勢無雙の地位を占め、東洋第一流の名都たり。東西三里、南北四里に亘り、人口百五十萬を有す。市の西北部は低き丘陵に據り、其の東南一面は海及河に沿へる平地なり。故に「山の手」「下々町」の稱あり。市は之を十五區に分つ、麴町區は市の中心にして、丸の内には宮

我が庵は松原  
つゞき海近く  
富士の高根を  
軒端に見る  
(大田遺蹟)

宮城

千代田の宮城



東京帝國大學

東京日本橋

城あり、溝渠之を繞れり、諸官省、國會議事堂、兵營等は、多く此區内にあり、日本橋、京橋、神田の三區は、商業の最も繁盛なる所にして、豪商巨賈多し。芝區は西端に在りて、芝公園あり。麻布、赤坂、四谷、牛込の四

區は市の西部を占め、麻布に第一師團、赤坂に離宮あり、小石川、本郷は市の北部にして、小石川に植物園、本郷に東京大學、高等師範學校、第一高等學校を始め、各種の學校多し。下谷、淺草の兩區は市の東北部に當り、商賣又繁昌し、下谷に上野公園、淺草に淺草公園あり。本所、深川の兩區は、隅田川の東岸にあるを以て、江東の稱あり。市中到る所、殷賑にして、文明の事業、概ね具備せざるはなし。

○市民は古より、蒔繪、細工、鼈甲細工、錦繪、裝飾品等製造の技に長じ、近來書籍出版、印刷業、學術器械、及歐米模造品等の製作盛なるは、他に及ぶ所なし。此市よりの陸路は、東海道、甲州街道、中仙道、奥羽街道等、大幹線の起點となり、鐵道は、東海道鐵道、日本鐵道、信越鐵道、甲武鐵道、總武鐵道等の起點となり

小笠原群島

伊豆七島  
大島、利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島

海路は東京灣、及横濱より各所に通ぜり。  
○八王子町は甲州街道に當る一都會にして、生糸、絹布を以て著名なり。青梅は綿を産し、大森は海苔の産あり。

○豆南諸島は本府の管轄に屬し、伊豆七島は大島(周回)を最大とす、中央に三原山(活火)あり。八丈島は下田港を距る四十七里にあり、八丈絹を産す、此の島と御倉島の間、有名なる黒瀨川あり、黒潮の流勢急なる所なり。

○小笠原群島は、下田港



小笠原島産物

の南二百餘里にあり。文祿二年、小笠原貞頼の發見せし島なれば此の名あり。古は無人島と稱せしが、今は住民一萬に近し。父島、母島、顰島の三群島に分れ、父島は島廳所在地なり。此の諸島には鳳梨、珈琲、香蕉、椰子、信天翁、大蝙蝠等、熱帶的產物あり。其の南(北緯二十四度五度の間)に、硫黃、南硫黃、北硫黃の三島あり。

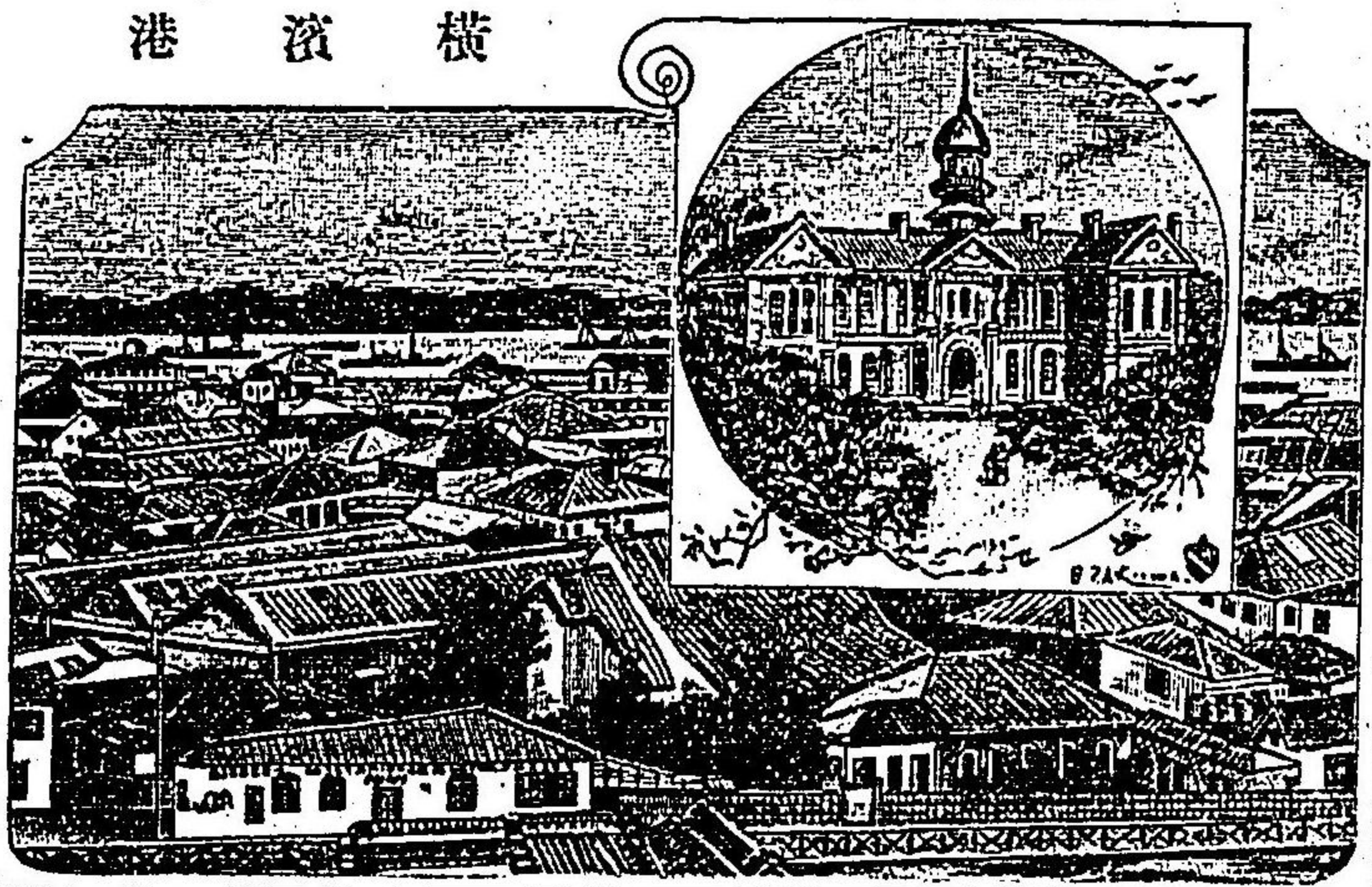
### 神奈川縣

●神奈川縣 管轄 武藏三郡相模全國

○横濱市は東京灣に臨み本邦最盛の開港場にして、内外の船舶常に輻湊す。重にも蠶絲、茶、絹手巾、羽二重、銅等を輸出す。輸入品は綿花、砂糖、羅紗、石油等なり。安政六年互市場となりし以來、俄に繁盛に赴き、今や二十萬の人口を有し、東京との間、僅に十八哩、汽車の往復甚だ頻繁なり。市に神奈川縣廳在り。神奈川町其の北にあり。

○相模は山を負ひ、海に臨み、東は關東、八州の平野に接し、西に函嶺の峻を控へ、形勢頗る佳なり。小田原町は箱根の東麓にあり、昔北條氏數世據りし地なり、相模洋の濱に鎌倉あり、是れ源頼朝の覇府を定めし地なるを以て舊跡多く、頼朝を始め、源家及北條數代の英主謀臣の苔下に眠れる墳墓あり。又鶴岡八幡、鎌倉五山(建長寺、圓覺寺、壽福寺、淨知寺、淨明寺)大佛、及大塔宮の土窟、鎌倉宮等あり。其他稻村ヶ崎、腰越、七里ヶ濱の潮聲、由井ヶ濱の砂場等、皆懷古の

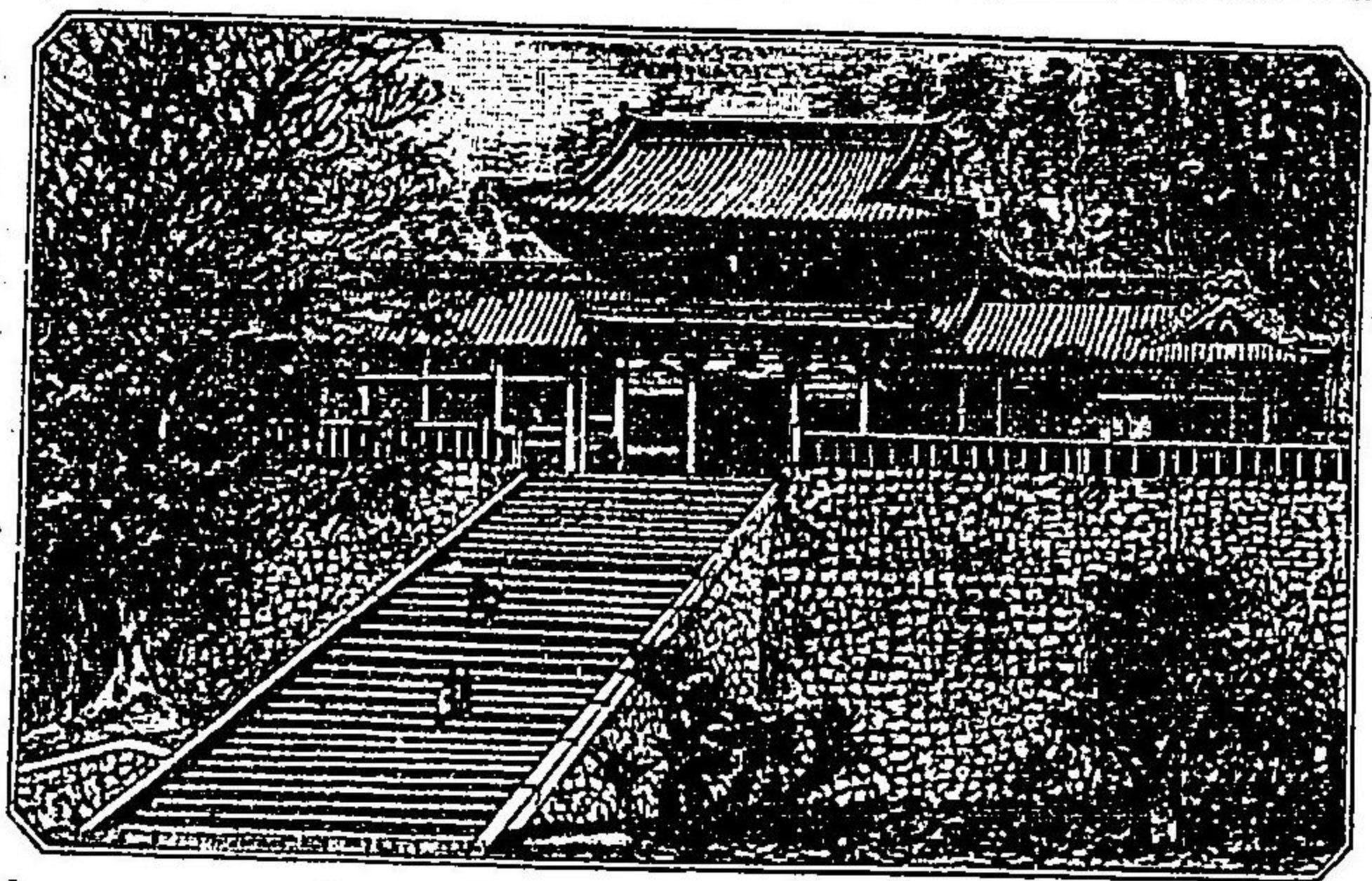
關稅濱橫



港濱橫

横須賀軍港

埼玉縣



鶴岡八幡宮

料ならざるはなく、都人士の訪ふ者多し、今は鐵道の便あり、三浦半島に在る横須賀は、我が軍港にして、第一海軍區の要鎮なれば、海兵團あり、要塞砲兵あり、又堅固の船渠あり、同半島に在る浦賀、逗子、葉山、三崎等は、海濱療養の爲め、都人の來遊多き所なり。

●埼玉縣 管轄 武藏の九郡

○本縣は武藏の北半部の平原地方を管す。縣廳所在地なる浦和町は、其の南部に在り、東京を距ること僅に十三哩、交通便利なり、其の外川越、熊谷等名邑あり。

千葉縣

●千葉縣 管轄 上總、安房の二國及下總の六郡

佐倉に堀田氏(拾遺石)の舊領地

○本縣に屬する下總は、關東平原の最も低平の部を占め、小都會多し。千葉町は東京灣に臨み、總武鐵道線路に當り、東京へ二十一哩あり、第一高等學校醫學部を置く。佐倉町は印旛沼に瀕し、第二旅團所在地にして、佐倉炭の名産あり。其東部の成田町には、有名なる新勝寺(成田不動)あり、尙ほ東すれば、佐原あり、本邦地學の祖、伊能忠敬翁の郷土なり、此等の各所は、皆鐵道連絡せり。上總は房總半島の地なり、東京灣に臨みて、木更津あり、外洋の濱は、九十九里濱にして、一の宮、勝浦の小都會あり。安房は房總半島の南部を占め、高僧日蓮出身の地として、著名なり。東京灣口に、北條、館山の小都會あり。

茨城縣

●茨城縣 管轄 常陸一國及下總の三郡

水戸市は徳川氏(三十五萬石)の舊城市

### 栃木縣

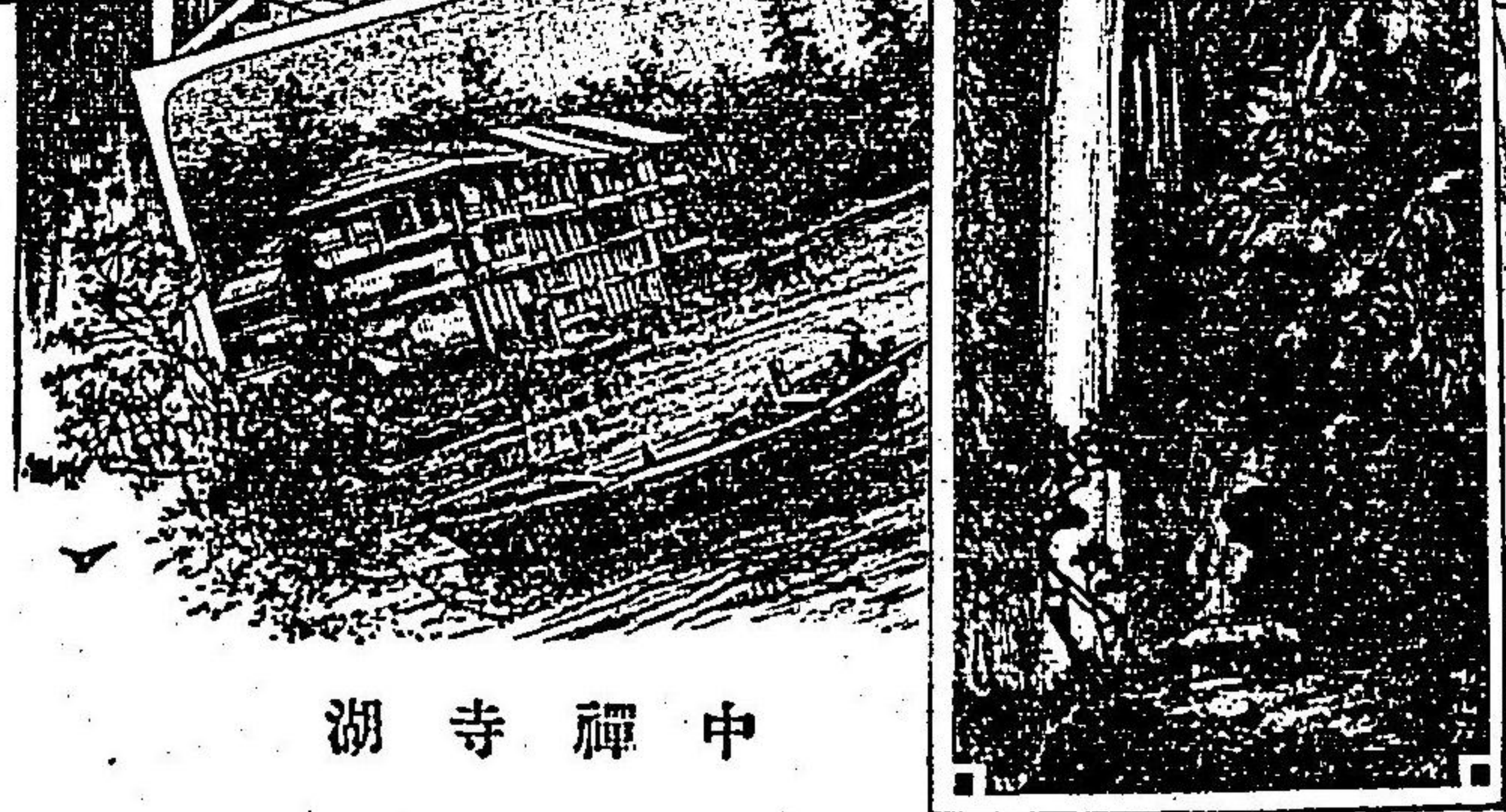
宇都宮は月田氏(七萬石)の舊城地なり

○常陸は關八州の東端に在り、水戸市は縣廳所在地にして、那珂川の流域を占め、人口三萬三千、鐵道各地に通じ、關東々端の貨物集散地なり。維新前には弘道館あり、英主徳川光圀卿及近世の偉人藤田東湖の出身地なり。霞浦の北岸に土浦、石岡の兩町あり。下總には利根河畔に古河あり、結城は其の東北にありて、紬を産す。

#### ●栃木縣 管轄 下野一圓

○下野は上野と共に兩毛と稱し、源家の根據地にして、新田、足利の起りたる所なり。其の南半は關東平野に屬すれども、北半は山彙甚だ重疊せり。宇都宮市は縣廳の在る所、東北、日光、兩鐵道の要衝に當り、人口三萬餘、市街繁盛なり、蒲生君平此地に生る。足利町は絹織の産地として著名なり。栃木町は

日光の陽明門



中禪寺湖

宇都宮に次げる都會なり。足尾町には本邦第一の銅山あり。日光町には結構壯麗なる東照廟あり。男體山高く後に聳えて、山間に中禪寺の湖を湛へ、其の水瀉て華嚴の瀑布



となる、其の附近風景秀美の地多し。  
小山は奥州、水戸兩鐵道の分岐する所、鹿沼は麻、眞岡は綿の產地なり。

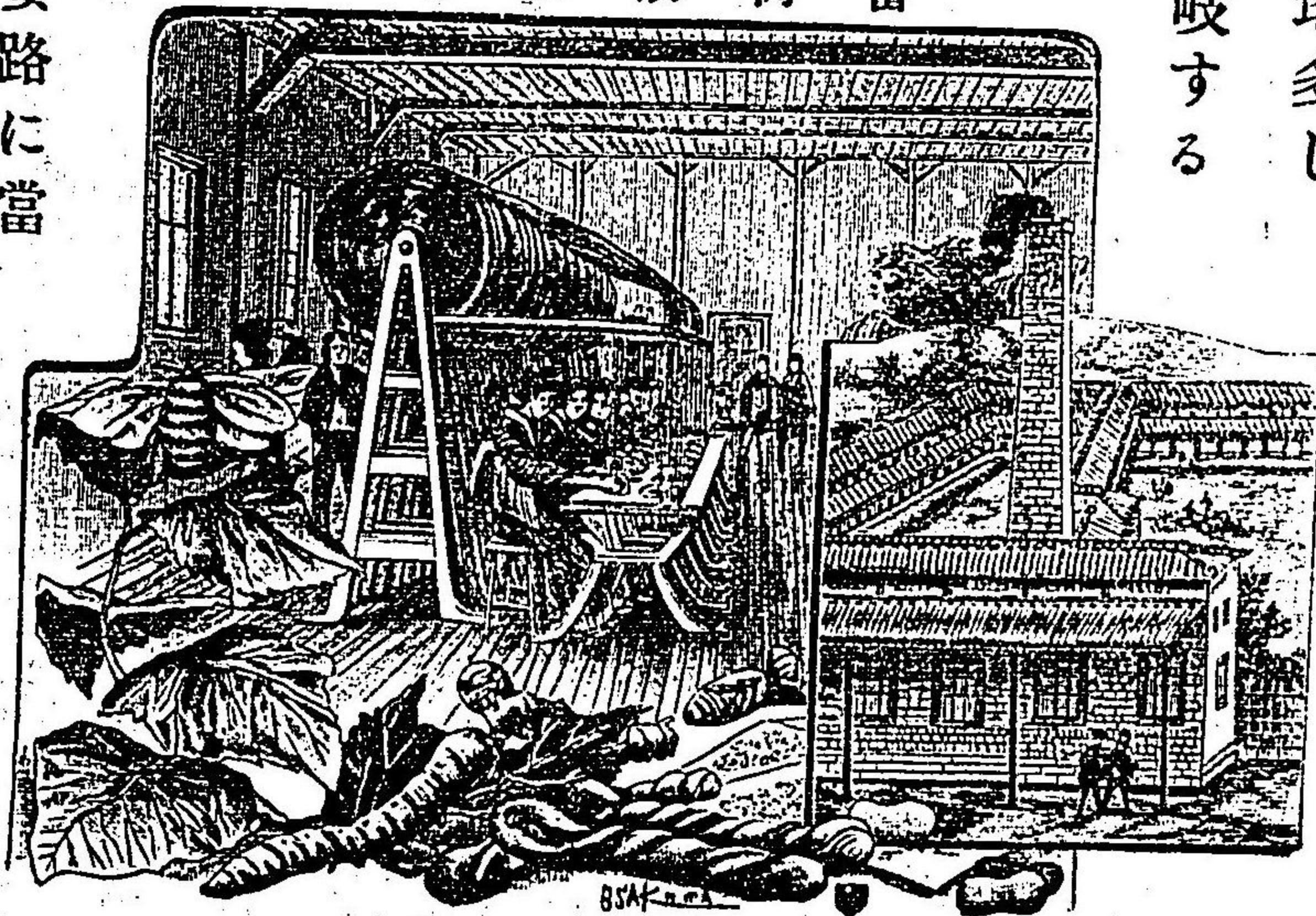
群馬縣

前橋は松平氏(十七萬石)の舊城地なり

高崎は大河内氏(八萬石)の舊領地なり

●群馬縣管轄上野全國。  
○本縣の南は關東平野に屬し、繁盛なれども、北部は山岳起伏せり。平野の中央に前橋市あり、縣廳所在の地にして人口三萬三千、市街繁盛なり、殊に蠶絲の賣買を以て著名なり、中仙道の要路に當

富岡製絲場



長野縣

り、鐵道交通の便を占めたり。高崎市は機業地にして、歩兵第十五聯隊あり。桐生町は絹布の產地なり、其の他伊香保の溫泉、富岡の製絲場、伊勢崎の織物等は本縣の名物なり。

●長野縣管轄 信濃全國

○信濃は日本中央の大國なり、其の境十州に連り、本邦山脈の集合點にして、地勢一般に高隆なり。長野市は千曲川に臨み有名なる善光寺あり、直江津鐵道線路に當り(東京へ汽車九時間程)人口三萬餘漸次繁盛に赴かんとす。縣の中央にある松本町は舊城市にして蠶業盛なり。上田町は養蠶及製絲業盛なり。飯田町は天龍河畔の名區にして、諏訪湖畔に上下諏訪あり、松代は千曲河畔の小都會なり。

山梨縣

●山梨縣管轄 甲斐全國

○本縣は富士山の陰にあり、且關東、赤石の兩山脈東西より迫りて、四面皆山を負ひ、所謂甲斐(峽山の)の名あり、甲府市は其の中央の窪地に位し、人口三萬七千、市況繁盛なり、曾て武田氏の割據せし舊趾あり、勝沼町は葡萄の産を以て名あり、郡内(東部の)は甲斐絹、郡内織の産地にして、猿橋町に奇工の猿橋あり、ハナカケ澤は駿河に下る富士川の渡場なり。

静岡縣

●静岡縣 管轄 駿河、伊豆、遠江の三國

○駿河は駿河灣に臨み、富士山を負ひ、頗る風景に富めり、静岡市は安倍川の灌域に在り、元と徳川氏の封地にして、駿府と稱したり、東海道鐵道の要路に當り、東京、名古屋の中間を占め、(東京へ百三十哩、名古屋へ百十五哩)市街繁盛にして、人口四萬あり、漆器、竹器等の産あり、歩兵第三十四聯隊屯在す、沼津町は氣候温

沼津は水野氏  
(五萬石の舊  
城地なり)

ヘルリ氏來著  
地

和に風光佳なり、清水は開港場にして、田子浦等も濱海の名區なり。

○伊豆に三島町あり、豆州第一の都會にして、箱根峠の西麓にあり、三島神社は有名の古社なり、下田港は嘉永年間米艦來着を以て名あり、熱海は有名なる間歇温泉あるを以て繁昌せり、三ヶ山北條、修善寺等は名邑にして、源氏の古跡多し。

○遠江は濱名湖あるを以て、近江に對して此の名あり、濱松町は濱名湖東に在り、東西兩京の中央(東京へ一六七哩、京都へ一六二哩)に位し、市街繁盛なり、其の北に三ヶ原の古戰場あり。

愛知縣

●愛知縣 管轄 尾張、三河の一國

○尾張は濃尾平野の南部を占め、全國無比の沃野なり、古來此の間に身を起したる偉人多く、中古時代は英雄の争地と

名古屋の北に  
瀬戸の製陶場  
あり

熱田神社に草  
薙寶剣を奉祀  
す



名古屋城

頂に金鯨を装へるを以て金城の稱あり。今、第三師團司令部を置く。市には愛知縣廳、控訴院等あり。漆器、七寶焼を始め、諸種の手工品を産す。熱田は熱田神社のあるを以て、宮とも稱

なれり。沃野の中央に建てるは、即名古屋市にして、東西兩京の要路（東京へ二三五哩）に位し、汽車の往復繁く、水運には熱田、半田、武豊の諸港を控へ、交通甚だ便に、諸方の貨物輻輳せり、人口已に二十五萬に達し、帝國第四の大都なり。元徳川三家の一なる尾州侯（六十二萬石）の城市にして、其の城の天守閣

し、船舶の發着繁し。小牧、長湫、及桶狭間は有名の古戰場にして、國の東部にあり。

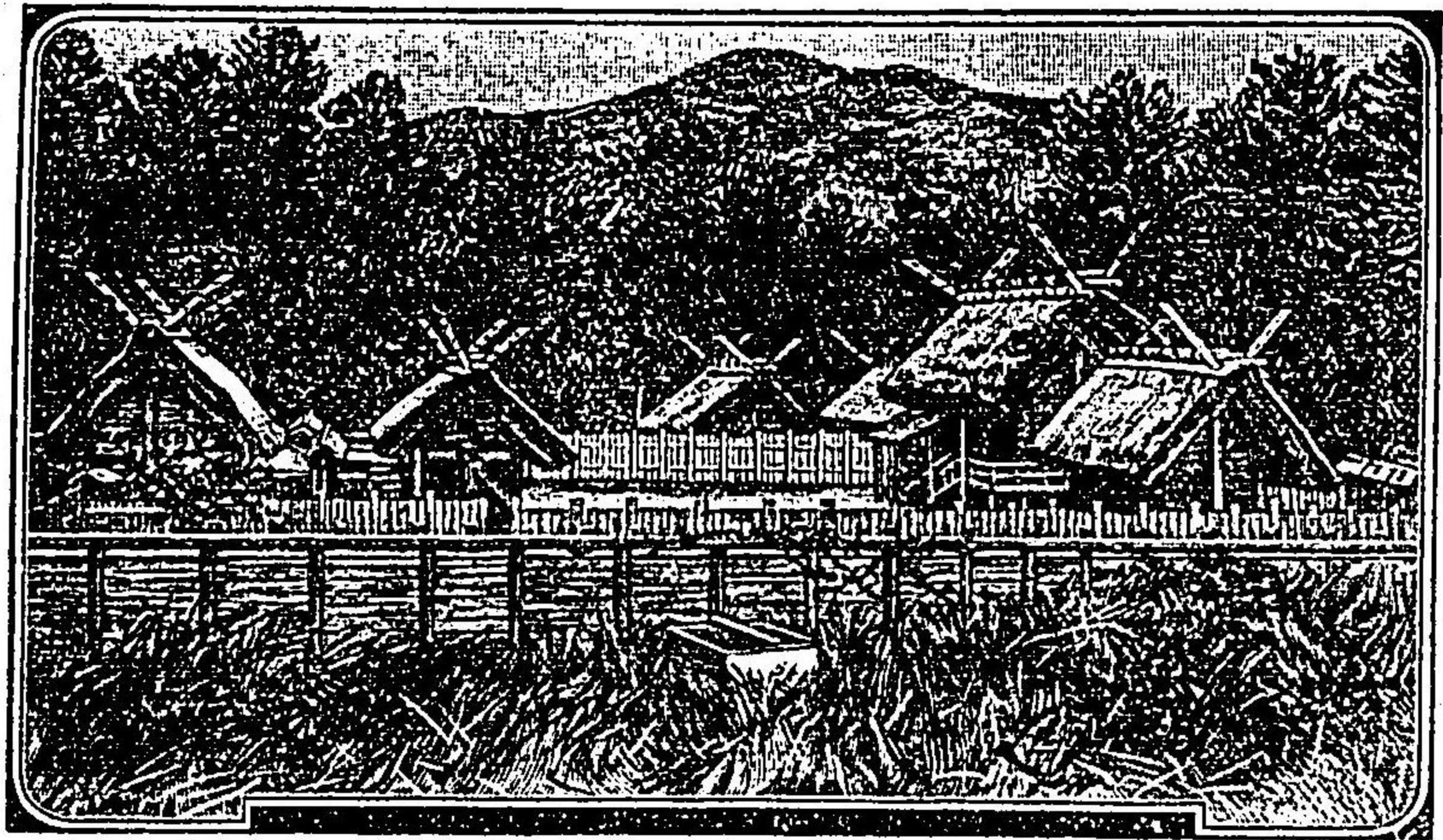
○三河は矢矧、大平、豊河、三河の灌域なり、徳川家康は此の間より起りしことを忘るべからず。岡崎町は始め徳川氏の治所にして、後本多氏の封土たり、綿の賣買行れ、鐵道の便あり。豊橋町は舊名を吉田と稱せり、豊川に瀕し、廿七八年の役に驍名を擧げし、歩兵第十八聯隊（今は第十七旅團司令部）あり。豊川の上流には、長篠の古戰場あり。

三重縣

●三重縣 管轄 伊賀、伊勢、志摩三國、及紀伊の二郡

○伊勢の津市は伊勢海に臨み、一名安濃津と云ふ、藤堂氏（三十二萬石）の舊治所にして、人口三萬餘、三重縣廳あり、關西鐵道通じて、海陸の交通便なり、絹木綿、縲子織、阿漕燒等を産す。

豊橋は大河内  
氏（七萬石）の  
舊城地



伊勢大神宮

宇治山田町は、皇太神宮(内宮)豊受大神宮(外宮)の在します地なるを以て、参宮者絶えず、頗る殷賑なり。

四日市市は盛に米穀を輸出し、横濱と定期航海あり、陸には鐵道の便あり、益繁盛に赴けり、其の沿岸に桑名港あり、松坂町は木綿織を産し、國學の大家、本居宣長翁の生地とす。

○伊賀は山間の小國にして、上野は中央の小都會なり、其の南

に名張あり。志摩は三面海に臨める小國にして、鳥羽、的矢の兩港あり。

岐阜縣

●岐阜縣 管轄 美濃、飛驒二國

○美濃の南部は濃尾平野にして、地肥へ美濃米の産地なり、然れども北部は山頗る深し。岐阜市は米産地の中央に建ち、東海鐵道線の一要驛(名古屋へ七五哩)なり、往年の震災に非常の損害を被りしも、今は再び繁盛し、人口三萬、縮緬、提燈、團扇の産あり。大垣町は楫斐川の流域を占め、霖雨の際には、屢水害を被る。

大垣は戸田氏(十萬石)の砦城市

滋賀縣

○飛驒は地勢總て高隆に、中央高地の中部を占めたり。高山町は山秀で水清く、小京師の名を博せる、山間の一都會なり。

●滋賀縣 管轄 近江全國

○近江は京都の咽喉に當るを以て、古來兵を被りしこと多し、全縣琵琶湖を環り、湖畔勝景の地を領し、到る所風光清絶なり、歌仙猿丸太夫、近江聖人中江藤樹、俳人其角、皆此の地の出身なり。人質商賣に機敏にして、近江商人の稱あり。大津市は湖南に建ち、三井寺其の西丘にあり、市街繁盛にして、人口三萬二千を有す、縣廳及第九聯隊の營所あり、湖水を京都に引ける、疏水工事の大溝渠あり。膳所の城跡は其の南に在り。彦根は湖東にあり、元井伊氏(二十五萬石)の城邑なり。長濱も大湖に臨み、縮緬の本場と稱せらる。米原驛は鐵道の東海線と北陸線との分岐點なり。

福井縣

●福井縣 管轄 若狹、越前一國

○越前は越路の入り口にして、近江の境なる木芽嶺は、古、京

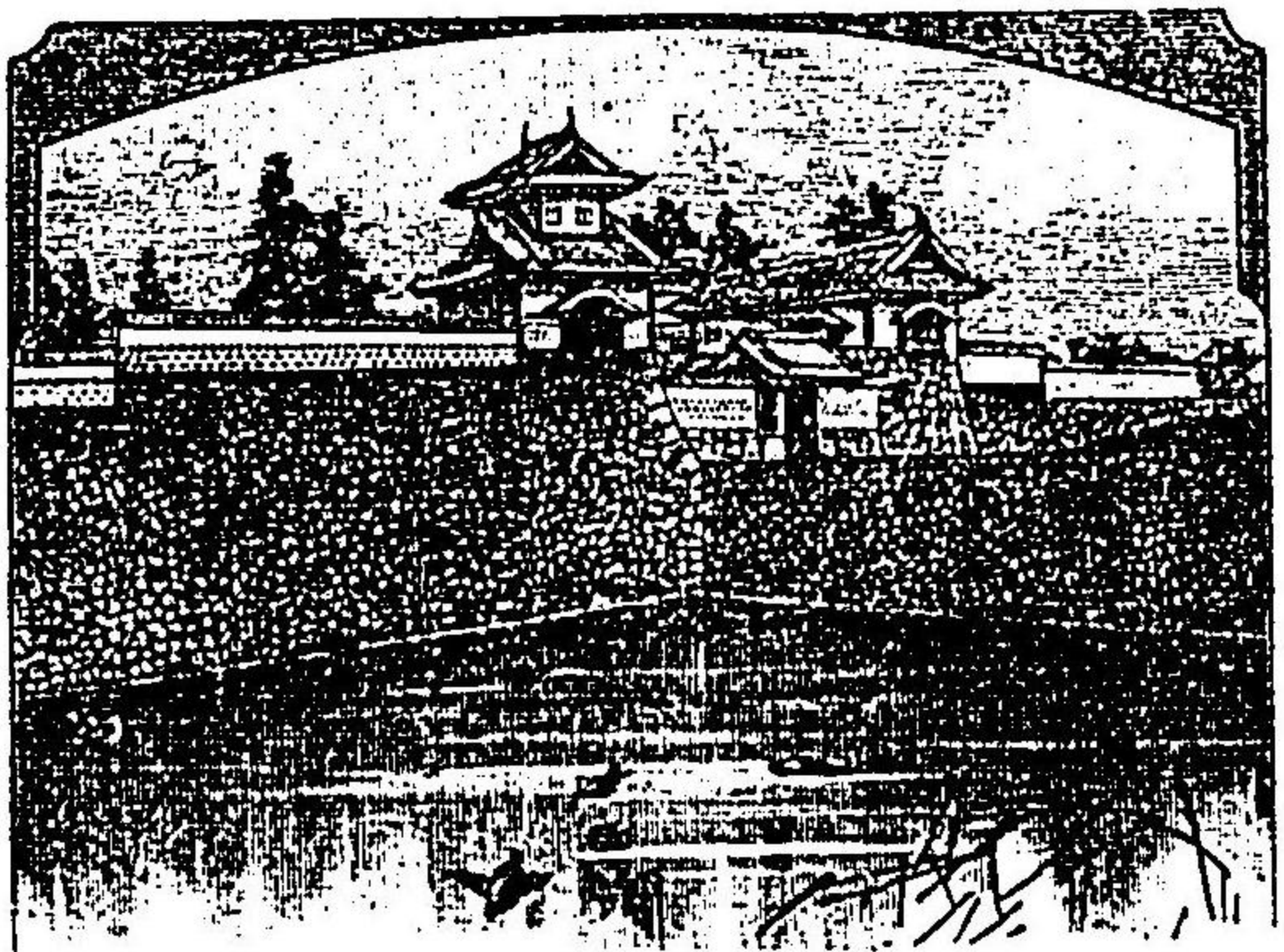
畿の關門なりき、越の名是れに基せり。福井市は足羽川に跨り、古北の庄と稱し、柴田勝家茲に居城を築く、松平氏封を受くるに及び、福井と改む、近來機業盛に行はれ、羽二重は外國に輸出す、人口四萬四千餘、北陸鐵道線路に當り、敦賀との間三十九哩あり、市に新田義貞を祀る藤島神社あり。敦賀港は北陸第一の要港にして、陸路亦北陸道の咽喉に當り、運輸交通の便を占め、市街繁榮なり、第十八旅團司令部、此の地にあり。武生町は元府中と稱し、鐵器製造盛なり。其の北の鯖江町には、歩兵第三十六聯隊を置く。

○若狹は岬灣多く、風景に富めり、小濱港は小濱灣内の要港にして、酒井氏の舊封地なり、其の城は雲濱城と稱す。若狹塗の名産あり。

石川縣

●石川縣 管轄 加賀能登二國

○加賀の東南は山地なれども、沿海の地は平坦にして、河流灌漑の利に富めり。金澤市は北陸第一の大都會なり、人口八萬を有し石川縣廳、第九師團司令部、第四高等學校等あり、舊名を尾山と稱し前田侯茲に封ぜられ、金澤と改む百萬石の城市なりき、市内に兼六公園あり、日本三公園の一と稱せらる。大聖寺町は越前の境に近く絹布の産あり、九谷焼は此の附近より産す。小松は越前路の名邑なり。能登の七尾町は、七尾灣内にあり、北海航行船の



城澤金

富山縣

碓泊地なり。輪島町よりは輪島塗の産あり。

●富山縣 管轄 越中全國

○北に越中灣を擁せる肥沃の平野にして、河流灌漑の利あり。富山市は神通川に跨り、米穀産地の中央を占め、市街繁盛「小江戸」の稱ありき、人口五萬八千、北陸の名都たり、此の地の賣薬は全國に播布せり。高岡市は人口三萬餘、銅器、漆器の名産あり。氷見、伏木、新湊、滑川、魚津等の港なり。

●交通 東海道は徳川氏の盛時、關西諸侯、參勤の街道に

當り、京都、江戸間百三十里に五十三驛ありて、宿驛頗る繁昌せしかども、鐵道開通以來、情況一變し、兩京の間僅に十七八時間にして、達すべく、車窓に凭りて行々山海の景を賞し、夢を搖かして、大井川、函嶺をも過ぐるに至れり。

交通

中仙道の通  
路其他

○中仙道は近江より木曾路を経て、信州の西條驛まで達すれば、是れより鐵道の便ありて、碓氷の嶮坂さへ困難もなく、東京に入るを得べし。又此の鐵道の北に赴くものは、長野を経て、越後、直江津に達する直江津線にして、北國街道に沿へり。奥州街道は下總、下野を経て、遂に陸奥に達せり。是れ又鐵道の便あり。陸前、濱街道は、水戸より海濱に沿ひて、仙臺に達し、北陸街道は昔、親不知の嶮道ありしかども、今は其の懸崖を穿ちて道を通じ、且富山、敦賀の間は、鐵道の便によるべし。其の外、東京を中心とする鐵道は、甲州街道の八王子線及銚子線、一ノ宮線等あり。

海路

○海路は横濱を起點とし、北は奥羽、北海道、千島に通じ、西は中國、四國、九州及臺灣に至り、南、小笠原島に航すべし。日本海

氣候

は各要港の間に汽船の交通あるも、冬期は航海少し。又横濱は海外各國への航路の起點にて、何れにも通ずべし。

●氣候

東海道は概ね溫和なれども、中仙道は内地性氣候にて、寒暑共に強し。日本海岸は對馬海流の感化を受く、されども亞細亞大陸の寒風を被るを以て、寒暑較差あり。

要するに本區は我が國の中央部を占め、氣候中和なる地球上の最好地なり。全年の平均溫度は、十一度(長野)乃至十五度(銚子)の間に在り、冬の最も寒きは、長野零下二度(二)にして、時に零下十二三度に降ることあり、總て信州を中心とする中央高地は寒冷なり。木曾山中の如きは、春の到ること遅く五月花咲き、九月麥熟する程なり。夏は名古屋、岐阜邊を最高平均二十六七度とし、時としては三十五六度に昇ることあり。

雨量

太平洋岸各地は、寒暑共に和順なり。  
○雨は日本海岸なる加賀、能登地方を最多とし。中央高地は總て雨寡く、信濃最も寡し、太平洋岸は降雨適度にして、十一月より翌三月までは雨雪寡し。日本海岸は之に反して、十一月、十二月の三ヶ月間は、降雪甚だ多く、殊に十二月の多量なること全國中其比なし。是れ此の地方深雪の原因となるなり。加賀、越前の境は、最も雪深き地なり。

産業

●産業 本區は平野多く生産地域廣きを以て、農産饒に人民集居し、商業も亦盛なり。中央高地は氣候寒冷にして、人口稀に、土質礫确なるを以て、農耕發達せず、従ひて農産多からざれども、是れに代るべき蠶業の富源あり。北面は土地肥沃にして、日本海岸所々に農産地あり、本區中、耕地の拓けた

農業

蠶業の盛大

織物業

るは、尾張にして全國第一なり、次ぎは武、兩總、常、相の諸國なり。米は愛知縣の産を最良とし、千葉、茨城、長野、静岡、三重、富山の諸縣之に次ぐ、何れも百萬石以上の産あり。本區より産する米の總額は、一千二三百萬石なれば、殆んど全國の三分の一に及ぶ。尾張、武藏の麥は産額の多き全國第一なり、次ぎは下總、安房とす。神奈川縣の粟、埼玉縣(越川)の甘藷も有名なり。駿河、遠江の茶は本邦中其の産額最も多く、之に亞ぐを伊勢、近江、美濃とし、多く海外に輸出す。常陸の水戸煙草、下野の麻は、共に世に知られ、越前、加賀も亦多く麻を産す。尾張の藍は、阿波に亞ぎ、武藏、三河亦之に亞ぐ。  
○蠶業の盛なるは、上野を以て全國第一とし、信濃之に亞ぎ、近江、武藏、加賀等も亦盛なり。故に絹織業も亦旺盛に、下野の



足利、上野の桐生の如きは、其の最も有名なるものなり。信濃の上田紬、越前の羽二重、奉書紬及海外輸出の手巾、加賀絹、近江の濱縮緬、甲斐の郡内織、甲斐絹、武藏の八王子織、秩父絹等産額甚だ多く、全國絹物の供給は、過半本區に仰げり。木綿の産出も亦多く、尾張の愛知、尾張の鳴海絞(有松絞の名あり)、三河の木綿織、下總の銚子縮、下野の眞岡木綿等は全國に販賣す。

○本區は我が國の中央にして、人事夙に發達せるを以て、亦諸種の製造品を産す。陶磁器は尾張を最とし、其の瀬戸焼は已に陶器の代名たるに至る、又精巧なる七寶焼を産せり、此外萬古燒(伊美濃燒)、九谷燒(加賀)等は、其の重なる物なり。漆器には駿府塗、日光塗、若狹塗、輪島塗等の産あり。其の他各種の工藝品あり、特に東京を始め、各都會の地は、近來文明的工業品

工業

陶器

漆器

海産



業漁之濱里九十九

なる洋紙、印刷物、出版業及各種の西洋模造品の技、大に進めり。兩總地方は製鹽及醬油、酒の醸造行はれ、若狹の瑪瑙細工は著名にして、加賀、越中地方の象眼、銅器は、海外に輸出す。

○海産物は南北の兩面海に瀕するを以て、其の産額尠からず。千葉縣は漁業の盛大なる全國第一とす、彼の九十九里濱に漁する鱈は、乾鱈として盛に支那に輸出す。其の他太平洋沿海は、鱈、鯛、鮪、日本海は鱈、鰈、鯖を主とし、本區の水産額(八百萬圓)は全國の四分の一に匹敵せり。

鑛産

○鑛産は足尾を以て日本第一の銅産地とし、本邦總産額の殆んど三分の一なり。富士帶附近より金を産し、濃飛高原に銀を産す。其の他甲斐の水晶、雨畑硯、伊豆の根府川石、三河の御影石、名倉砥、遠江の石油、石灰、常陸の寒水石(石灰石)あり。

○林産には伊豆の天城山、日光の大森林に夥しき良材あり、木曾の山林は全國一と稱せられ、巨木鬱蒼たり、濃飛高原も頗る良材に富めり。

林産

風土比較

●風土比較 以上各條の下に於て述べ來りたる事項に就き、本區を北、中、南の三部に分ち、地形風土を比較すれば左の如し。

(越後は本區には入らざれども古來古志の國と稱し、他の北陸道諸國と同一の政治區劃に入りし事等あり、本區に合せて之を見るべし。)

北部(北陸道)

○南に山を負ひ北は海に瀕し、河流多く北流す。

○海岸屈曲少く、港灣半島に乏し。

○降水量冬日に多く、夏日に少し、故に積雪深し。

○農産物及工業には銅、鐵器、漆器の製造、並に織物盛なり。

○交通瀕繁ならんとす。

○從來、歴史上重要な事件に乏し。

○西に向ひ露國及朝鮮との關係密ならんとす。

中部(中仙道)

○山岳中央に蟠る中央高地にして、河流多く南北に分流す。

○南北兩部の中間に位置して、海岸を有せず。

○降雨四時共に少し、故に多くは乾燥なり。

○養蠶及び機業盛に、鑛業亦行はる。

○交通稍不便なり。

○西部畿内に近き地は、屢々兵亂の巷となりき。

○内地に在りて外國との直接交渉少かるべし。

南部(東海道)

○北に山を負ひ南は海に瀕し、河流多く南流す。

○海岸屈曲に富み、港灣半島多し。

○降雨冬日に少くして、夏日に多し、故に植物に適す。

○農産物(殊に米、麥及茶、藍)製造業盛に、海産物も亦豊なり。

○交通甚だ頻繁なり。

○從來、歴史上重要な事件甚だ多く、歴世の興亡少からず。

○東に向ひ米國又南洋との關係深かるべし。

○奥州は以上兩山脈の爲め、海岸との交通を閉塞せられ、平地は僅かに此兩山脈と中央山脈との峽間にあり、盛岡平原、仙臺平原、會津平原の如き是なり。是峽間は奥州の重要地にして、河水爰に流れ、國道爰に通じ、鐵道亦爰を走り、住民多く生産饒なり。

○中央山脈の西際なる羽州羽出にも其沿岸に鳥海火山脈並趨せり、起點を陸奥の岩木山とし、羽後には本脈の主山なる鳥海山、八千餘尺に聳え、羽前に羽黒山あり、岩越の境に飯豊御神樂の高峯屹立す、日本海岸にも彌彦火山脈あり、越後を斜に横斷して、信濃に入る、山脈斯の如くなるを以て、其の地形は奥州と同じく、平地は兩側山脈の峽間にあれども、所々支脈の爲めに横ぎられ、能代、秋田、鶴岡、米澤及び越後の五平

八十里を六十里にて鳥海火山脈を越ゆる所、

水系

平に分れ、重要な生産地となり、住民亦少なからず。

●水系 区内の河系は中央火山脈に分水せられ、東は太平洋、西は日本海に注ぐ、故に太平洋系、及日本海系に分つ。

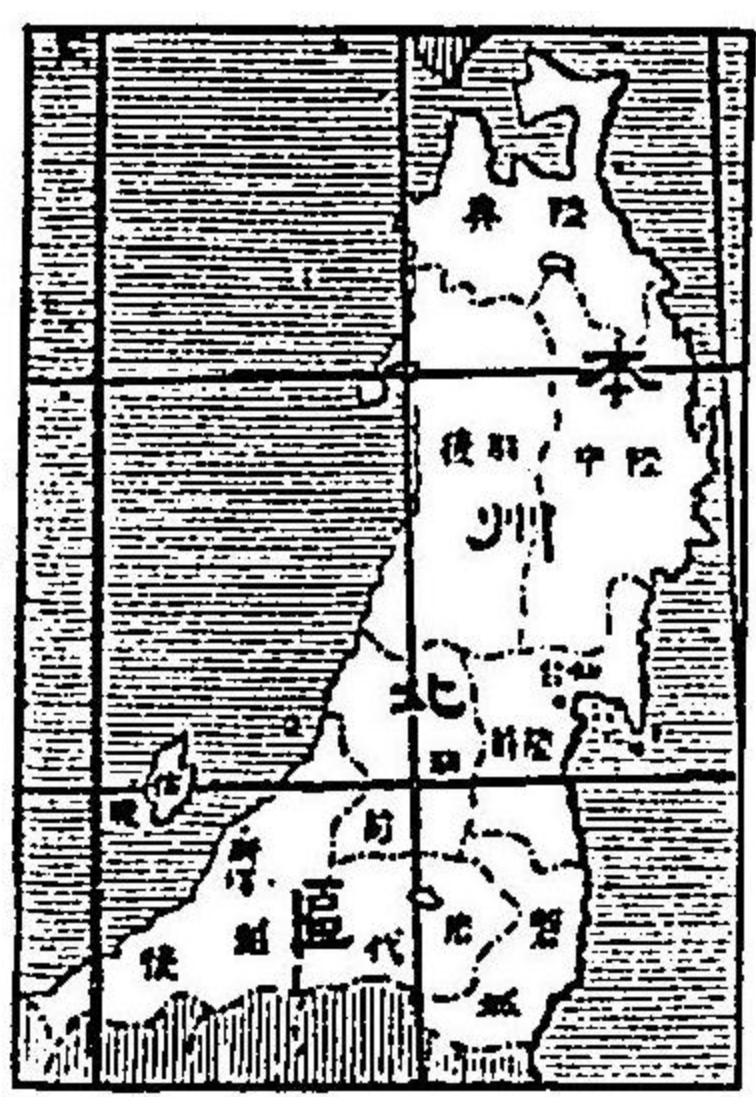
太平洋系

○太平洋系の北上川は北上山脈と中央火山脈の峽間を南流し、數多の水を集め、石巻港に注ぐ、長さ七十六里あり、舟楫の便ある支流を合すれば、百七十餘里に達す、此の灌域は北奥の生産地にして、此河を上下する貨物多し、灌域には繁盛の都邑あり、阿武隈川は阿武隈山脈と中央山脈との峽間を北流すること五十里、仙臺灣に注ぐ以上は奥州の三大河にして、奥州の動脈とも謂ふべく、奥州街道及鐵道線は、其兩岸に沿ひて通ぜり。

日本海系

○日本海系の信濃川は、信濃より來り、越後の中央を貫き、北

### 本州北區誌



本州北區圖

●本區は即舊奥羽の地及び北陸道の越後、佐渡の八國を包括し、東は太平洋、西は日本海に濱し、北は津輕海峽によりて北海道と相對す。面積五千〇七十二方里、人口六百五十萬あり、内に左の七縣を置く。

- 本州北區
- 新瀉縣
- 福島縣
- 宮城縣
- 巖手縣
- 山形縣
- 秋田縣
- 青森縣

### 地形

●地形 本區の中央には地勢に沿ひて、南北に亘る高峻なる中央火山脈あるを以て、地域自ら兩分す、山脈の東際は、元の奥州にして、西際は元の出羽及越後なり。此の山脈は斗

七時雨山、森吉山、駒ヶ岳、荒神山、家形山、等合水山脈とす。  
中央火山脈は那須火山脈とも稱す。

靈山には、北畠顯家の城跡あり、麓には靈山神社あり、北畠親房、顯信、守親の四獅を祭る。

南半島の恐山より起り、八甲田山を経て、略奥羽の境となり、南部富士の名ある岩手山となり、是より栗駒岳、藏王山等の高峯を噴起し、岩代に入りて、近年爆裂したるを以て有名な盤梯、吾妻の兩山より、中區境の那須火山に連れり、此脈あるが爲めに、奥羽東西の交通甚だ困難なり。

○中央山脈の東際には又北上山脈ありて、種市山より起り、南するに従ひ廣大の高臺狀をなし、仙臺灣に到り陷没せり。早池峯(六千六百尺)は脈中の高峯にして、仙人峠には夥しき鐵鑛を藏せり、北上山脈は、再び磐城の北境より起り、阿武隈山脈と稱す、南走して靈山、矢大臣山、八溝山等を高頂として、關東平原に出で、筑波山彙となる。此脈所々に石炭を藏す、白水炭の如き是なり。

○奥州は以上兩山脈の爲め、海岸との交通を閉塞せられ、平地は僅かに此兩山脈と中央山脈との峽間にあり、盛岡平原、仙臺平原、會津平原の如き是なり。是峽間は奥州の重要地にして、河水爰に流れ、國道爰に通じ、鐵道亦爰を走り、住民多く生産饒なり。

○中央山脈の西際なる羽州(羽田)にも其沿岸に鳥海火山脈並趨せり、起點を陸奥の岩木山とし、羽後には本脈の主山なる鳥海山、八千餘尺に聳え、羽前に羽黒山あり、岩越の境に飯豊御神樂の高峯屹立す、日本海岸にも彌彦火山脈あり、越後を斜に横斷して、信濃に入る、山脈斯の如くなるを以て、其の地形は奥州と同じく、平地は兩側山脈の峽間にあれども、所々支脈の爲めに横ぎられ、能代、秋田、鶴岡、米澤及び越後の五平

八十里を六十里にて鳥海火山脈を越ゆる所、

水系

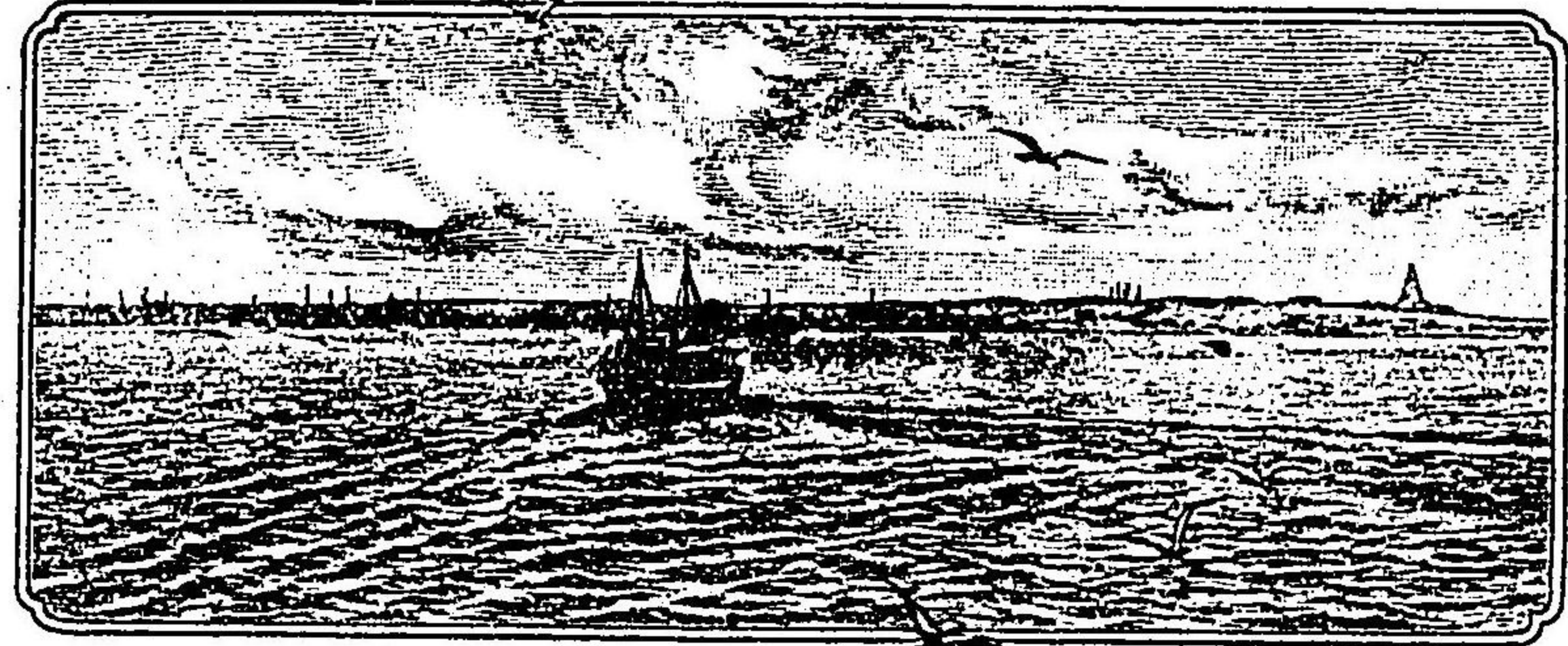
太平洋系

平に分れ、重要なる生産地となり、住民亦少なからず。  
●水系 區内の河系は中央火山脈に分水せられ、東は太平洋、西は日本海に注ぐ、故に太平洋系、及日本海系に分つ。  
○太平洋系の北上川は北上山脈と中央火山脈の峽間を南流し、數多の水を集め、石巻港に注ぐ、長さ七十六里あり、舟楫の便ある支流を合すれば、百七十餘里に達す、此の灌域は北奥の生産地にして、此河を上下する貨物多し、灌域には繁盛の都邑あり、阿武隈川は阿武隈山脈と中央山脈との峽間を北流すること五十里、仙臺灣に注ぐ以上は奥州の三大河にして、奥州の動脈とも謂ふべく、奥州街道及鐵道線は、其兩岸に沿ひて通ぜり。

日本海系

○日本海系の信濃川は、信濃より來り、越後の中央を貫き、北

信濃河河口之景



流して日本海に入る、支流甚多きを以て、世に八千八水河の稱あり、源より河口まで百〇五里、幅廣き所は八町に及び、運輸頗る便にして、灌域は農産豊かに、繁昌の都邑あり。日橋川は岩代の猪苗代湖より發し、越後に入りて阿賀川となり、海に注ぐ、流域は著名の農産地なり。最上川は岩代の境に發し、米澤平原を北流し、中流より一轉して西流し、鶴岡平原を貫き、酒田港より海に注ぐ、水清く流れ急に、兩岸には四十八瀧懸り、風景頗る佳なり。本邦三急流の一と

湖

沿海

す、米澤、山形は此灌域の貨物集散所なり。御物川は羽後の南部を流れ、能代川は羽後の北部能代平原を流る、大河にして、最上川と共に兩羽の生命とも謂ふべく、羽州の財源及通路は、皆此三河域にあり、陸奥には岩木川あり、流域は津輕の地なり。

○猪苗代湖は會津平野の中央に湛へ、周圍十三里あり、湖上には汽船の往來頻繁なり。羽後の八郎瀉は一に琴湖と稱し、男鹿半島及砂嘴一條を以て日本海と限られ、山光水色畫くが如く、風景秀美なり。十和田湖は陸奥の山間に湛へ、周圍十里湖中に鱒を産す。

●沿海

陸奥と北海道との海峡を津輕海峡と稱し、内に一大灣入あり。東は斗南半島、西は津輕山嘴に擁せらる、陸

太平洋海岸

奥灣あり。灣内の一半島によりて、青森、野邊地の兩灣に分つ。大湊は灣の北隅にありて、太平洋と日本海の航路を連ぬべき良港にして將來有望なり。

○太平洋沿岸の陸奥の北端、尻矢岬以南には、著しき出入なく、陸中海岸は犬牙の如く交れども、懸崖にして良港に乏しく、僅かに宮古、釜石の兩港あり。陸前の沿岸は出入多く、北部の大船渡は有望の港泊にして、牡鹿半島南に突出して、仙臺灣を擁し、山雉の渡を隔て、金華山屹立す。仙臺灣には有名な



松島之景

日本海岸

る松島群島散點し、島上悉く翠松を戴き、波海と相映じ、風景の佳なる日本三景の一に負かず。灣頭の石巻灣は、北上川を下る貨物を集め、荻ノ濱は横濱以北の佳港にして、北航船碇泊の要地なり、又鹽釜には鐵道通じ、北部地方より來りし海産及貨物を汽車に移すべき港なり。

○日本海岸は屈曲少し、男鹿半島及其附近は、彌彦火山脈に當る海底山脈のため、斷崖岩礁、波間に突兀として、頗る奇景なり。其北に能代港、南に土崎港、及羽前の境に酒田港あり。海上の飛島、粟生島は、彌彦火山脈に當る火山島なり。越後の新潟港は、開港場にして、其西南の直江津港は、内地の貨物を鐵道によりて、日本海岸に出す唯一の港なり。越後の海岸には、有名なる親不知の嶮ありしが、今は新道を開通せり。

佐渡島

○佐渡島は其の形胡蝶の舞ふが如く、翅間には西より眞野入江東より加茂湖灣入し、兩翅の端に矢崎(東北)龍王岩(東南)城が鼻(西北)野崎(西南)の四岬あり。

處誌

●處誌 本區は(越後と)天然の限界によりて、東岸を奥州西岸を出羽と稱し、奥羽と總稱したり、又方位によりて、東北地方と呼ぶる、地廣く住民多からず、明治二年今の七州に分れたり。太古は専らアイヌ種の住せし所にして、後安倍清原等の豪族、此地に崛起して常に上國を睥睨せり。近古に至り奥州には伊達南部會津の諸侯、出羽には最上佐竹上杉の諸雄封ぜられ、各平原を根據として、其武を振へり。地氣高寒にして人質亦自ら驍果の風あり、山地は人烟甚だ稀少にして、氣質朴直なれども、粗野たるを免かれず。越後は上杉氏割據

新潟縣

の地にして此國の人は彼の霜月、横槊の猛將に従ひ、武を世に轟かせしが、今や人口繁殖し、生産の餘裕なると共に、柔弱に流れんとする傾きあり。

●新潟縣 管轄 越後、佐渡二國

○越後は北海岸の大國にして、沿岸七十里に及ぶ、之を上、中下に三分し、米山以南を上越後とし、彌彦山以北を下越後とし、其中間を中越後とす。國の中央市なる新潟市は信濃川の吐口に位し、人口五萬二千あり、埠頭は信濃河口なり、故に年々泥沙河口に堆積し、且北風に堪へざるを以て碇泊に便ならず。此市は天保年間新潟奉行を置かれしに始まり、尋で外國貿易港となりしかども、互市は未だ盛ならず。新發田は新潟の東方にして、溝口氏の舊城市なり、歩兵第十六聯隊駐在



五泉には五泉平織を出す。村松には歩兵第三十聯隊を置く。

「此下に赤田町あり」とは高田深雪よりの奇談。

いざさらば磯打つ浪に事聞はむ隠岐の方には何事かある。  
順徳天皇

福島縣

す、新潟より汽船にて溯れば三條町あり、尙行くこと七里許にして、長岡町に達す、共に河畔の名色なり、長岡の上流に越後縮の産地たる小千谷あり、長岡の東に浦瀨あり、北越第一の石油産地とす。高田町は信越鐵道に沿ひたる一名色なり、○佐渡は新潟より三十二哩(夷町)の海上にあり、島の北端に有名なる金北山あり。相川町は島の西北端に在り、島中第一の都會にして、無名異焼を産す。眞野灣頭には順徳天皇を祀れる眞野宮あり、其里許に黒木御所の趾あり、夷町及西南端の小木は共に要津なり。

●福島縣

管轄 岩代國及磐城七郡

○岩代の福島町は阿武隈河畔に在りて、東北鐵道中途の要驛なり、蠶業地の中央にして、生絲の賣買盛なり。其南の二本

中村は相馬氏六萬石の舊城地、相馬焼を産す、平の南方小名濱は、磐城石炭積立の要港  
「吹く風を勿來の關と思へどもみちしに散る山櫻かな」源義家

宮城縣

松町も蠶業地なり、若松市は會津平野にあり、松平氏の舊城市にして、戊辰の役籠城を以て名あり、會津塗、繪蠟燭の名産あり。  
○磐城の白河町は昔奥州の關門にして、白河の關趾、町の傍にあり、其の東北の三春は馬を産し、東南海岸、又中村及平あり、平は石炭を産す、其の南の海岸道に沿へて、勿來の關趾あり。

●宮城縣

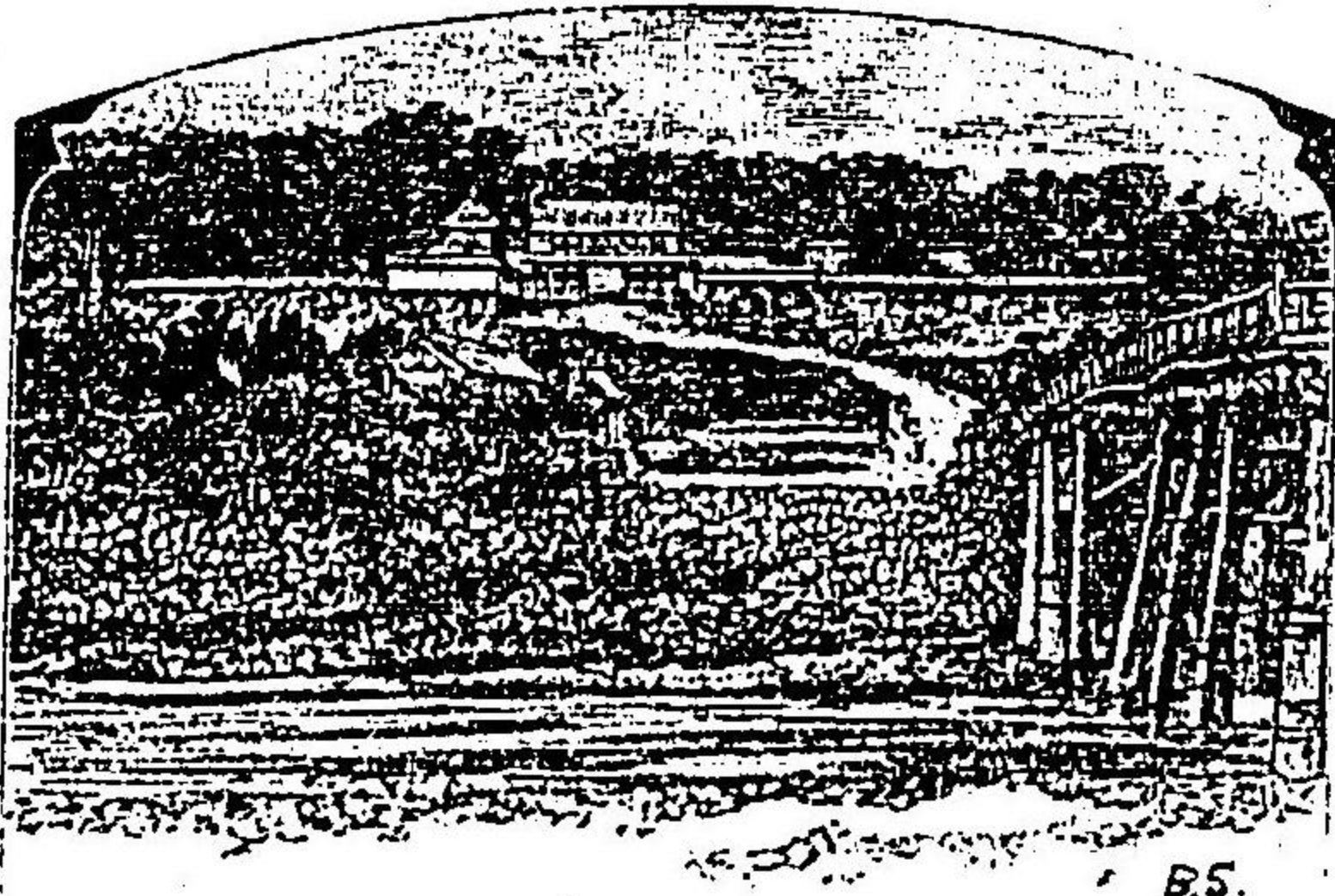
管轄 陸前(一郡を除く)及び磐城の三郡

○陸前は政宗以來、世々伊達氏(六十二萬石)の封地にして、東北の雄藩なりき。仙臺市は廣瀨川に跨り、東北鐵道(東京へ二車一三)に當り、人口七萬五千を有し、宮城縣廳、第二高等學校、控訴院等ありて、奥羽第一の都會たり。第二師團司令部は、青

「たづねばや青葉の山のなそざくら花ののころが春のとまるか」  
是れ城名の起因  
仙臺の附近に、多賀城跡あり、聖武天皇神龜元年、大野東人の築きし所

### 巖手縣

盛岡は南部氏十三萬石の城地。  
厨川の橋は、貞任一世の勝敗を決したる所。  
中尊寺は、有名なる佛刹、平泉には藤原



青葉城

葉城内にあり、市内の躑躅ヶ岡は、櫻花を以て名あり、經ヶ峯には伊達政宗の靈廟あり、奇傑林子平は此地に生る。仙臺平、八橋織及銅器の名産あり。磐城の白石町は、片倉氏の舊城地にして、蠶業行はれ、又絹布を産す。

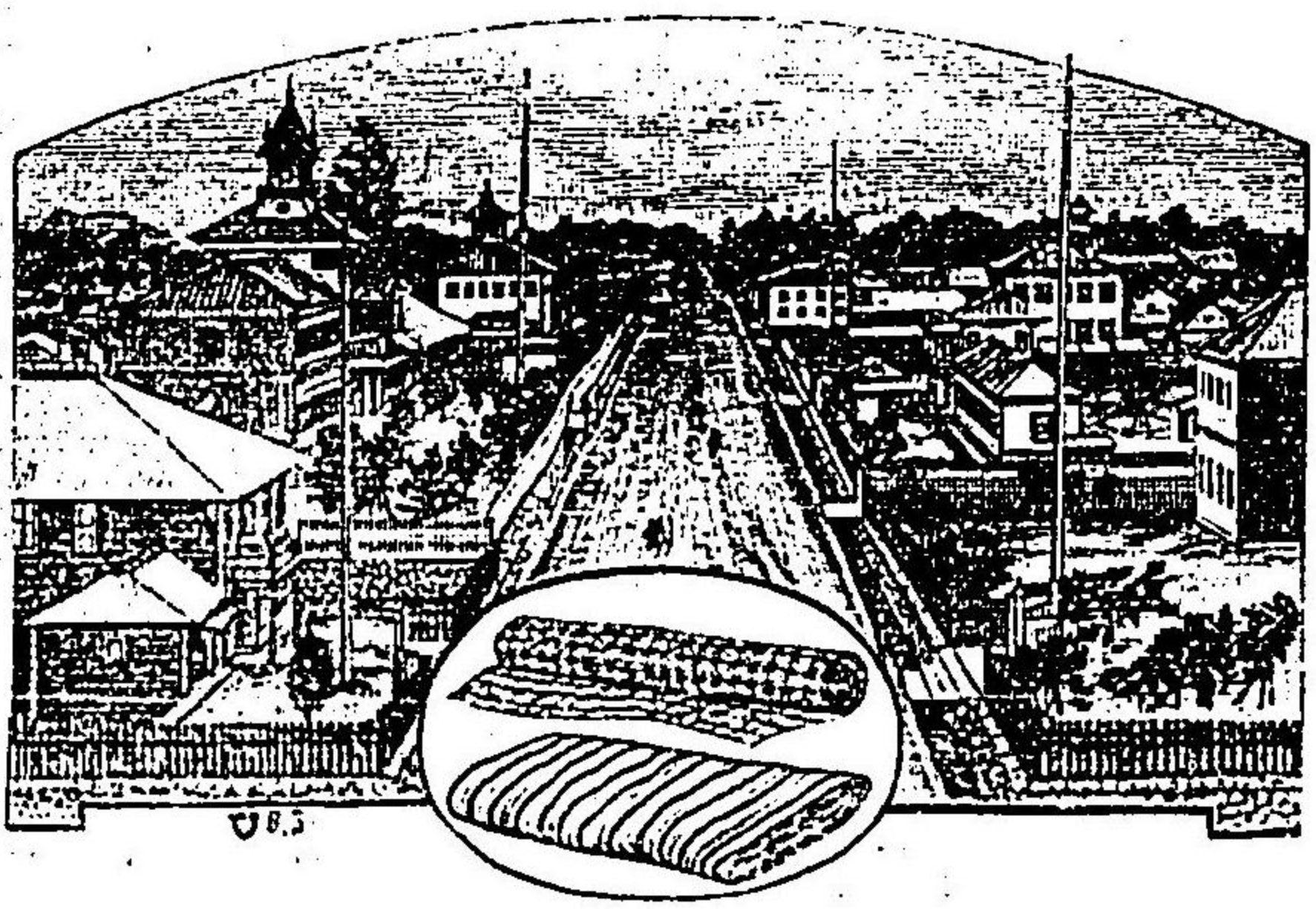
### ●巖手縣

管轄 陸中(一郡を)及陸前一郡

○陸中は地氣高寒にして、人口多からず、安倍氏世々此地によりて、附近を押收して、以て前九年後三年の役に關し、舊蹟多し、北上川は此國生産交通の母なり。盛岡市は其の流域を占め、南部氏の舊城市なれば、南部と稱せり、巖手縣廳あり、人

### 山形縣

秀衡房館の跡にして、共に衣川の附近、「年を經し糸の亂の苦しまに衣のたては綻びにけり」



山形市

口三萬三千、奥羽第二の都會となす、縮緬、鐵瓶及下駄の表は南部物を以て稱せらる。厨川の遺跡は其の附近にあり、鐵道に沿ふ、一の關は、阿武隈河畔の名邑にして、其の西北に衣川の柵跡あり、蓬草深く俊傑の跡を没せり。太平洋岸の釜石町は、其の西の仙人峠に鐵鑛を藏するを以て知らる。

### ●山形縣

管轄 羽前及羽後一郡

○本管下は概ね最上川の流域を領し、運輸灌漑皆其の澤を被り、都邑多く河畔に建てり、河域の上流

水野氏五萬石の舊城地、鶴岡は酒井氏十七萬石の城市、新莊は月澤氏六萬八千石の城市

秋田縣

秋田は、佐竹氏二十萬五千石、六郷町の近傍に、金澤橋址あり、源義家、清原武衡を攻めし所

は米澤市あり、上杉氏(十七萬石)の舊城地にして、人口三萬を有し、絹布を産す、其の下流域に本縣の中心地たる山形市あり、元最上と稱し、最上氏世々の居城たりしが、後、水野氏之を領す、其の霞が城墟は市の西隅にあり、人口三萬二千、市街繁盛なり、歩兵第三十二聯隊を置く。最上川の吐口に、酒田港(後羽)あり、日本海の要湊にして、船舶輻湊す。鶴岡は羽前西部の一都會にして、附近を庄内シラハナイと稱す。

●秋田縣 管轄 羽後(一郡を)及陸中の一郡

○秋田市は御物川下流の農産地域を占め、土崎港を控え、頗る要所を占む、人口二萬七千、秋田畝織、其の他の絹織を産す、此市は佐竹氏の舊城市にして、今は第十七聯隊の營所あり。國學者平田篤胤は此地の人なり。土崎港よりは米穀及銅を

輸出す、能代港は國の北部能代河口の良港にして、春慶塗を産す。

青森縣

津輕氏十萬石

●青森縣 管轄 陸奥國(一郡を)

○本縣は本州の極北に位し、所謂「陸の奥」なり、縣廳所在地なる青森市は、青森灣に臨み、東北鐵道の北點にして、函館へ定期汽船あり、弘前市は岩木川に臨み、津輕氏の舊城邑にして、人口三萬四千、其の繁華青森に過ぐ、第八師團司令部を置く、穀塗漆器の産あり、國の東部八戸町は、東岸の一都會なり、北部半南半島の大湊は、良湊にして、又軍港なり。

交通

●交通 區内には中央に山脈連亘して、自ら奥羽を分ち爲めに、東部と西部と交通するには、皆峻坂を躑えざるを得ず。奥州には、既に鐵道全通して、交通自在なれども、羽州には

盛岡より秋田  
には仙岩峠、  
羽前より仙臺  
には關山、二  
口、笹谷峠あ  
り、

青森東京間、  
四百五十七里、  
二十四時間程、  
東京直江津間、  
百八十里、  
直江津、沼垂  
間、  
百八十四哩、

漸く北部と南部と少許里の鐵道あり、且又海路も冬期風濤荒くして、交通不便なるを以て、東岸と西岸とは、其の發達の程度頗る差あり。

○主要なる道路二條あり、一、奥州街道、二、羽州街道是れなり、一は東部を通ず、他は西部を通ず。其の他北國街道(信濃追分後に三國街道越野の高崎より清水)、濱街道(常磐の沿海道)等あり。鐵道は日本鐵道の東北線は、下野より域内に入り、仙臺を過ぎ青森に達す、青森よりは奥羽北線(官線)にして、羽後の大館に達するものと連絡せり、此線路は、實に域内交通の動脈にして、其の便益を被り、其の風化開發を享くること小ならず、又福島より分岐して、赤湯に至る、奥羽南線(官線)と郡山、若松間に岩越線とあり、又信越線は、日本海と太平洋とを連絡

する唯一の線なり、尙ほ直江津より新潟(沼垂)まで、北陸鐵道によりて通ずべし、水戸線は水戸より磐城の海岸を通じ、陸前の岩沼に至り、日本鐵道と連絡す、其の他工事中の陸羽線、竣工の曉には、大に西部の運輸交通の便を増し、愈發達の運に向ふべし。

○航路は太平洋岸には、横濱、荻の濱間には、郵船常に往復し、其の外、石の巻、釜石、青森、大湊等に汽船往復す、日本海は直江津、新潟、酒田、土崎、函館の間(冬期を除く)に汽船往來す。

●氣候 本區は本州の地形、頓に折れて北上する部を占むるを以て、氣候一般に寒冷なれども、日本海岸と太平洋岸とは、稍、相違あり。即ち東海岸は、親潮寒流あるが爲め、中區に比すれば、著しく寒冷なり、又日本海には、對馬海流あるを以

四岸の新潟、  
全年平均温度  
十二度、山  
形は十度半、  
東岸の石巻は、  
十一度、宮古  
は九度なり、

新潟全年の平均雨量、一千七百七十八粒  
 秋田一千七百三十八粒  
 石巻一千四百十四粒  
 宮古一千三百七十五粒

産業

て、海岸は稍温和なり。夏は概して清凉なれども、新潟附近は頗る高温に達することあり。冬期は甚だ長く、五月に至らざれば、櫻花開かず、而して百花概ね一時に開く、雨量は西岸に多く、東岸には頗る寡し。風雨は概して北西風多し。

●産業 氣候稍寒く平野少きを以て農産豊ならず、然れども、是に代る富源あり、鑛物の夥しきこと是なり。金は佐渡を第一とし、其の産額頗る多し、銀は羽後を以て本邦の最とし、阿仁、院内の兩銀山より産する額は、全國の過半を占む、其の他佐渡及陸中の小阪、尾去澤、岩代の半田の諸銀山、何れも著名なる銀産地なり。羽後の銅は産額の多きこと、足尾に次ぐ、陸中の釜石鐵鑛、羽後の石油等は、其の額夥し、要するに我邦金屬の多分は、本區より供給を仰ぐと云ふべし。

陸前の氣仙行  
 李、羽前の紅  
 花、秋田の落  
 雁も一部の名  
 産なり

○越後は肥沃の田圃多く、農産豊にして、米は年額二百萬石を産し、全國第一なり、次に福島、宮城の兩縣も、年額百萬石以上を産し、其の他の農産も亦少からず。蠶業の最も盛なるは、岩代、磐城にして、其の他の地方にも、行はる。織物の名あるは、越後縮、栃尾紬、五泉平、(以上)南部縮緬、及木綿織、仙臺平、八橋織、二本松紬、米澤織、秋田畝織等あり。本區は、漆の産地なるを以て、所々より漆器を産す、越後塗、會津塗、春慶塗、(後)陸奥の殻塗器等は、何

牧場



風土比較

れも世に知らる。其の外、無名異焼(佐渡)會津焼、繪蠟燭、陸前の埋木細工等の名産あり。磐城、陸中、陸奥地方には、廣大なる牧場あり、有名なる馬の産地にして、多く軍用に出ず。

○奥羽は水産に富み諸川には鮭、鱒を産し、海には磐城の鱈、陸奥の光參(イナリ)、牡鹿半島の電氣鱒等は、著名にして、日本海は鱒、鮭等最も多し。

●風土比較 以上叙し來りたる各事項に就き、本區を東部(奥州)と西部(出羽)とに分ちて、其の風土を比較すれば左の如し。

東部(奥州)

○西に中央山脈を負ひ、東太平洋に瀕し、河流多く東海に注ぐ。(唯北上、阿武隈の二川は、

西部(出羽)

○東に中央山脈を負ひ、西は日本海に濱し、河流多く西流す。

同名の山脈に遮ぎられ、南流又北流す。

○海岸線は鋸齒狀をなして、斷崖多く、二三の良港あるに過ぎず。

○親潮其海岸を洗ひ、氣候稍寒冷にして降雨少く、氣象は總て東南風の感化を受く。

○交通は海陸共に便利に來往亦頻繁にして、現今發達しつつあり。

○太平洋を隔て、北亞米利加に對す、將來北米と關係深からん。

○古來諸豪族割據し、兵亂を歴たること多し。

○海岸線は弧線狀をなして、砂丘多く、岬灣島嶼に乏しく、一の男鹿半島あるのみなり。

○溫流其沿岸を流れ、氣候稍溫和にして降雨多く、氣象は總て西北風の感化を受く。

○交通は海陸共に未だ不便なれば、發達は將來に屬すべし。(越後の外)

○日本海を隔て、露領西伯利に對す、將來露國と關係密なるべし。

○古來諸豪族割據し、兵亂少からざり

### 本州西區誌

●本區は本州より西半部を占め、北は一帶日本海に瀕し、南は瀬戸内海に臨み、其の東部は外洋に突出せり、西端は早瀬海峡によりて、九州と相隔つ。畿内、山陰、山陽の三道、及紀伊、淡路の二十三國を含み、面積三千二百七十二方里、人口凡一千萬あり。左の二府八縣を置く。



本州西區の圖

- 地勢
- 本州西區  
 京都府 大阪府 奈良縣 和歌山縣 兵庫縣  
 岡山縣 廣島縣 山口縣 島根縣 鳥取縣
- 區内は地勢自ら近畿(東部)中國(西部)の兩部に分

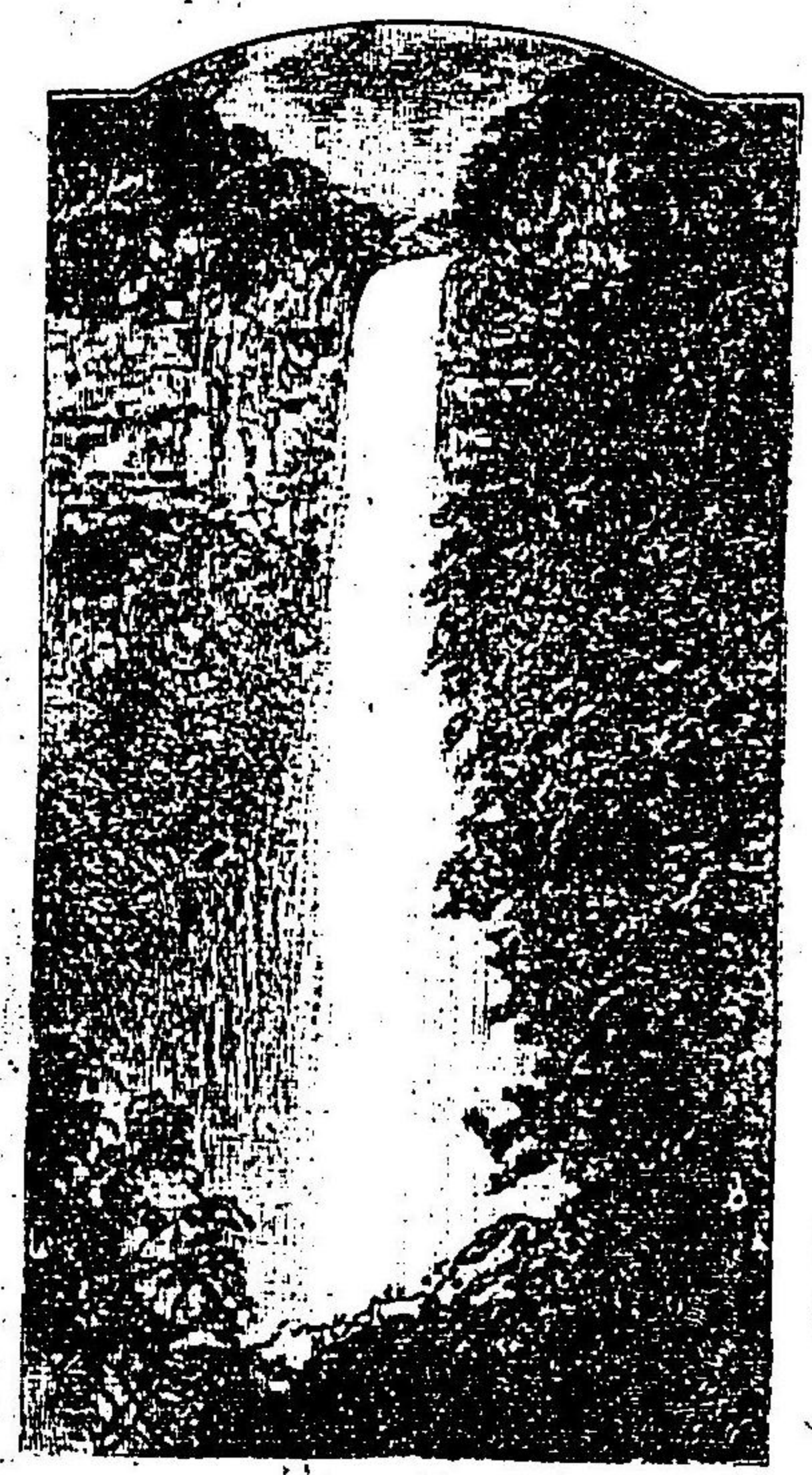
地勢

### 近畿地勢

布圍著て寢たる姿や東山(嵐山)

る故に便宜上東西兩部に分ち、是を説くべし。

○近畿地勢 畿内の地は、三面中國山脈の餘派を以て圍まれ、只西南の一方のみ、内海に濱せり。比叡、愛宕等の諸山は北境をなし、其の山脚京都に迫りて、東山、西山等となり、名所舊蹟少からず。攝津の西海濱には、鐵拐ヶ岳、鴨越等あり、源平の



那智之瀑布

伊山脈蟠り、大和の南半を掩ふ、紀伊には、大塔峰、那智の諸山

戰に名ある一ハ

谷其の南にあり

畿内の南方なる

紀伊半島は、太平

洋に突出し、内に

四國より連る、紀

吉野には如意輪堂、藏王堂等あり

ふれはふれはとばかり花の吉野山

多武峯には鎌足を祭る談山神社あり、世に關西の日光と稱す

西部地勢

重疊せり。直下七十丈の那智瀑布、那智山中にあり。高野山は北部にありて、有名なる巨刹あり。大和には吉野山、彙あり、芳野十二峰と稱し、一目千本の名ある櫻林、南朝の遺跡等あり。大和、河内の境に、正成の城趾なる金剛山あり。畿内平原は、大坂灣を擁し、地味豊饒に、住民繁盛に、我が邦の主權は、久しく茲に集まり、英雄此平野を争ひし、攻城野戰の跡尠からず。  
○中國地勢 中國山脈は、東西に連亘して脊梁となり、自ら山陰、山陽の兩道を劃し、南は瀬戸内海、北は日本海に向ひて緩斜せり。瀬戸内沿岸には平地多し、是を内海岸の平地と呼び、農産物少からず。地質は概ね花崗岩にして、奇峻の山骨を現はし、綠樹此に疎生す、海岸は其の碎片なる白砂を布けり。山陰の地は、間々火山岩の噴起せるありて、一般に山多く、平

京都より丹波路、姫路より美作路、安藝より石見に中山、越山より石見に入る野坂峠、一寺あり

忘れめやふるべの涙の荒磯を御船の上にしめし心を、後醍醐天皇

鳥取の東に因幡山、田原村の西南に丹後宮土

原に乏しく、所々よ狭少の農産地あり、而して中國山脈は著しき高山なく、西部に徳佐峯あり、出雲備後の境に、阿圖馬山あり。雲伯の境なる船通山は、又鷺川上と稱し、八雲立つの古蹟と傳へられたり、尙東に走りて、數個の三國山となり、近畿に入りて愛宕山、比叡山となる。中國山脈は、斯く兩道を劃するを以て、南北の兩海岸を通ずるには、必ず此脈を踰えざるべからず。

○山陰道沿岸に火山脈あり、即ち雲石の境に三瓶山聳え、伯耆には大山あり、高さ五千九百八十六尺、中國第一の高峯とす。其の北に峙つ船上山は、名和長年、義舉の古蹟なり、尙東に趣き一半は陷落して與謝の海となり、一半は若狹の青葉山を経て白山に連るを以て、白山火山脈の名あり。



江の川は上流にては三次川と稱し、河溪は風景奇絶なり、



伯耆の大山

●水系 河流に紀伊を除く外、中國山脈に分水せられ、北流して日本海に朝する系と、南流して瀬戸内海に注ぐものとの兩系あり、故に之を日本海系及瀬戸内系に分つべし、○日本海系の江の川(見川岩)は、備後安藝の諸水を集め、中國山脈を破りて北流すること五十里、石見灘に注ぐ、是れ中國第一の大河なり、舟楫の通ずること殆んど二十里に達し、灌漑は廣き農産地なり、由良川は江の川に次げる長流にして、丹波より來

由良川は上流にては和知川、福智川、音無川とも云ふ。

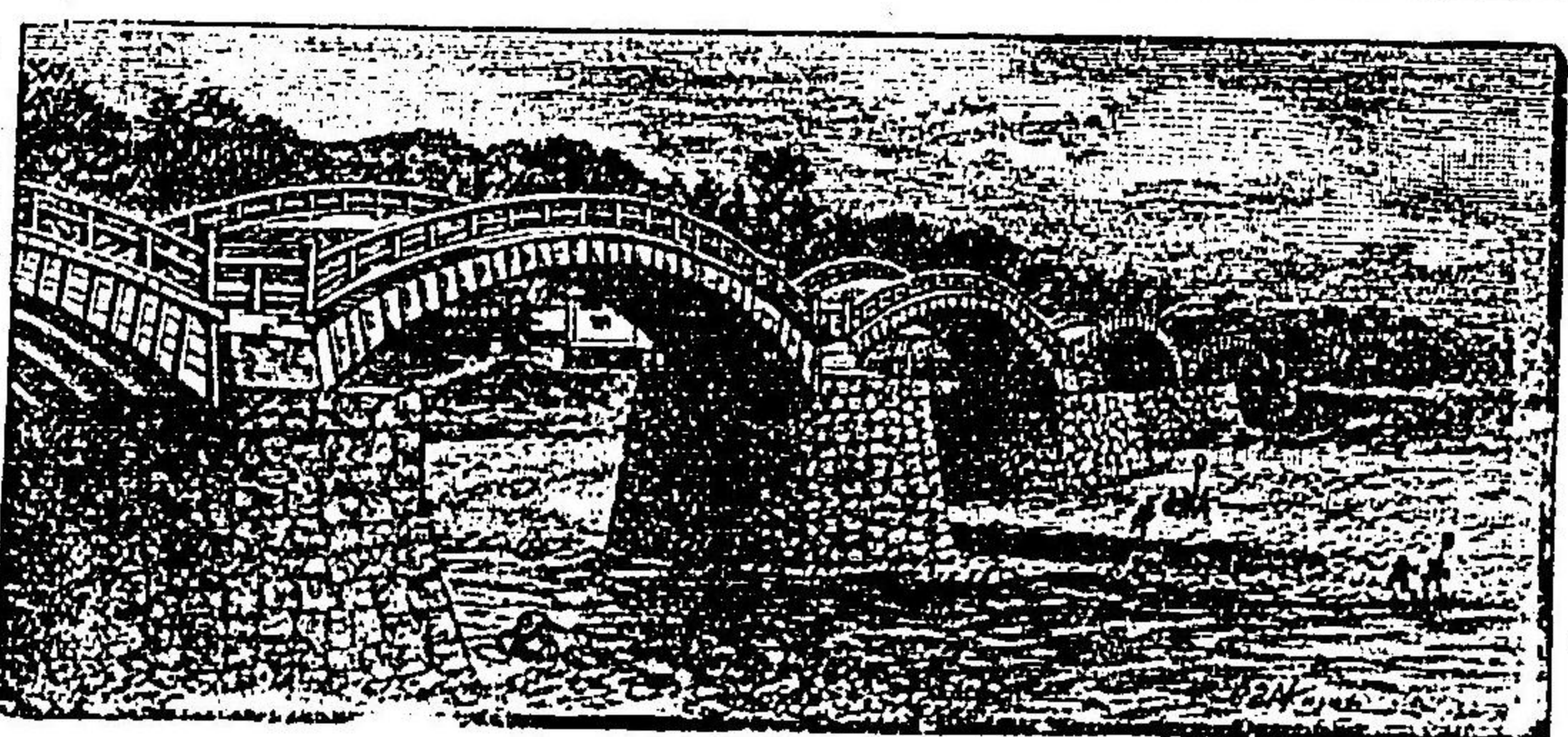
伏見大阪の間には小汽船往來し、安治川とは即ち大阪港にして、現今築港中なれば、將來一層の良港たるべし。

り。丹後に入りて、由良港に注ぐ、流域は丹波、丹後の主要なる生産地なり。但馬の朝來河溪は、丹播の通路にして、因幡の干代川(一名賀)は、灌漑廣く、鳥取市東岸に立てり、伯耆の日野川流域は、同國西部の生産地にして、共に山陽に通ずべし、出雲の簸川、神門川は、共に灌漑の利ありて、主要の農産地なり。長門の阿武川は、一に萩川と稱し、萩平地を貫き海に入る。○瀬戸内系の淀川は、琵琶湖より來り、上流を勢多川と云ひ、後宇治川と稱し、産茶地方を過ぎ、丹波保津川の下流なる桂川(大堰川)を容れ、淀に至りて南より來る木津川と合して、淀川と稱せられ、大阪に至り、安治、木津の兩河に分れ、大阪灣に注ぐ、長さ二十里なれども、水深く流れ緩に、運輸の便を極め、灌漑は畿内平原にして、豊饒の地なり。

五畿山勢似  
奔波一水南  
流長湊川河  
水空枯山鎮在  
嗚呼時時夕陽  
多  
草場船山

○大和川は大和に發し、河内の中央を貫き、大阪灣に入る、灌漑の便ありて、流域よりは綿を産す。湊川は楠公の戦死を以て著名なり。播磨に四川あり、加古、市、楫保、千種といふ、共に播州の生産地を築けり。備前に旭、吉井の二川あり、共に美作の北境に發し、一は高田川、又は西大川と稱し、岡山市を過ぎ、他は津山川、又は東大川と呼ばれ、共に兒島灣に入る。備中の河邊、川(大)備後の蘆田川の流域は、吉備の主要部なり。安藝の太田川は、南流して廣島に到り、數派に分れ、廣島灣に入る。周防の岩國川は、一名錦川と云ひ、下流には算盤橋の稱ある、錦帯橋を架せり。以上の諸河は、概ね并行して南に走り、瀬戸内に入る、流れ長大ならざれども、多少の流域を開き、地味肥沃にして、中國米爰に産し、其の外幾多の農産物を養ひ、又山陰、山

陽との交通路なり。



錦 帶 橋

○大和の南部及紀伊の水は、總て外洋に入る、即ち大臺原山に發する吉野川は、西流して紀伊に入り、紀ノ川と稱せられ、和歌浦に注ぐ、長さ四十七里、和歌山の附近は農産地なり、有田川、日高川は、共に西流して紀伊水道に入る、有田川の灌域は、有名なる紀州蜜柑の産地にして、其の河口は蜜柑の輸出處なり。熊野川は大和より發し、南流して紀伊に入る、流れ急に舟楫の便少なければども、奇景を以て名あり。

熊野川の上流  
に瀬八丁の奇  
濱あり

湖沼

尖道湖には、汽船往來せり、

夜見濱は河流の土砂を運搬すると海波の作用によりて生成せり、

沿海

○湖沼 山城の巨椋池は、宇治川の水害を除く爲めに、豊太閣の開鑿せしものと云ふ、河内の狭山池は、灌漑のため、崇神天皇の時穿ちしものと傳へらる。山陰道の尖道湖は、区内第一の大湖(周十三里)にして、島根半島に擁せられ、古は中ノ海と相通ぜしを以て、意宇の海と稱せり、風景清秀にして、鱸、鰻の名産あり、中の海(周十六里)は、西馬瀨瀬戸によりて、尖道湖と隔て、東夜見ヶ濱の砂丘によりて、日本海と相分つ、半鹹半淡の湖水にして、魚類を産すること多し。

●沿海 瀬戸内海は、中國、四國、兩山脈の峽間に湛へたる海水なり、兩岸の山色黛の如く、長汀曲浦參差として相交り、數多の島嶼海中に碁布し、翠松白波に映じ、風光は世界に稀れなる瀬戸内海の景勝にして、此の内を航すれば、身畫中の

ほのくとか  
かしの浦の朝  
きりに島かく  
れゆく船をし  
ぞ思ふ、



人たるかと疑ふ程なり。此内海の東端は大阪灣にして、楕圓

形をなし、交通の要所を占め、東西の旅客、貨物の吞吐所にして、海運の便無雙なり、故に兵庫、神戸、大阪、堺等の良港、其沿岸にあり、大阪港は安治川口より船出入す、築港完成の曉は、東洋稀有の良港となるべし、攝津、播磨の海岸には、須磨、舞子、明石、高砂等の勝地あり、砂白く、松翠に烟波の間に淡路島を望むべし。

○播磨の沖は播磨灘と稱し、飾磨津、室津等の港あり、備前に

古の藤戸渡は、今は兒島半島の地頭となれり、藤戸は佐々木盛綱の渡りて平軍を破りたる所、

阿武菟岬の觀音堂より見をるせば、數尋の下に、奇々たる海潮、足元に湧きかへり、目も眩き足の骨も痒きばかりなり、  
吉田重房 筑後紀行

は兒島半島挺出して、兒島灣を抱けり。備前、備中の海は、水島灘と云ひ、東に玉島、西に笠岡港あり。備後の阿武菟岬には、鞆津の佳港あり。其の西の灣入に、尾道の良港あり。其の西糸崎は近時開港場となれり。此海上を備後灘と稱す。  
○廣島灣内の吳港は、軍港にして、江田島には海軍兵學校あり。其の南に倉橋島あり。本土との間なる音戸の瀬戸は、清盛の開鑿せし處と云ふ。宇品港は廣島市を控へ、二十七八年の役に樞要の港たりしは、人の知る所なり。有名なる嚴島(宮)には、市杵島神社あり。華表白波の中に建ち、社殿崖に依り、潮満る時は、殿廊潮に浸されて浮ぶが如く。日本三景の一なり。  
○周防の室津半島は南に出で、其の東の海上に大島あり。(周(三)里)西に室積、三田尻の港あり。此海上を周防灘と稱す。壇ノ

莫經潮頭、  
於衙門一  
出是玄洋  
山陽



浦は西隅にあり、平家没落の所なり。馬關海峽に臨み、下ノ關の良港あり。門司港と

相對す、其の間僅に五六町、瀬戸内海の要關たり、之を出づれば玄海洋なり。

○瀬戸内海の面積は、約百三十方里あり、宛然湖の如く、風波平穩なる東西航通の要路にして、船舶の往來古より頻繁なり、且つ其

舞鶴は第四海軍區の軍港



天 之 橋 立

の沿岸は漁鹽の利夥しく、「十州鹽田」と稱し、最も鹽製に適せり。  
○日本海岸は、丹後に與謝山嘴出でて、與謝海を抱き、内に舞鶴、由良、宮津の三港あり。舞鶴港は宮津港の北に當り、一條の砂洲遠く海中に亘るは、日本三景の一なる天の橋立なり。伯耆の西端に砂嘴遠く出るを夜見が濱と云ひ、其の北端に境の良港あり。

島根半島の北端を多古島、四端を十六島鼻とも云ひ、巨嶺多し。

隱岐港より境港へ四十四淵

聖武天皇當地に幸し給ひ、登山望海此間最好、不勞遊行一足以遊覽故改稱濱名爲「明光之浦」

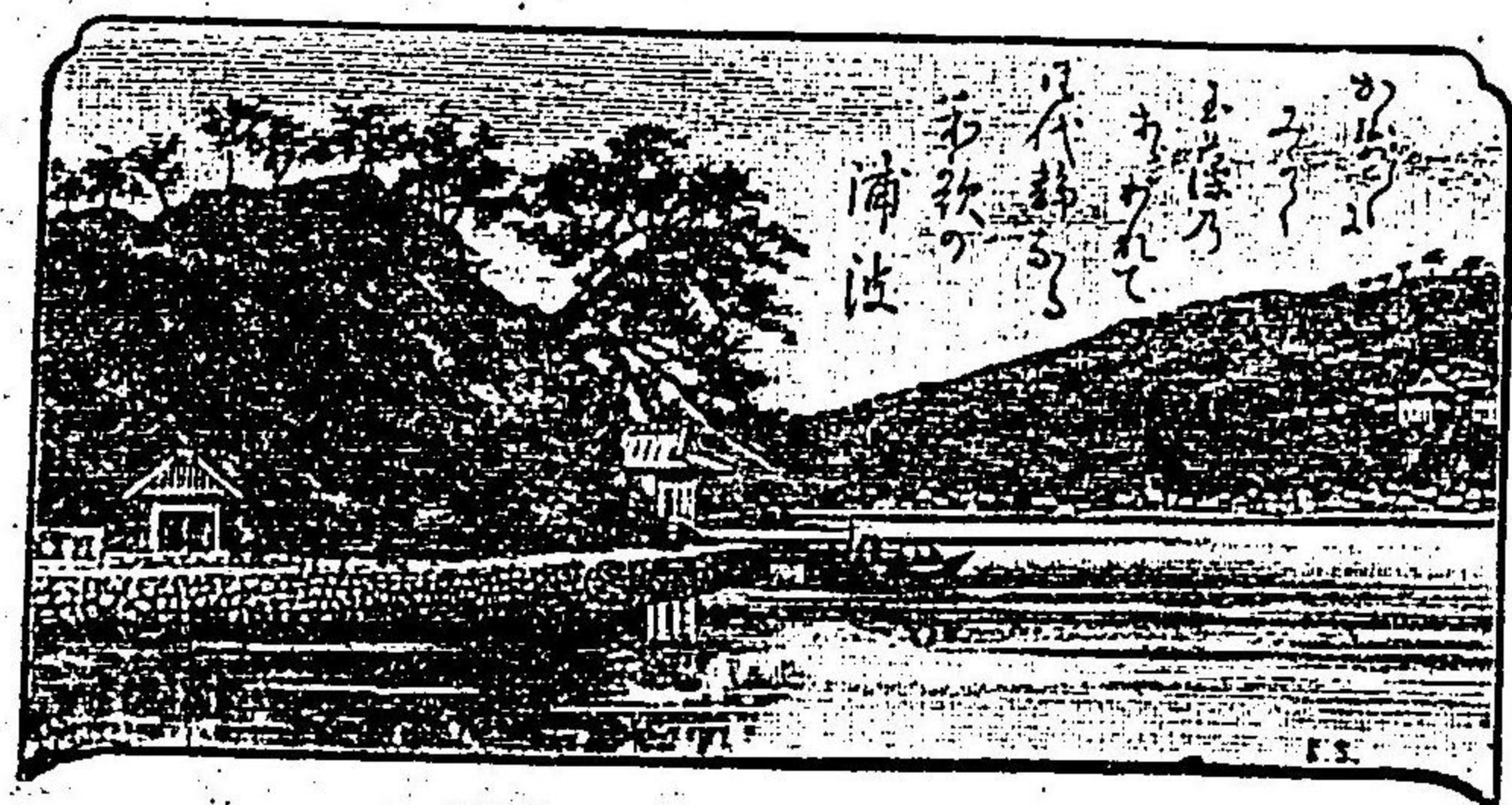
○出雲には島根半島挺出し、其の東部に美保關港あり。石見の海上を石見潟と云ふ。長門西方の海上は響灘にして、彦島六連島、三島等あり、長門の北海岸に青海島あり。  
○隱岐は四大島より成る、最大島を島後（周三十里）とし、南に西郷港あり。一に隱岐港と稱す。他の三大島は西島、中島、知夫里島にして、是を島前と總稱す。

○紀伊は外洋に突出し、其の海岸は概ね絶壁を爲せり。南端を潮岬と稱し、本州の最南端なり、大島其の前に當り、黒潮の急流に當る。潮岬以東は熊野浦と稱し、波濤險惡に、往々船舶難破の害あり、港には浦神、新宮あり。潮岬を西に廻れば、紀伊水道にして、沿岸に田邊灣あり、和歌の浦は、和歌山の南にあり、風光明媚にして、聖武帝「明光の浦」と名を賜はりたる名所

處誌

なり。淡路島は瀬戸内海及紀伊水道の口に横はり、東は由良海峽にして、西阿波との間は、有名なる鳴門海峽なり。

●處誌 畿内は古來本邦の中心にして、歴代の帝都は、概ね爰に定められ、上方と稱し、文華の集點たりし。土地亦肥え、産物豊なるを以て、人文夙に發達し、人質優和なり、山陰の地は、太初出雲系統の經營せられし地にして、頗る發達したりしかども、中世以降は、他所の多事なりしに拘らず、著しき出來事なかりし、故に人氣朴直なれども、稍偏狹たるを免かれず。山陽の地は、交通頻繁



和歌之浦

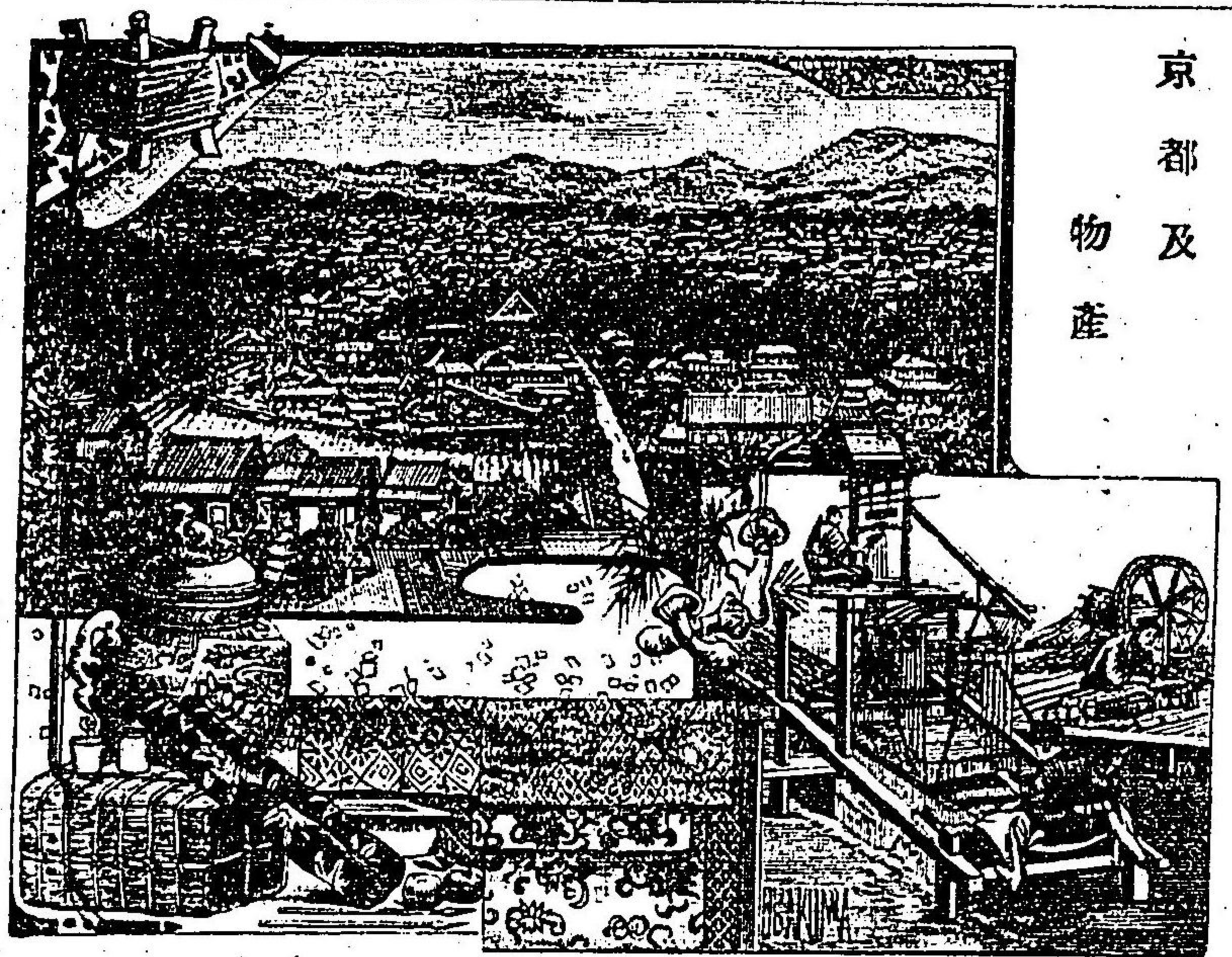
京都府

の衝に當るを以て、住民一般に慧敏なり。紀伊は有名の高野山ありて、古來佛教盛なり。

●京都府 山城丹後の二國及丹波の五郡

○山城は山峯を以て繞らし、亦清流前に横はる、所謂山河襟帶、自然の城なり、人質亦自ら優雅なり、京都市は其の中間に建ち、桓武帝延暦以降、明治初年七十一代千七十六年間の帝都にして、東京に對し、西京とも稱し、人口三十五萬あり、東に加茂川を帶び、大路七條を通じ、小路之を貫き、街衢井然、碁盤の目に似たり。古は左京、右京、洛中、洛外の稱ありしが、今は上京、下京の兩區に分ち、三條通以北を上京、以南を下京といふ。御所は上京區にあり。本府は關西學問の叢園にして、京都帝國大學を始め、第三高等學校、同志社、美術學校等あり、又美術

京都及物産



工藝の地となり、西陣織、友禪染、縫箔、清水焼、其の他の手工の雅致あること他の及ばざる所なり。市の内外に東山、西山等、山水明媚の間には、神社、佛閣甚だ多く、平安神宮、北野神社、兩本願寺、知恩院、金閣寺、銀閣寺、十三間堂等、著名なる建物あり、名所を探り古蹟を訪ふ内外の客、四時絶えず、遊人をして轉た舊都の往事

東京へ三百三十哩、大阪へ二十七哩、奈良へ二十六哩、

天王山、豊臣と明智光秀と共に、登先を争ひし所、

を追想せしむ。陸路には鐵道ありて、東京、大阪、奈良に通じ、水路は淀川ありて、運輸を資け、

嵐山



又琵琶湖より水道を疏通し、水力を利用し得べし。要するに、京都は舊都たるの面目を存せり。

○伏見町は京都の南、奈良鐵道に沿ひ、淀川の岸にあり、京阪間を往來する淀川船は、此地まで達す、町に第四師團の工兵隊屯營せり。其の西八幡には男山八幡社あり、淀川を

龜岡、松平氏  
五萬石の舊城  
市にして、此  
地より嵐山の  
間、保津川の  
奇景あり、  
宮津は、本莊  
氏七萬石の舊  
城地、  
舞鶴元と田邊  
と稱し、明治  
初年今の名に  
改む。

### 大阪府

東京へ三百五  
十六哩、奈良  
へ二十五哩、  
神戸へ二十哩、  
廣島へ二百九  
哩、

隔て、天王山と相對せり。  
○丹波は山間の僻地なり、福知山町は、福知川に臨み、今、歩兵  
第二十旅團司令部を置く。龜岡町は元の龜山なり。丹後には  
宮津、舞鶴あり、宮津は新開港場にして、舞鶴軍港には鐵道將  
に通ぜんとす。

●大阪府 管轄 河内、和泉の二國攝津東部の四郡

○攝津は古より内海の要津なれば、攝津職を置き、管理せら  
れたり、是れ國名の起源とす。大阪市は淀川口に跨り、人口八  
十二萬ある大都會にして、市は東、西、南、北の四區に分ち、街衢  
能く整ひ、溝渠縱横に疏通し、橋梁の多き全國に冠たり。鐵道  
四方に通じ、又海路は瀬戸内海の要衝にして、安治川口は「出  
船千艘入船千艘」と稱し、船舶常に輻湊せり。故に東西貨物の



造幣局

集散を司り、自ら全  
國商業の中心府と  
なり、關西物價の昂  
低は、多く此市場に  
左右せらる。  
○製造の業又盛に  
して紡績、燐寸、船舶  
銅器、鐵器等の製造  
行はる、輸出品の重  
なるものは、錫、寒天、  
燐寸、綿糸、綿布類に  
して、輸入品は、米、豆、



大阪市の西北にある池田は、醬酒、木炭を以て名あり、

綿、砂糖等なり。大阪城は市の北にあり、豊臣秀吉の築きし所、宏壯堅固を以て稱せらる、第四師團司令部を城内に置く、市内には造幣局、中ノ島公園、天満宮等あり、市の南に高津、今宮、天王寺等ありて、遊覽の地少からず、堺市は(和)大和川の吐口にあり、人口五萬、古は外國との互市場なりき。阪堺間鐵道の往復繁く、段通及鐵器の製造に名あり。河内の東南に金剛山、又北部に關西鐵道にそひて、小楠公を祀る四條畷あり。

### 奈良縣

●奈良縣 管轄 大和全國

○大和は、神武天皇以來、上古代々の奠鼎地にして、古蹟各所に散在し、世に「大和巡り」と稱して、遊人の來り訪ふもの多し、殊に近來は鐵道京阪、名古屋より通じ、遊覽の便あり。奈良市は三笠山の南に在り、此地は元明帝より以下七代、八十四年

南都七大寺とは東大寺、興福寺、大安寺、四天王寺、藥師寺、法隆寺、元興寺にして、内大安寺元興寺は殆ど廢頽せり。

神武陵



吉野櫻



間の帝都にして、一に南都と稱し、我

邦美術の淵源地なり、東大寺は著名なる大佛(聖武天皇の建立高さ五十三尺)興福寺に高塔(高さ五十六尺)あり、春日社は春日山麓にあり、神鹿悠々として、戯れり、法隆寺(舊斑鳩寺)は奈良の西部、鐵道に沿ひたる法隆寺内にありて、建築の古雅と寶物の多きを以て顯はれ、其の他、南都七大寺と稱して、名刹多く、

和歌山縣

和歌山の東南里餘に磯山神社あり、祭神彦五瀬命一なたけびの神代の御聲おもほへて風げしき磯山の松宜長

何れも歴史美術に關する優秀なる古器名畫を藏す。畝傍の神武帝陵を始め、歴代の山陵、宮趾、天の香久山、吉野の櫻花、月ツキ瀨梅溪、龍田の紅葉等の名所尠からず。

●和歌山縣 管轄 紀伊の七郡

○域内平地に乏しく、且つ南邊に僻在せるを以て、交通不便なれども、頗る森林に富み、良材を出す、是れ「木の國」の起源なり、和歌山市は紀の川の吐口にあり、元、徳川三家の一なる紀州侯(五十五萬石)の城市にして、人口六萬、綿、フランネル、雲齋織を産す。其の南の湯淺、田邊及び新宮はともに海濱の小都會なり。

兵庫縣

●兵庫縣 管轄 攝津三郡、丹波二郡、及播磨、但馬、淡路の

三國

神戸の東、四宮、伊丹は共に清酒の名産地、

曾根天神松、石の寶殿、高砂の相生松、尾上鐘、別府の手枕松、

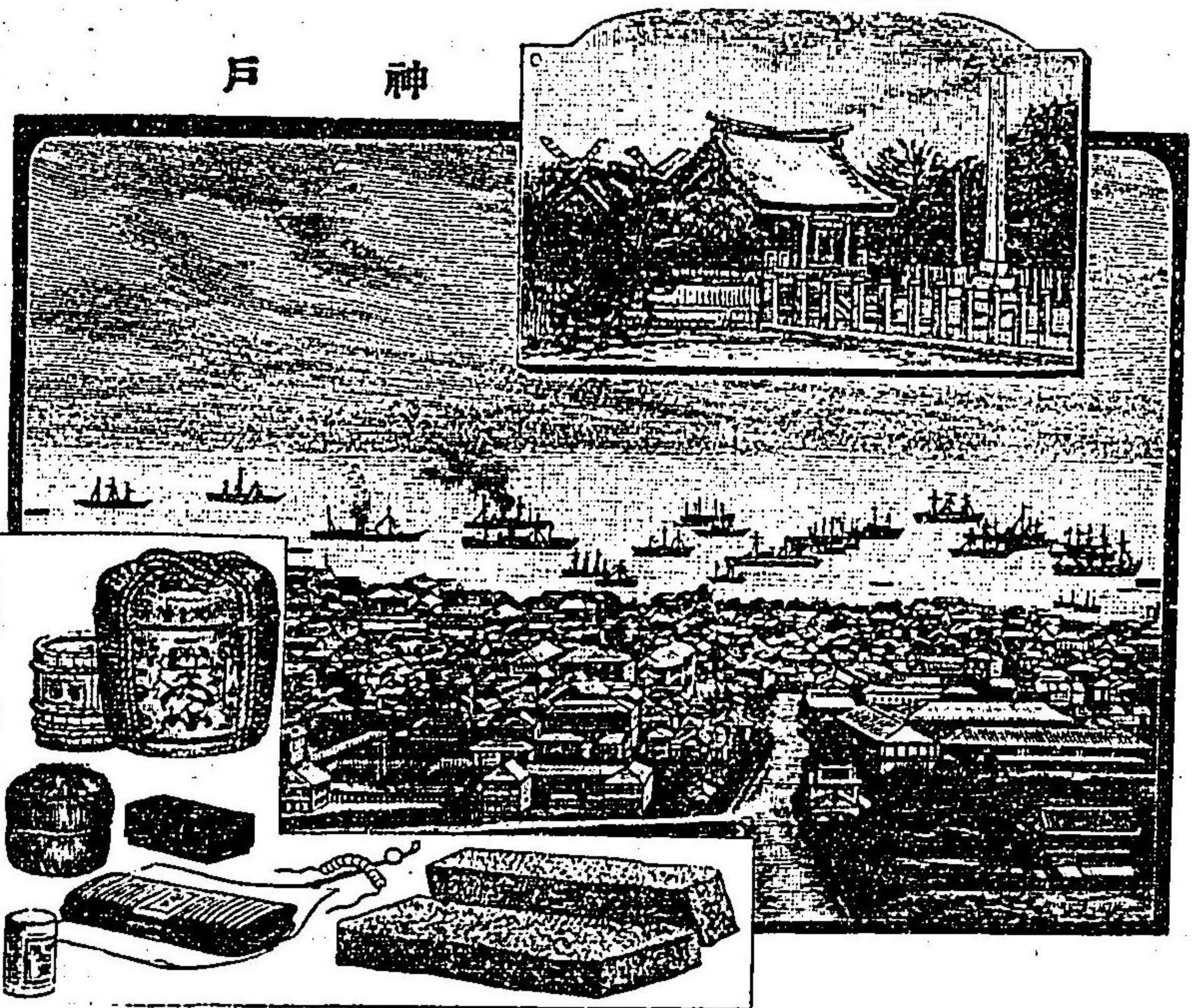
○本縣は畿内及山陰、山陽、南海の三道に跨り、境域甚だ廣し。神戸市は攝津の西南部に在り、北は山を負ひ、南は海に濱し。西、湊川を挟みて、兵庫と連り、港灣廣く、水深く、大船巨艦を容るべし、各國の船舶輻湊し、市街殷賑にして、外國貿易の盛なる横濱に次ぐ。重なる輸出品は、米、茶、燐寸、銅、氈等にして、輸入品は綿、綿糸、砂糖等なり。昔は寂寞の一漁村なりしが、慶應三年開港以來俄に繁華に赴き、人口年を追ふて増加し、今は二十一萬の多きに上れり、兵庫縣廳玆に在り。湊川神社は湊川の東にあり、其の他近郊に生田の森、布引の瀑等あり、○播磨は土地肥沃にして、海濱は曾根松、高砂松等の勝地あり。宮本武藏、大石良雄、此地に出身せり。姫路市は中國の要衝に當り、人口三萬を有し、市街稍繁盛なり、城は豊臣氏の築き

姫路は酒井氏十五萬石の寄城市

明石は松平氏十萬石の寄城地

淡川神社

神 戶



し所、白鷺城の名あり、今は第十師團司令部を置く。革細工、高砂染を産す。明石町は國の東端にある勝地にして、赤穂町は西にあり、食鹽を産し、四十七義士を以て有名なり。  
○丹波の篠山は加古河の上流にある小都會なり。但馬の

岡山縣

神戸へ八十九哩、廣島へ百

松平氏十萬石

生野は銀山を以て有名に、今鐵道の便あり。豊岡には柳行李を産し、出石には陶器を出し、名僧澤庵の出身地なり。  
○淡路は瀬戸内海の一島國なり。先山其の中央に峙ち、眺望佳なり、北に岩屋、南に福良、東に由良、洲本の小都會あり。

●岡山縣 管轄 美作、備前、備中、三國

○備前は吉井、旭二大川の流域を占め、地味肥え農産豊なり、和氣清鷹、兒島高德、熊澤蕃山等此國に出たり。岡山市は旭川に望み、元池田侯(三十萬石)の城市にして、其の城を鳥城と云ふ。山陽鐵道の中途に當り、人口五萬八千、市街繁盛なり、第六高等學校及本邦三公園の一なる後樂園あり。

○美作は山間の一小國にして、津山町は中央平地にあり、因伯二州の貨物を此地に集め、吉井川によりて運送するを以

國の東部真金の北一里弱に高松の城地あり、玉島は多度津丸龜へ渡る汽船あり、

廣島縣

廣島淺野氏四十二萬六千石の舊城地、

吉田、毛利氏の舊城地、

て、商業繁昌せり、足袋、雲齋織を産す。其の西一里許に院の庄あり、高德の櫻樹を削りて、赤心を題せし處なり。  
○備中は備前、備後と共に、吉備と稱したり。高梁町は國の中央に在り、備中第一の都會とす、玉島も小都會なり。

●廣島縣 管轄 備後、安藝二國

○安藝は中古毛利氏の割據せし處、後、淺野侯の封地たり、賴氏は其の藩士なりき。廣島市は、毛利輝元の創むる處にして、廣島灣を控へ、太田川に跨り、陸には鐵道あり、海には宇品港を控へ、北は山陰道に通ずべく、實に中國の要地たり、市街繁盛人口十一萬を有し、大阪以西の大都會にして、中國の大阪と稱せらる、明治二十七八年の役、大本營を此市に進め給ひ、空前の大勝を制せし以來、廣島の名は世界に轟けり、第五師

福山は、阿部氏十一萬石の舊城地、

山口縣

岩國、吉川氏六萬石の舊城市、岩國町は、錦帯橋及岩國縮を以て知らる、

團司令部、控訴院等あり。  
○備後の尾の道市は鐵道の要衝に當れり、海路は中國及四國の各港に通じ、瀬戸内海の一要港なり。

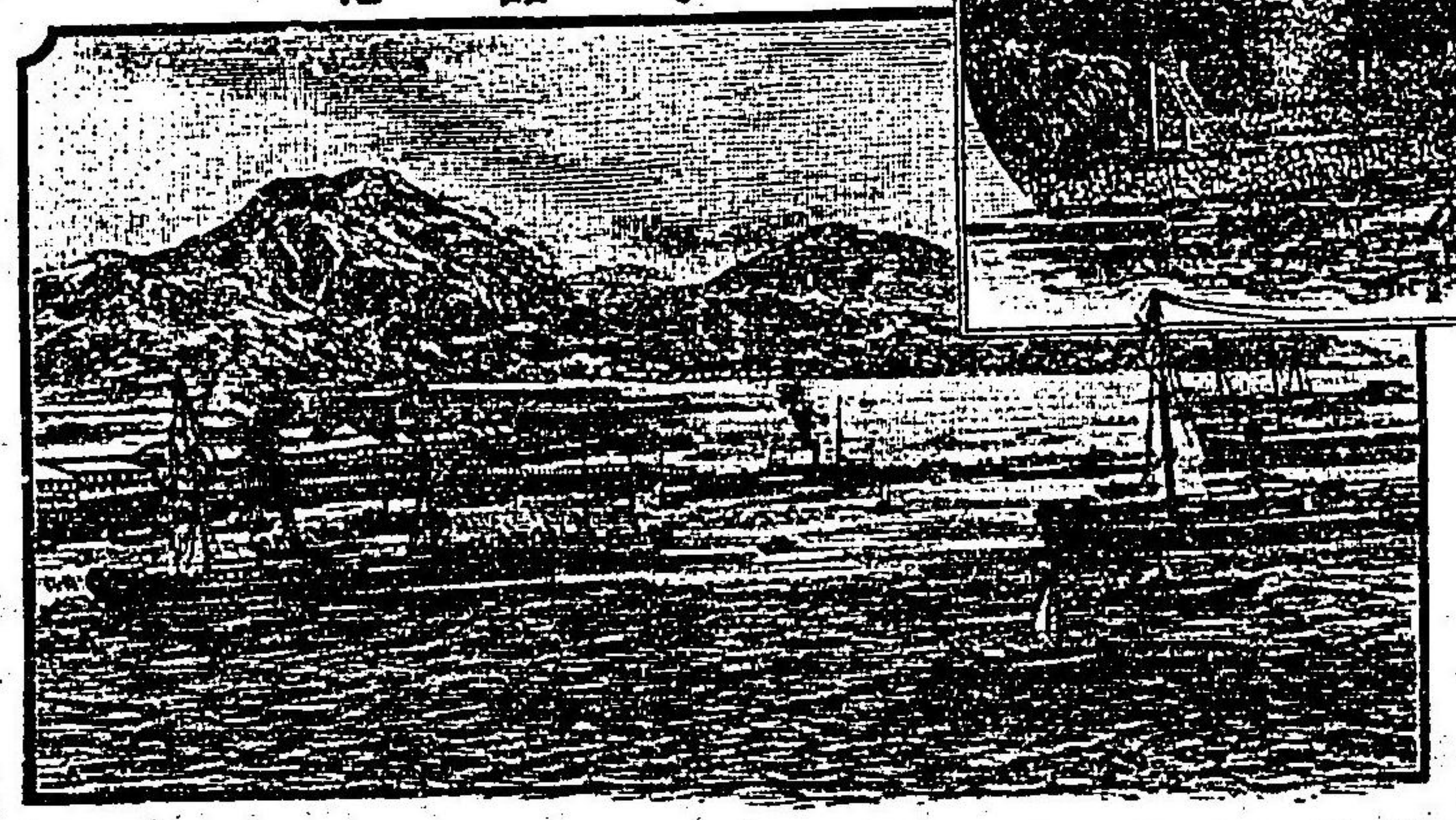
●山口縣 管轄 周防、長門二國

○長防二國は毛利氏及其の一族の封地にして、中國の雄藩なりき。近世人物輩出し、維新の大業を翼賛せし人多し。山口町は周防西部にあり、大内氏十二世割據せしが、

廣島城



宇品港



赤間關之景



萩は、毛利氏三十六萬九千石の舊城地、

後、毛利公、萩より茲に移る、今は山口縣廳、高等學校、歩兵第四十二聯隊營所あり、徳山は海濱の一都邑にして門司に渡る要津なり。赤間關市は長門の南端に位し、九州中國の咽喉を扼し、東西交通の船舶は、必ず此海峡に由る、赤間關市は貿易港の一にして、人口四萬一千、市況殷賑、百貨輻湊す、清國と媾和條約成りし地なるを以て著名なり。萩町は日本海に瀕し、毛利氏數代の居城なり、夏橙、萩焼を産す、吉田松陰は此地の志士なり。

島根縣

●島根縣

管轄

出雲、石見、隱岐三國

松江、松平氏十八萬六千石の舊城地、

○出雲は太古出雲派の開かれし古國なり、松江市は宍道湖畔風光絶佳の地を占め、人口三萬四千を有し、山陰道第一の都會なり。島根縣廳茲に在り。杵築町には出雲の大社あり。  
○石見に濱田町あり、町に歩兵第二十一聯隊を置く。津和野は中部山間の小都會なり。  
○隱岐の西郷港は島中の一都會

松江市街



鳥取縣

鳥取市の東南一里約に宇倍神社あり、武内宿禰を祈る

とす。西の島には後醍醐天皇の蒙塵し給ひし黒木御所の舊趾なり。中の島には後鳥羽上皇の陵あり。

●鳥取縣 管轄 因幡、伯耆二國

○鳥取市は千代川畔に建ち、人口二萬八千あり、元池田侯の城市(三十二萬石)なり、歩兵第四十聯隊を置く。

○伯耆は忠臣名和氏の世々據りし所なり。米子町は中の海に臨める要港にして、練綿を産す。境港は夜見が濱の端にある開港場なり。倉吉町は東部にありて飛白織を産す。

交通

●交通 畿内は水陸共に交通便利なれども、大和の南部より紀伊に至れば、到る所山岳起伏し、行路頗る困難なり。且

鐵道未だ開通せず陸運甚だ不便なり。中國は中國山脈横りて、南北の横斷は頗る難けれども、海岸及河谿に沿ひたる道

山陰道は、京都より丹波を経て、日本海岸を通じ、山陽道は、大阪より内海岸に沿ひ山口の南に於て、山陰道と會す。

「中國廻り」の寄港地、大阪、神戸、高松、多度津、新津、尾道、三原、忠海、竹原、音戸、吳、宇品、宮島、岩國、久賀、柳井、徳山、三田尻、門司、馬關、氣候

路あり。山陰山陽の兩道は共に赤間關に達し、別に中國山脈を横斷して、兩道を連絡する通路少からず。鐵道の本區を通ずるもの甚だ多く、神戸、京都間(四十哩)に官線鐵道あり、神戸、三田尻間に山陽鐵道あり。此兩線を幹線とす。其他關西鐵道、播但鐵道、阪堺鐵道、中國鐵道等あり。瀬戸内海は汽船の交通頻繁にして、「中國廻り」と稱す。然るに日本海岸は汽船の航通寂寥たるのみならず、鐵道も亦東部少許の間を通ぜるに過ぎず。故に文明的交通機關を缺き、其發達山陽に數歩を譲れり。

●氣候 域内は概して氣候溫暖なれども、近畿と西國とは多少の差異あり、即ち近畿中央の平野は、内地性氣候にして、寒暑共に強し、殊に京都は山に圍まるゝを以て、夏は涼を送る海風なく、冬は凜冽なる比叡風あり。内海岸各地は、冬温

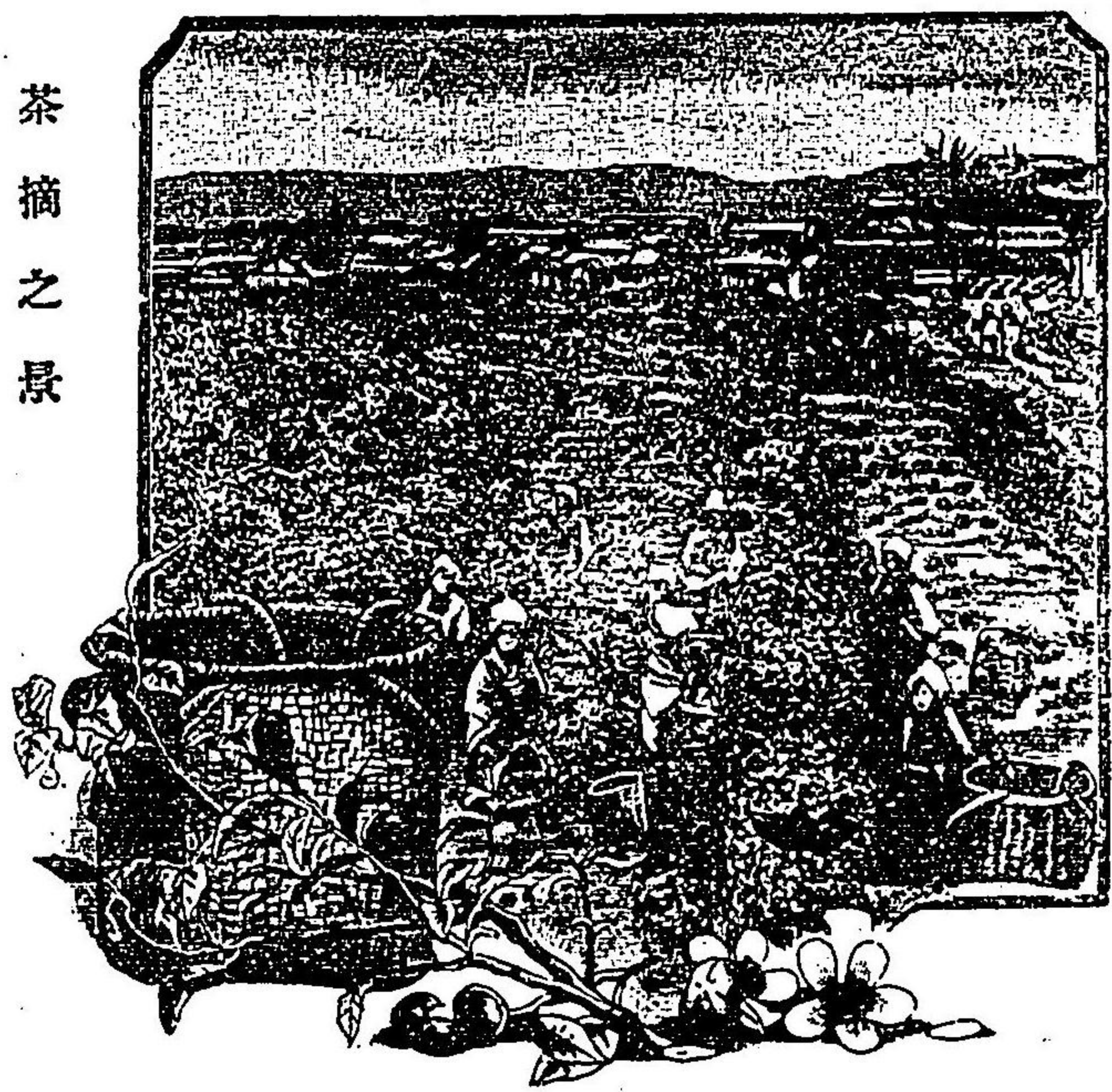
暖にして、夏は頗る暑し、又紀州沿岸は冬も温暖に、九州南部に比すべし。山陰道の冬期は北陸地方と同じく北風烈しく航海甚だ困難なり。雨量も各地甚だ差あり、紀伊南部は本邦最多の部に屬すれども、瀬戸内海に瀕する各地は、一般に寡雨にして、製鹽に適す。而して山陰は冬期に至りて晴天少く、積雪稍深し。

産業

●産業 畿内は美術工業地たるのみならず、農産亦甚だ饒なり。山陰道は地味瘦せ天産に乏しく。山陽道は良好の生産地多く、著しく生活の要素に富めり、要するに本區は農産を以て重なる富源となせり。

畿内山陽の各地よりは、夥しく米を産し、兵庫は新潟に次ぎて、米の産額多く百四五十萬石を産す、岡山、山口等も、亦百萬

石以上の收穫あり。其の他の穀産亦多し、畿内の各地は又菜



茶摘之景

蔬に名あり。又山城の茶、丹波の煙草、但馬伯耆の麻、紀州の蜜柑、出雲の人參、三備の疊表、花蕙等は、何れも著名産なり。畿内の南部より、紀州に亘りては、綿の産多く、其の花時には、西風咲、白木綿國、一路穿花是紀州の景あり、故に之に附隨する木綿夥しく、大和飛白、河内木綿、堺段通

織物日本全國總產額一億四千四百萬圓、京都は、二十九百三十萬圓、丹後の縮緬、但馬の柳行李、出石焼、出雲焼、石州草紙、姫路革、備前の刀劍、伊部の焼、備中の紙、淡路の伊賀野焼、紀州の黒江漆器も名産とす。

紀州綿、フランネル、雲齋織等あり。又中國の各地にも、伯耆木綿、明石縮、帆木綿、高砂染、美作の雲齋織、岩國縮、大島木綿等を産す。

○京阪附近は各種の工業盛にして、京都の工藝品は、前に言へるが如し、大阪の紡績、神戸附近の燐寸は、支那、朝鮮に輸出するもの多く、兵庫の灘地方の醸酒は、全國に最たり。其の他各地より手工品を出す。

○畜産は中國を主とし、但馬牛を始め、世に、神戸牛と稱するは中國各地より出づ。特に備後、備中は、其の頭數の多きこと本邦第一なり。

○瀬戸内海岸の製鹽業も、我邦第一にして、産額全國の半を占む。漁業は長門、紀伊、隱岐最も盛なり、内海岸は安藝を最と

攝津の御影石、長門の赤間硯、石炭紀伊の那智黒石、

風土比較

し、本區の漁産額は、總て四百萬圓に上る。  
○鑛産は中國に豐なり、生野は最も多く銀を産す。鐵の産出は島根を以て全國第二とし、廣島は其の次に位す。  
●風土比較 以上逐條述べ來りたる事項を、近畿、山陰、山陽とにより相比すれば、左の如し。(畿内附近を總稱して近畿と云ふ)

| 東部(近畿)  | 北部(山陰道)   | 南部(山陽道)   |
|---|---|---|
| ○北に中國山脈を負ひ、南に紀伊山脈蟠まり、大河は多く中央平野を流る。<br>○濱海の地少く、港灣に乏しけれども、良好なる大阪灣あり。<br>○北半は肥沃の平野にして、農産及工産豊に、 | ○南に山を負ひ、北方日本海に向ひて緩斜し、河流多く北流す。<br>○海岸出入に乏しく、良港及半島少く、海上には島嶼多からず。<br>○耕地少く農産豊ならず、鐵産に富む。<br>○沿海浪荒く、冬期は船 | ○北に山を負ひ、南方内海に向ひて傾斜し、河流總て南流す。<br>○海岸出入多く、良港及半島多く、海上には島嶼少からず。<br>○耕地多く農産及鐵産豊に、又製鹽の業盛なり。 |



南半は山國にして、木材に富む。  
 ○沿海船舶の交通繁く、山地は交通不便なれど、平地は鐵道の往來頻繁なり。  
 ○氣候溫暖に、雨量は南北によりて差異あり。  
 ○域内は甚だ發達進歩して、繁盛の都會多し。  
 ○古來本邦の中心を占め、治亂興廢の跡實に多し。

船舶の往來をたち、陸には汽車の便なし。  
 ○氣候稍涼しく、雨量多く製鹽に適せず。  
 ○域内は甚だ發達進歩せず、繁盛の都會少し。  
 ○中心地方と遠ざかり治亂の跡少し。

○内海は浪靜かに、船舶の往來四時頻繁にして、陸には鐵道の便あり。  
 ○氣候稍溫暖なり、降雨少く製鹽に適す。  
 ○域内は益發進歩して、繁盛なる都會少からず。  
 ○古來東西の要衝にして、歴史上の出來事尠からず。

### 四國區誌

●本區の北は瀬戸内海を隔て、山陽道に對し、南は渺茫たる太平洋に瀕す、東は鳴門海峡によりて、淡路島及紀伊水道を隔て、紀伊に對し、西は豊後水道によりて、九州と相望む。内に四國あるを以て、此の名あり。面積一千百八十方里、人口凡三百萬ありて、左の四縣を置く。



四國區圖

#### 四國區

- 德島縣
- 香川縣
- 愛媛縣
- 高知縣

### 地形

●地形 本島の形は、兩翼を東西に張り、北に向ひて翔ける蝙蝠の如し。其の兩翼を貫きて、地路をなせる四國山脈は

四國に紀伊淡路を合せて南海道

支脈に雲邊寺山、大川山あり雲邊寺山の山頂に雲邊寺あり、嵯峨天皇の勅願所、

水系

伊豫の佐田岬より起りて、土佐、伊豫の境界を走り、石槌山、瓶ヶ森山等あり、石槌山は本脈の最高點にして、七千七百八十餘尺に聳え、此の脈東に走り吉野川によりて、二派に分る、本派は阿波に入り、遂に紀伊水道に陥る、脈中の劍山は、七千四百尺あり、石槌山と共に四國の雙高峯なり。支脈は阿波、讃岐の境界を走り、遂に鳴門海峡に没す。此の山脈によりて、地勢自ら瀬戸内海と太平洋とに傾斜し、河邊及沿海に平地を存せり。四國島の北邊は、阿蘇火山脈に當り、伊豫の小富士興居嶋及高繩、讃岐兩半島となる。

●水系

排水界廣からざるを以て、河流は長大ならず、只吉野川は分水界の兩側より發し、山脈に沿ひて東に走り、本島第一の長流なるを以て、四國三郎の名あり、東流四十二里、

四國三郎の源は、伊豫、土佐の兩國より發す、

沿海

河口に數個の三稜洲を作り、撫養港に注ぐ、灌域は良好の農産地にして、殊に藍を以て世に知らる。此河谷は東西の主要なる交通路なり。阿波の南に那珂川あり、又灌漑に富み、山間の木材を下すに利あり。其他伊豫に重信川、肱川、土佐に物部川、仁淀川、渡川(四方千名等あり)。

●沿海

瀬戸内海は、古來交通の要路たるを以て、其の沿海の地は、頗る發達す。東に讃岐半島、西に高繩半島突出して、内に凹形の燧灘を擁す。讃岐の多度津は、四國の最良港にして、船舶輻湊し、高松の東なる屋島は、源平の古戰場なり。海上には島嶼亂點して、風景甚だ佳なり。就中、小豆島を最も大なりとし、且つ島中の寒霞溪は、奇景を以て世に名あり。伊豫の西北は、硫黄灘にして、佐田岬西に挺出すること十五里、豊後

の地蔵岬と相對して、佐賀の關を扼す、其の間僅かに三里に過ぎず。其の南は海岸の出入多く、良港ありて何れも汽船碇泊の便あり。

○太平洋岸は、西より蹉跎岬、東より室戸岬出て、南風戦ぐ土佐灣を擁す、灣内に須崎、浦戸の兩港あり。阿波と紀伊との間を、紀伊水道と稱し、北に淡路島横はり、其の間に有名なる鳴門海峡あり、潮水巨礁と相激して渦流をなし、其の聲雷の如く、航行最も危険なり。

●處誌 四國山脈の陰陽、及交通の便否により、風土頗る異なり。南際の地は、海南に僻居し、無涯の大洋を南に受けて、本土との交渉少きを以て、人質朴實にして、勇壯なれども、北際の地は、往來繁き内海に沿ひ、本土と接近せるを以て、機敏

土佐灣は白風年間(天武天皇)大地震の爲に、陸地陥落せり。

處誌

徳島縣



にして稍々鄙俗を帶ぶる所あり、島地なるを以て、一般に海事思想發達し、往々一葉の扁舟を浮へて、海外に航し、壯田圖を試みし英傑を出せり。

●徳島縣 管轄 阿波全國

○吉野河域を占め、土地概ね肥沃にして、農産豊に人質亦商估に長けたり。吉野川の三稜洲に徳島市あり、人口六萬四國第一の都會なり。元蜂須賀侯(二十五萬石)の城市なり。吉野川灌域の貨物は、悉く此の地に集まり、市街繁盛にして、

香川縣

阿波縮を産す。近時此の地より西方に鐵道の便あり。撫養町は徳島の西北海濱に在り、齋田鹽を産すること多く、且つ品質佳良に全國鹽價の標準となる。

●香川縣 管轄 讚岐全國

○半島地にして、三方海を繞らすを以て、海産に富めり、又最も中國に近く、古來本土との交通頻繁なりしかば、屢々兵を蒙り、源平の古戰場多し、高松市は瀬戸内海に望み、水産交通の便を占め、縣廳此の地にあり、人口三萬四千を有す、漆器及保多織の

高松は松平氏十二萬石の舊城地



琴平神社

白峯には崇徳天皇の陵あり、善通寺町の善通寺は弘法大師生誕の舊址

愛媛縣

松山は久松氏十五萬石の舊城地

産あり。其の東、屋島、志度等は、源平の古戰場なり。

○丸龜町は高松の西に在り、第十一師團司令部を置く。多度津は其西に在る要港にして、琴平神社參詣の客は、此地より上陸し、琴平の間(七哩半)鐵道の便あり。其の南の善通寺町には第十一師團司令部を置く。

●愛媛縣 管轄 伊豫全國

○高知縣と腹背をなし、海岸線長く、漁業甚だ盛なり。松山市は瀬戸内海に近く、人口三萬四千、縣廳のある所にして、歩兵第十旅團司令部を置く。松山縞の産あり。三津(或は三津ヶ濱)は松山に近く、船舶輻湊し、毎朝魚市の盛なること、四國第一とす。道後は頗る古き温泉にして、松山近郊に在り、日本三湯の一と稱せらる。今治は高繩半島に在る要港にして、宇和島は西南

宇和島は伊達氏十萬石の舊城地

高知縣

隅の良港なり。

●高知縣 管轄 土佐全國

山内氏二十四萬二千石の舊城地

○土佐は四國の大國なり、人質武健にして辯口明晰なり、維新の際、山内容堂侯を始めとし、坂本龍馬、其の他數多の志士俊傑、此の地より出たり。高知市は鏡川の北岸に沿ひて、吸江灣に接し、山内侯の舊城市にして、海南の雄藩なりき、人口三萬五千、歩兵第四十四聯隊を置く。浦戸は其の南に在り、戰國の時、長曾我部氏此の地に在り、四國全島を統轄せり、須崎は其の西にあり、浦戸と共に土佐灣の良港なり。

交通

●交通 中央に脊梁山脈ありて、交通は其の兩際に於て、大に便否の差あり。即ち北際は瀬戸内航行、至便の通路に當り、中央地方との往來甚だ繁く、且つ陸路も其の沿岸を通じ、

氣候

南部は黒潮暖流の温氣を送り來り、四國山脈に觸れて雨化すれども北際に至れば山脈の爲め、既に濕氣を奪はれたる乾風を被るを以て産業

一二の鐵道も既に開けたり。南際は一帶太平洋に濱し、其の方面中央地とは相遠ざかり、又鐵道も近時徳島附近、少許里あるに過ぎず。道路の幹線は、高松より多度津、松山を連ね、三津に出づるものと、伊豫の川ノ江より、吉野川上流を横斷し、高知に出で、高知より土佐灣に沿ひ、徳島に達する線とあり。

●氣候 氣候概して温暖なれども、山脈の南北に於て差

異あり。南際の沿岸地方は、黒潮によりて温度著しく高く、夏期は亦割合に清涼なり。北際は冬期暖和なれども、夏期は溽暑強し。雨量は南北により一層の差あり、即南際は本邦中最多の部なれども、北際は本邦寡雨の地に屬す。

●産業 南際は農産地域乏しく、内海岸は肥沃にして、米

穀の産あり。吉野川の灌域は、藍の産額全國の四分の一餘に

藍の全國總額  
一千七百九十  
萬貫、徳島は  
四百四十萬貫

居り、阿波藍の名世に高し。讃岐、阿波共に、煙草の産あり。甘藷は各地とも農民の常食を助け、甘蔗は到る所に植ゑ、阿波、讃岐は製糖業盛なること、臺灣の外、全國に最たり。家畜も甚だ多く、讃岐の牛は製糖業に使用するため殊に多し。工業には織物盛にして、阿波の緞織は、世に「阿波縮」と稱せられ、保多、縞、森山織も世に知らる。土佐半紙及伊豫の美濃紙、共に其の産額に於ては、日本一なり。水産は各種の産に富めども、其

藍之製造



風土比較

の著名なるものは、土佐の鯉、珊瑚、眞珠及土佐沖より紀洲灘に亘り、捕鯨の利あり。又阿波の齋田鹽、及讃岐の鹽も、産額多く有名なり。鑛産は伊豫、別子の銅は、産出の多き本邦、第二に位し、其の他安質、母尼及石材は、各地より出す。

●風土比較 例により四國山脈により、本區を南北兩際に分ち、比較すれば左の如し。

北際 (讃岐伊豫及阿波の那賀川以北)

- 地勢南に山を負ひ、北は内海に濱し、河流多く北流す。(但し吉野川を除く)
- 降雨少く有名なる製鹽地なり。
- 中央地方に面し、繁盛の都邑多し。
- 波靜なる内海に面し、海路交通甚だ便なり。
- 地形北に向て開き、本土と交渉を求むるが如く、歴々兵を被り、歴史上の遺蹟多し。

南際 (土佐及阿波の那賀川以南)

- 地勢北に山を負ひ、南は外洋に瀕し、河流多く南流す。
- 降雨多く、植物に適し、大森林多し。
- 中央地方と背き、繁盛の都邑少し。
- 波荒き外洋に瀕し、航行頻繁ならず。
- 地形南に向て開き、本土との交渉を避くるが如く、歴史上の出来事少し。

九州區誌 附沖繩誌

●九州嶋及壹岐對馬其の他の諸島を併せて九州區とす。西邊の島地にして、西北は朝鮮海峽を隔て、朝鮮と相對し、東は瀬戸内海及日向灘に瀕し、北は支海洋及燧灘に臨み、西南を繞るは太平洋なり、西海道十一ヶ國を含み、面積二千六百七十一方里、人口六百二十萬を有し左の七縣を置く。



九州區圖

- 九州區
- 大分縣
  - 福岡縣
  - 佐賀縣
  - 長崎縣
  - 熊本縣
  - 宮崎縣
  - 鹿兒島縣

山系

●山系

九州島は崑崙山系の初起を受け、二派の山脈よ

五個庄とは仁  
田尾、推原、  
久遠子、葉木、  
榎木を云ふ、  
所謂平家の落  
人が隠遁せし  
と云ふ處。

り成れり、九州北部山脈及九州南部山脈と云ふ。九州はこの兩山脈によりて、地體を接合したるものなり。九州北部山脈は、西方海中の五島平戸の諸島より、其の背を現はし、肥前に入りて國見が岳、天山となり、尙東に走り、寶滿山、福知山等より、遂に馬關海峽に没す。此の脈は石炭を埋藏する事夥し。九州南部山脈は、薩摩の西海なる甕嶋より、肥後の南部に渡り、斜に北東に走り、日肥の境に於て、白髮岳、市房山等の高峰あり。市房山は六千尺に聳え、九州の高山なり。この邊山彙最も深く、五個、米良の山莊あり、豊後の境邊に於て、高千穂高原、可愛岳等あり、佐賀の關に陥りて、更に四國山脈に連る。

○此の南北山脈の中間は、瀬戸内の窪地と同じき地溝あり、茲に阿蘇火山脈噴起せるを以て、今は此の部却て高原とな

阿蘇五岳とは、  
 中岳、高岳、  
 根子岳、杵島  
 岳、島嶺子岳、  
 尾薩の境に、  
 佐敷太郎、赤  
 松太郎、津奈  
 木太郎の三太  
 郎あり、即ち  
 「咄咄曉出處  
 兒島、絶叫夕  
 渡太郎山」是  
 共に霧島火山  
 脈、

れり。阿蘇山は世界に有名なる大活火山にして、舊噴火口は直徑七里に亘り、此の内に五個の小火山を噴起す。是を阿蘇五岳と云ふ。我邦三大火山の一なり。是より豊後富士の名ある由布岳となり、北に走りて、英彦山を起し、遂に國東半島より瀬戸内海に入り、四國に渡る。又南部山脈の南には、霧島火山帯あり、薩南群島を噴起し、薩摩富士の稱ある開門岳、鹿兒島灣内の櫻島岳を起し、本脈の主山なる霧島の活火山に連る。此の山は東西二峰に分れ、最高五千五百餘尺あり。此の脈西北に走り、海を隔て、島原半島の温泉岳(活火山)となる。

○九州の地勢は、南北兩山脈、及阿蘇霧島兩火山帯を連ねて北、響灘より南、薩摩沖に貫く。高臺ありて、全島の背梁たり。此の中央高臺の兩側の海岸、及河邊に、沖積層の平地あり、有明

水系

海に濱する筑紫平原は、美田多く有名なる米の産地なり。

●水系 並行せる兩山脈を連ぬる、中央高臺は、九州の分水嶺にして、東陰に落つる水は、日向の大淀川、五個瀬川等となり、豊後には、大野川、大分川あり、共に肥後境に發し、大分灣に入る。此の兩河の流域は頗る廣く、所謂碩田(大分)の農産地を開けり。豊前には、山國川あり、其の上流は有名なる耶馬溪にして、奇峯怪岩溪に臨み、兩岸に四十八景あり、日本三奇景の一なり。

耶馬溪



流は有名なる耶馬溪にして、奇峯怪岩溪に臨み、兩岸に四十八景あり、日本三奇景の一なり。



遠賀川の流域は地味肥え、工産物多く、又炭田に富み、九州鐵道支線沿ひ、石炭運搬盛なり、筑後川は千年川、又は筑紫次郎の名あり、歸來河水笑、洗刀血、弄瀧、吐紅雪、の大刀洗石等あり、

人吉より八代まで、十八里、僅に三四時間にて下るべし、兩岸に「船介し」清正公岩等あり、

沿海

○中央高臺の西際には筑前に遠賀川あり、響灘に注ぐ。筑後川は九州第一の大河にして、豊肥境の水を聚め、西流して筑紫平原を走り、若津港より筑紫瀉に入る。其の流域は九州第一の生産地にして、夥しく米穀及生蠟を産す。此の河は南朝の忠臣菊池氏の舊戰場にして、河中に「大刀洗石」今尙存せり。  
○肥後には菊池川、白川、緑川、球磨川の四大川あり、共に肥後の沃野を潤ほし、嘉穀の産地なり。殊に球磨川は、激流奇岩を噛み、兩潤の景奇絶にして、輕舟之を下れば、恰も箭の如く、實に日本三急流の一に負かず。薩摩の川内川は九州第一の長流にして、長さ四十六里、灌域は主要の農産地なり。

●沿海

東海岸は屈曲なく、島嶼少しと雖も、西海岸には出入甚だ多く、岬灣參差して、大小の島嶼、其の沿岸に星羅し、

豊屋港は、神武天皇東征の時過ぎ給ひし

東松浦半島の北端に名古屋呼子等あり、名古屋には豊太閤朝鮮征伐の時陣屋跡あり、

野母崎の北にある高崎は、有名なる石炭産地なり、

従ひて良港多し。北部筑前の海上は、響灘にして、西は玄界洋なり。其の沿岸に若松、蘆屋の兩港あり、博多灣は志賀島の砂洲前面を擁し、灣邊の千代の松原は、鞆ヶ濱と稱し、青松白砂の稱あり、弘安年間元寇の遺跡なり。

○肥前は半島港灣の多きこと、全國無雙にして、古來我國文化輸入の門戸たりしは、偶然にあらざるなり。即北に東松浦半島あり、平戸島と相對す、半島の南に佐世保軍港あり、彼杵半島其の南より挺出して、鯛の浦灣を抱く、沿岸に大村あり、故に大村灣の名あり。彼杵半島より南に斗出するを野母崎と云ひ、内に長崎港あり。野母崎の東に、人胃狀をなせるを嶋原半島とす、南端に新開港口の津港、島原港あり。此の半島及天草群島によりて限らる、内海を、有明洋又は筑紫瀉とし、

沿岸は淺きを以て良港少く、筑後に大川港、肥後に百貫石港  
あるのみなり

○肥前の西海上に、大小の島嶼、散點す。即東松浦半島の西北海上に、壹岐(十五回三)あり、尙其の北に、對馬あり。對馬の下島は、周回五十里、上島は百三十五里あり、朝鮮海峽を隔て、朝鮮に對す、其の南に五島あり。福江(六十回中、通二里六十)の二島大なりとす、其の東北平戸島と、五島の近海は、有名なる捕鯨場なり。

○肥後の海岸は、宇土半島突出し、其の西端に開港場たる三角あり、半島の西南に天草群島あり、群島の東に當る内海は不知火を以て、有名なる八代海にして、其の西の海は「雲耶山耶」の詩を以て著名なる天草洋なり。

五嶋とは福江中道若松奈留、久賀を云ふ

天草群島の最大嶋を下島、七十回、次ぎを上島、二十回とす

川邊七嶋

○薩摩大隅は兩脚狀の半嶋をなし、開門、佐多の兩岬雙々南海に突出せり、股間は鹿兒嶋灣にして、櫻嶋其の灣内に在り。大隅の南海上に種子屋久の二大嶋あり、其の西南に羅列せるを薩南諸嶋と謂ひ、遙に地脈を沖繩嶋に連れ、大嶋最も大なり、(十九回五)鹿兒嶋を距る百九十四哩あり、西郷隆盛の謫せられたる所なるを以て知らる。此の列嶋の西側に沿ひて、川邊七嶋(土、喝、喇、群、島)あり、此の諸嶋は霧嶋帯に屬する火山島なり。○日向の海上は日向灘と稱し、沿岸殆ど五十里に亙れども出入に乏しく、碇泊地は僅かに細嶋(北)、油津(南)の二港あるのみ。豊後の海岸は、南部山脈の陷落の遺蹟なれば、出入多く地藏岬に出で、佐田岬と相對し、早吸海峽を扼せり。其の北地藏岬と、國東半島との間に、齒蒼灣あり、其の南には臼杵、佐

處誌

伯の港灣あり、豊前北端に門司港あり、内海の咽喉を扼せり

●處誌 九州は國祖基業の地にして、日薩隅は太初、天尊等の都し給ひし所、各地にあり。地勢西南を受け、支那、朝鮮及他の諸國との交通の衝に當り、海外の文物を輸入すると共に、外寇を被りしことも亦繁かりき。筑紫の名は築石にして、石垣を築き外寇を防げるより出たりと。故に人質は一般に氣節を有し、質直にして勇壯なり。山間の民は粗野なるを免かれず、北部は地味肥え、且石炭に富み、工業盛に、人質頗る伶俐なり。

大分縣

●大分縣 管轄 豊後全國及豊前二郡

○豊後は曾て大友氏の割據せし所にして、近世の學者を出せしこと多し。大分町は大分川に臨み、大分縣廳茲に在り、其

中津は奥平氏  
十萬石の舊城  
市、  
長州藩は門司  
と汽船の通航  
あり、

福岡縣

博多は黒田氏  
五十二萬石の  
舊城地、

齒菴港よりは汽船往復す。臼杵、佐伯は南部の都邑なり、大分の西北海岸の別府は有名の温泉場なり。

○豊前の中津町は、山國河口に建ち、元奥平氏の治所にして縣下第一の都會なり。宇佐は其の東に在り、宇佐八幡を奉祀し、和氣清麿の故事を以て有名なり。

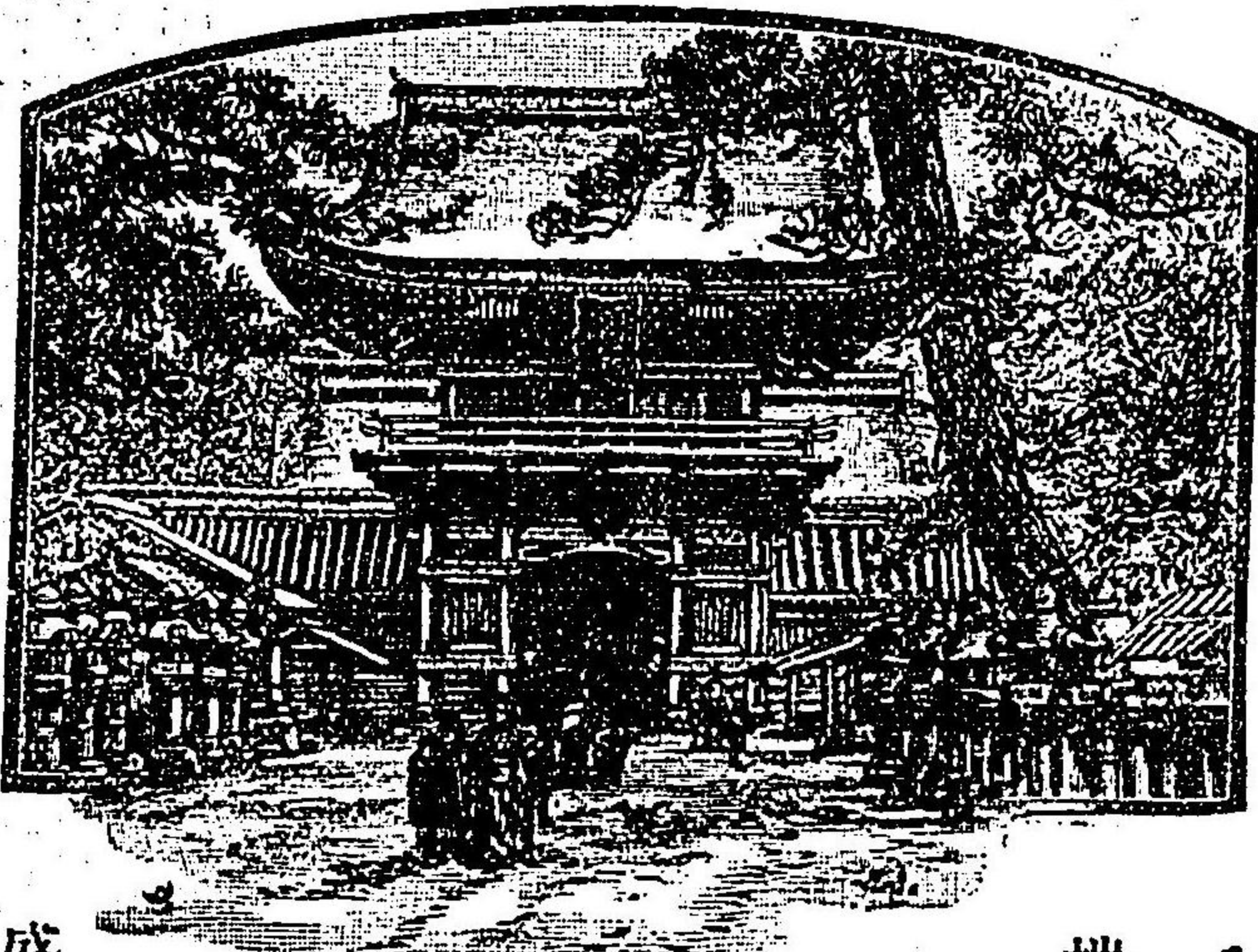
●福岡縣 管轄 筑前筑後の二國及豊前四郡

○筑前は昔九州探題を置きし國にして、其の太宰府は、夙に九州の中央府たりき。福岡市は博多灣に臨み、博多港を合せて一市とす。黒田長政此の地に築き、子孫世々其の城主たり、博多は上古三津の一にして、韓唐に渡る要津なりき。今尙海陸交通の便を占め、商業繁盛に、人口六萬三千あり、歩兵第二十四聯隊を置く、博多織の産あり、近郊に香椎宮及敵國降伏

香椎宮は仲哀天皇の行在所にして、祭神は神功皇后、仲哀天皇、箱崎神社は、應神天皇、

門司より博多へ四十七哩、熊本へ百二十一哩、

小倉は小笠原氏十五萬石の舊城地、



箱崎八幡

の勅額を掲ぐる箱崎八幡あり。

太宰府には、九州探題の治所なりし都府樓の趾、菅公を祀れる天満宮あり。門司市は豊前の北端瀬戸内の咽喉を扼し、内外航路の要衝にして、九州鐵道の起點なれば、九州の貨物は多く茲に集まり、俄に繁華の地となれり。小倉市は門司の西(七哩半)にあり、元小笠原氏の居城なり、第十二師團司令部を置く、市街繁盛小倉織の産地なり、若松港は洞

久留米は二十萬石の舊城地、久留米は博多へ二十二哩、熊本へ五十一哩、

柳川は立花氏十二萬石の舊城地、

### 佐賀縣

佐賀は鍋島氏三十五萬七千石の城地、鍋山唐津の東松浦川を隔て、時つ、古の領中振山、

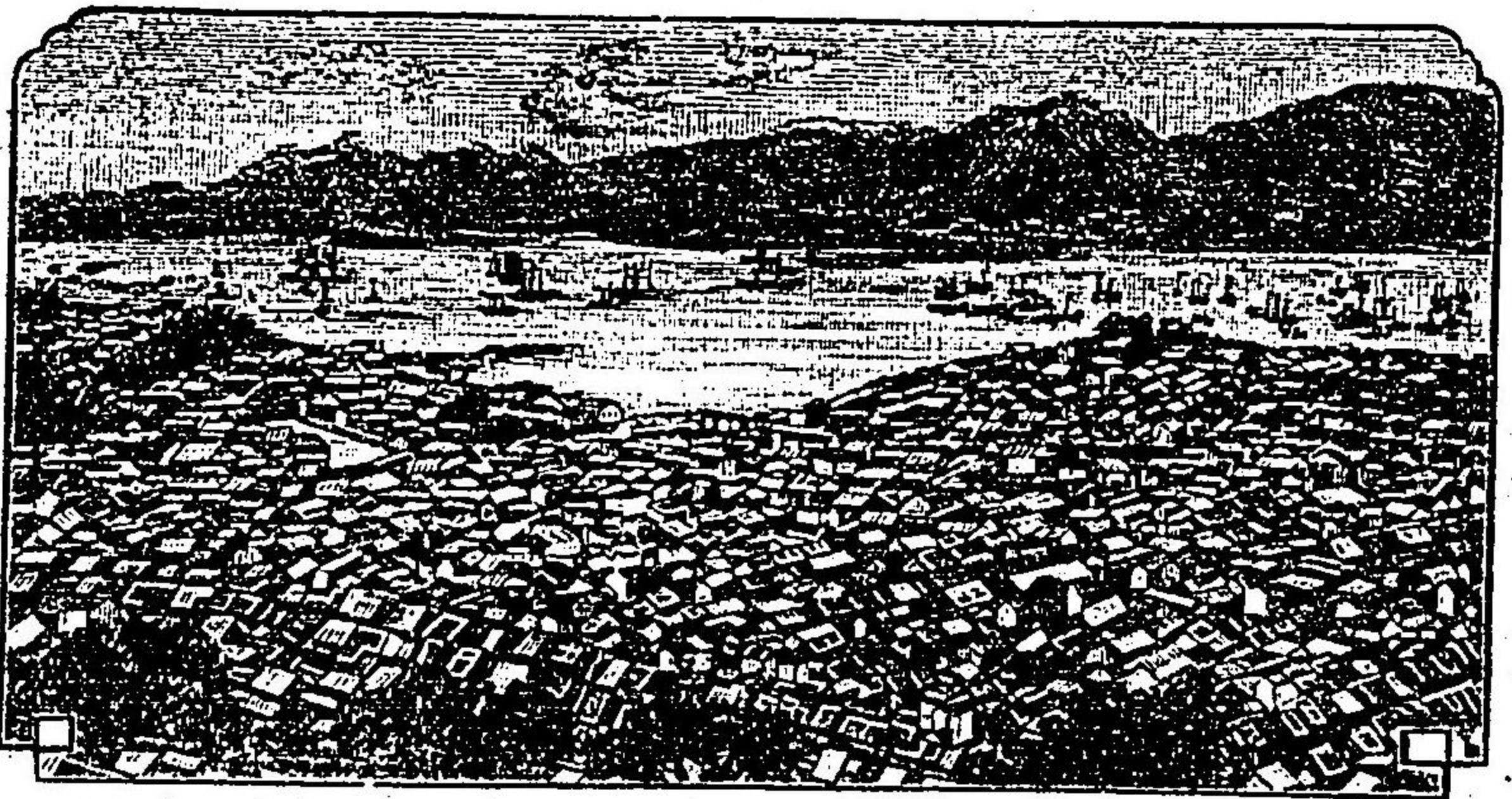
海に臨み、石炭輸出港たるのみならず、其の附近に製鐵所を設けられたるを以て、將來有望の港ならん。

○筑後は筑後平野の中央を占め、田圃拓け農業盛なり。久留米市は有馬氏の舊城市なり、筑後川に臨み、九州鐵道の中途に當り、市況繁盛なり。市に有名なる水天宮及歩兵第二十四旅團司令部あり、久留米緋生蠟等を産す。若津港は筑後河口の良港にして、柳川町は平原中の一都會なり、大牟田町は石炭の産出を以て有名に、亦其の輸出港なり。

### ●佐賀縣 管轄 肥前の東部八郡

○本縣下は肥沃の平野多く、農産饒に、曾て龍造寺氏の據りし處なり。佐賀市は平野の中央、川上川流域を占め、人口三萬四千、九州鐵道支線に當る、元鍋嶋侯の城市なり、此の地維新

長崎縣



長崎港

の際には、藩主閑叟侯を始め、志士輩出し、王政復古の大業を翼賛せり。唐津は貿易港にして、石炭の産出あり。有田は陶磁器産出を以て著はる。伊萬里は其の發送港なり。

●長崎縣 管轄 肥前の西部六郡及壹岐對馬

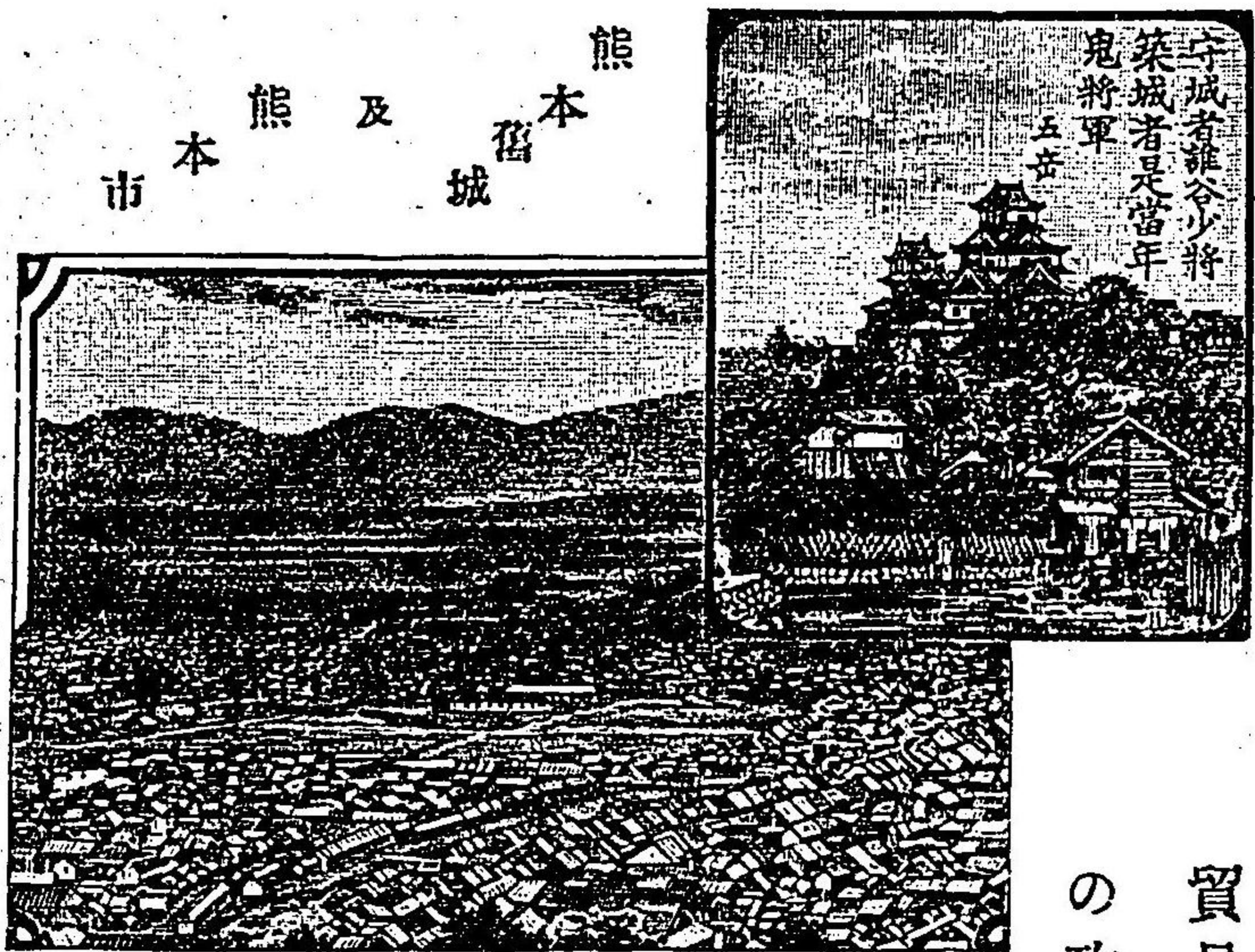
○本縣の西岸は、海岸線の錯雑せる形勝の地を占めたり。長崎市は灣長く水深き東洋の良港なり、内外の船舶常に輻湊す。此

の港は寛永年間、支那、和蘭の兩國に限り、通商互市を許したる最舊の貿易所にして、近古洋學に志す者は、皆笈を負ひて此地に學べり、我が國に西洋文物を輸入せしは、實に此港によれり、人口の多き事、九州第一にして、既に十萬に上れり、控訴院、第五高等學校醫學部あり。主たる輸出品は、石炭、米等にして、輸入品は、石油、白砂糖、牛皮、練綿等あり。大村には歩兵第四十六聯隊を置く。佐世保軍港は鯛の浦灣口にあり。此地の船渠は、堅牢壯麗を以て名あり。

○壹岐の勝本は島中の名邑なり。對馬の名は、古來渡韓の要津なるを以て、津島と稱し、後馬韓(朝鮮南部の古地名)と相對するより、今の名に改めたり。世々宗氏領せし所にして、古來往々外寇を被り、島人敵愾の氣象に富む。嚴原は貿易港の一にして、

### 熊本縣

熊本、細川侯  
五十四萬石の  
舊城地



守城者維谷少將  
築城者豊後守  
鬼將軍  
五十五

島内の名邑なり、島司廳及警備隊を置く、佐須奈、鹿見は共に貿易港にして、竹敷要港には、堅固の砲臺あり。

●熊本縣 管轄 肥後全

國

○菊池氏世々此地に據り、南朝の苦節を守りて、大軍に當れり、後加藤清正、隈元(熊本)に封ぜられ、大に水利を起し、灌漑を便にし、米穀の産甚だ豊なり、中古以來、細川侯の封土となり、九州中央の雄藩なり

水前寺は細川氏の別業

### 宮崎縣

肥後伊東氏五萬一千石の舊城地、近時此地に熱帯植物試驗所を設け、咖啡、橡那等を栽培す、五個瀬川上流高千穂は、神武天孫降臨の傳説地

き、熊本市は九州の中央に位し、白川に臨み、鐵道の便を占め、物貨集散し、市況繁盛にして、人口五萬五千を有す、熊本城は鬼將軍の築く所、西南の役、谷將軍の防守と共に名あり、近郊に第五高等學校、水前寺の勝地及清正の廟ある本妙寺等あり、球磨河口に八代町、其上流に人吉町あり、國の北部隈府町には、菊池氏累代の城趾あり。

●宮崎縣 管轄 日向全國

○日向は本邦最初の國名にして、神々の住み給ひし國なれども、山地多く人口少し、九州の北海道と綽名せらる、中古以來、島津氏の併領する所たり、縣廳所在地なる宮崎町は、大淀川に臨み、縣下の一都會なり、都城は大隅に近き一都會にして、東海岸に高鍋北部に延岡あり、

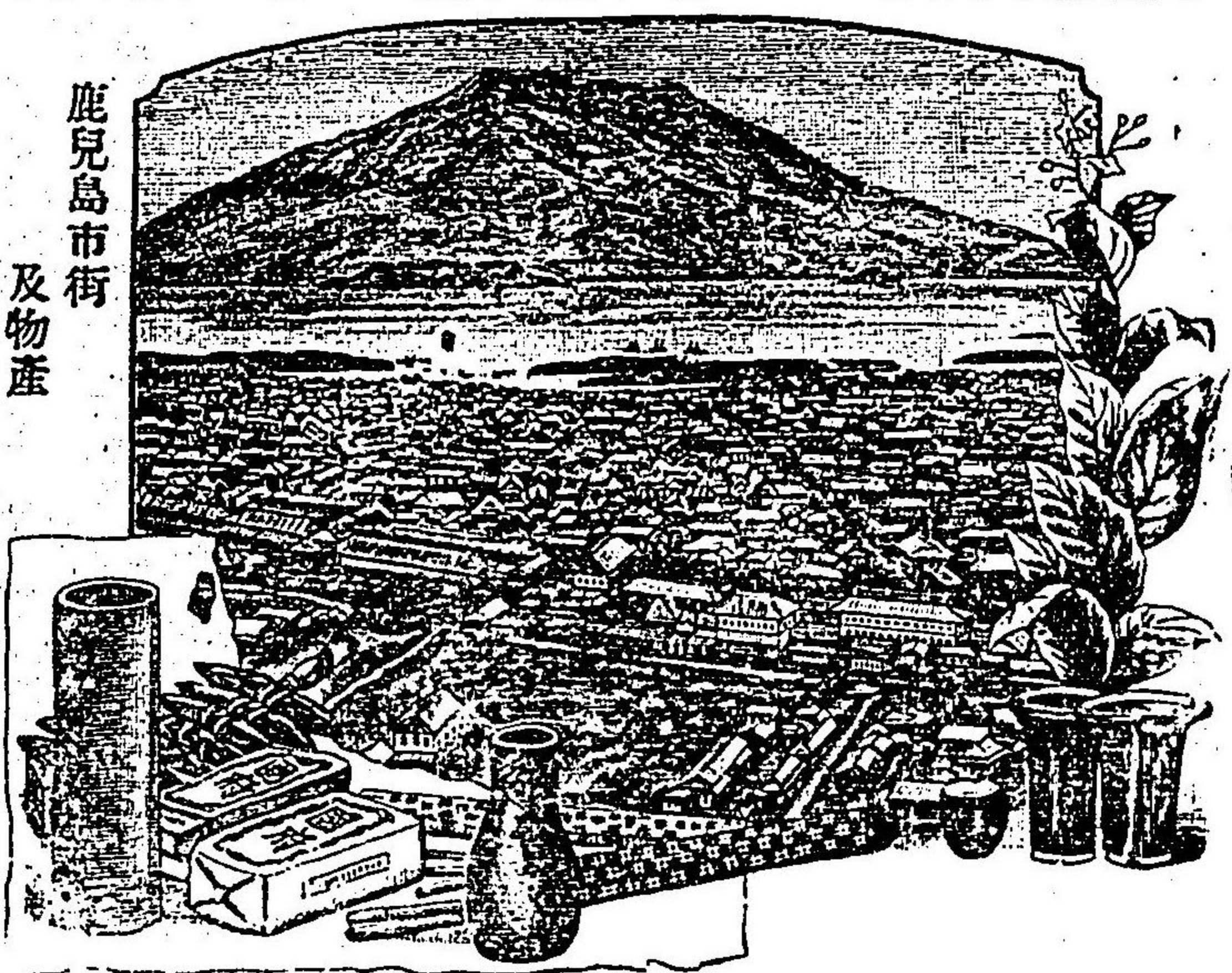
鹿兒島縣

●鹿兒島縣

管轄

摩大隅二國

藩主齊彬公を  
始め、大久保  
西郷等皆並に  
出づ、



鹿兒島市街  
及物産

○薩摩は島津公九百年來  
崛起せし所にして、士氣強  
悍、極南の一雄藩たりき、維  
新の際、數多の俊傑輩出せ  
り。故に維新の勳功を擧ぐ  
る時は先づ指を薩州に屈  
す。鹿兒島市は鹿兒島灣頭  
櫻島の前面に當り、甲突川  
に臨めり、元島津公(萬石七十七)  
の城市にして、文久年間、英  
艦の砲撃を被り、明治十年

交通

九州街道、小倉より久留米を経て肥薩の海岸を通じ、鹿兒島に達す。九州東海道、小倉より中津大分を経て日向の海岸を通じ、鹿兒島に到る。長崎街道、福岡を起點とし、佐賀大村を経て、長崎に達す。

にも戰場となれり、人口五萬三千、九州南部の一大都會なり。南洲以下自盡せる城山は、市の西北にあり。國の西北沿海にある阿久根は燒酎、出水は煙草の名産あり。大隅は地僻陬にして、著しき都邑少し、唯鹿兒島灣頭にある加治木は隅州第一の名邑にして、國府は煙草の産を以て著名なり。

●交通

交通は西方は便なれども、東方は不便たるを免

れず、而して中央高臺は、自然の分界にして、是を横ぎるは、甚だ難路なり。道路の重なる者三條あり、一、九州街道、二、九州東海道、三、長崎街道。是れなり。鐵道は九州鐵道を主とし、其の幹線は門司、博多、熊本を経て、八代に達する百四十四哩あり、支線は鳥栖より長崎に至り、途中早岐より佐世保、及有田より伊萬里に分岐線あり、其の他小倉より行橋を経て、後藤寺及

宇佐に達するものと、石炭運搬を主とする、若松飯塚間、及宇土、三角線、又は唐津鐵道等あり、要するに九州北部の陸運は頗る便なり、汽船の交通も、西部沿岸に盛にして、長崎は航路の集合點なり、東部沿海は航海繁からず。

氣候

西北部全國平均溫度は、十四度半、東南部の全年平均溫度は十七度内外とす、

●氣候 九州は本邦の西南部に位すれば、氣候固より溫暖なれども、東南部(日、薩、隅、及豐)と西北部とは、多少の差異あり。西北は亞細亞大陸地方より、吹き來る西北風を受け、其の感化を蒙り、溫度稍低く、殊に冬期に至れば、其の影響を被り寒威稍強し、東南部は黒潮の洗ふ大洋に面し、其の調和により、溫度頗る高く、嚴冬と雖も、山間の外降雪稀なり、而して夏は清涼なれども、暑期頗る長く、春暖を催す亦早く、二月中旬已に櫻花の爛漫たるを見る。雨量は一般に多く、日、薩、隅は本

産業

邦中多量の地に屬し、西北部も亦少からず。

●産業 氣候溫暖にして、地味肥沃なれば、各種の農産物多く、九州は實に一大農産地なり。就中筑紫平原には、米質良好の肥後米を始め、二筑兩豊、皆良米の産あり、本區内、米の總收額は、六百萬石内外に上り、福岡、熊本何れも百萬石以上にして、麥の産出亦之に次ぐ。筑後の生蠟、薩隅の甘藷等も有名なり、肥後の粟、兩筑の大豆、長崎、熊本、鹿兒島の煙草は、最も良品にして、殊に國分煙草は最上品とす、蠶業は未だ幼稚なれども、漸次盛ならんとす。畜産亦有名にして、肥薩、隅の馬、豊後肥前の牛は、頭數甚だ多し。

○鑛産は農業に次ぎて豊なり、其の最も多きは石炭にして、兩筑、兩肥、豊前等、重に北部山脈附近に埋藏せり、筑後の三池、





○農産物工業品多からず、鑛業も亦盛なりと云ふ可からず。  
 ○東方本州に向ひ、交渉を求むるが如く、往古本邦の發達は此地より東漸して、全國に及び、國祖の創業地として、歴史に富めり。

○海産物亦少からず。  
 ○西方朝鮮支那に向ひ、交渉を求むるが如し、海外の文化輸入の門戸及外寇の衝地として、歴史に富めり。

### 沖繩誌

#### 沖繩縣

沖繩島を函頭  
 中頭島尻の三  
 郡に分へり

●沖繩縣 琉球の大小五十餘島を管治し、面積百五十七方里、人口四十四萬あり。島彙自ら二群となる、東北の島彙を沖繩群島と云ひ、西南の島彙を先島群島と云ふ。

○沖繩群島は主島を沖繩島とし、周回百十里、長さ四十里あり、其の形虬の水に躍れるが如し、故に琉球は流虬なりといふ。島内山多けれども高からず、嘉津宇岳(五千五百)を最高と

す。那覇は琉球第一の都會にして、那覇港北岸にあり、水淺く大船を泊すべからざれども、風景明媚なり、人口三萬五千あり、縣廳師範學校等あり。首里は那覇の東一里餘にあり、元島主尙氏の都にして、人口二萬五千を有す。運天港は島の北部にある良港なり。

○先島群島は宮古、石垣、西表の三島を大なりとす。此外與那國島は、古へ女護島と稱し、曾て珍談に上りし處なり、石垣島以西の列島を八重山群島と稱し、臺灣に近し。

琉球人之風俗



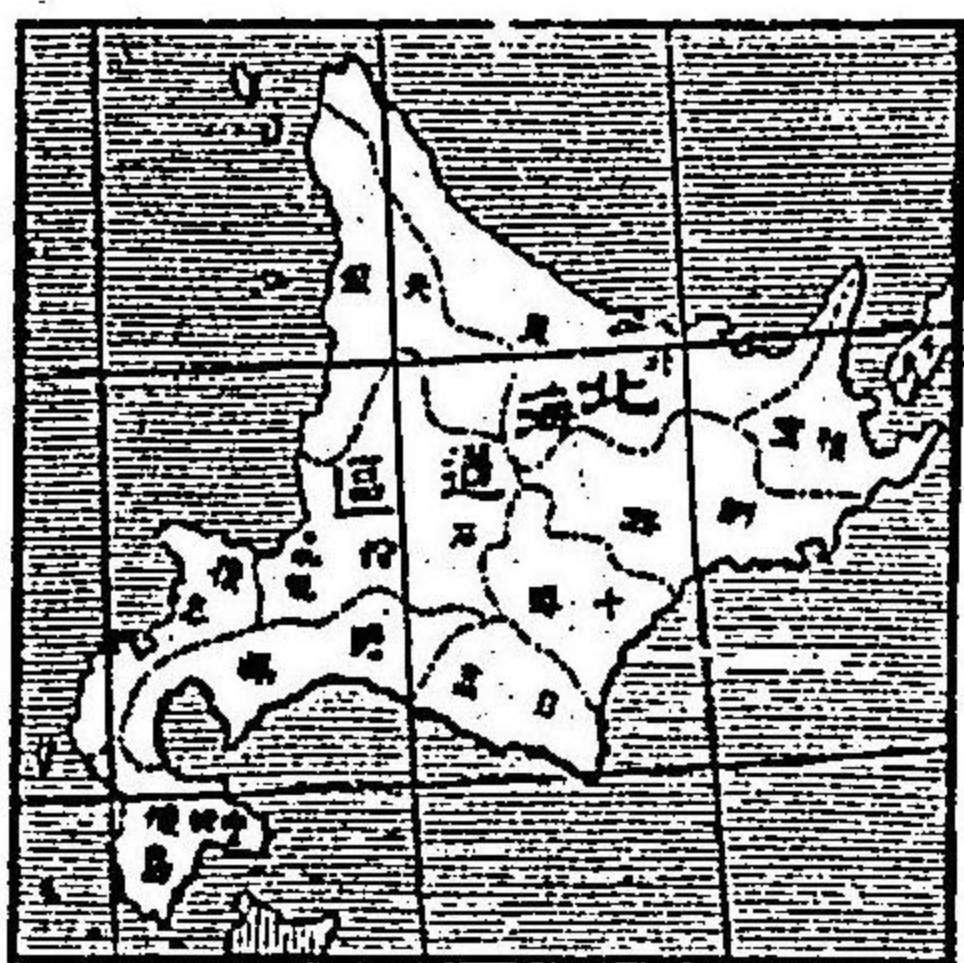
氣候

全年平均溫度  
二十二度にし  
て、夏期は二  
十七度、冬は  
十六度なり、

○氣候は南海中にありて、黒潮に洗はるゝを以て、著しく温  
暖に、全く島嶼的氣候なり、寒暑の差少く、殆んど霜雪を見ず、  
四時樹葉蒼々たり、九州よりは平均溫度稍高けれども、海風  
熱を拂ひて、清涼なり、冬は嚴冬も東京十月の溫度に等し、故  
に半熱帶の植物能く繁茂し、珍材を産す、稻は二月苗を挿み、  
七月收穫す、甘蔗は本島第一の産にして、盛に砂糖を製造す、  
又甘蔗の原産地にして、本土の甘蔗は、此地より渡れりと云  
ふ、四時繁茂せる藍あり、本地の名産たる、琉球紵、上布等の染  
料とす、其の他泡盛、芭蕉布、琉球塗等の産あり。

北海道區誌

北海道廳



北海道區圖

●本區は我邦の最北に位する一大島なり。北は宗谷海峽に  
よりて、樺太島に對し、東北は千島群島  
によりて、堪察加と密邇す、其の間にオ  
コック海を抱く、南は津輕海峽により  
て、本州に向ひ、日本海、太平洋を左右に  
す。本區は明治二年始めて北海道と稱  
し、十一ヶ國に分たれたり、面積は六千  
零九十五方里あれども、人口は僅かに八十五萬にして、一方  
里内に百四十人を容るゝに過ぎず、全區は、北海道廳の管轄  
する所なり。

地勢

●地勢 本島の地勢は樺太山系によりて作られ、其の樺太山脈は宗谷岬より起り、南々東に走り、島の中央に於て、千島火山帯と連る、以上を東北山脈と稱し、平均二千尺に過ぎず、東北山脈と千島火山脈と交叉する所は、地勢最も高峻なり、又中央山彙より岐れ、南日高、十勝の境を走り、襟裳岬に達するものを日高山脈と稱す。芽室、樂古山等あり。

○千島火山帯は、千島列島を噴起し、本島に渡りて、雄阿寒岳、雌阿寒岳となり、中央に於て、東北山脈、及日高山脈と交叉す。中央の最高山をチブタテシケ(六千五)とす、十勝岳、石狩岳等は、高さ各々五千尺以上に達し、山彙鬱結せり。札幌の西南には、樽前、有珠、マツカリヌプリ(後方等)等の火山峙ち、渡島には、恵山、駒ヶ岳等内浦灣の周邊に聳ゆるを以て、或は火山灣

と稱せり、以上諸山脈の四邊には、大なる平野ありて、十勝平野、釧路平野を最も大なりとす、此等の平野は、石狩平野の一部を除く外、茫漠たる未墾の地にして、豊饒なれども人烟甚だ稀なり。

水系

石狩河口の幅四百間餘深さ六七尋にして、有名なる鮭の漁場なり、中流に本道名勝の一なる、神居古潭の奇勝あり。

●水系

島幅廣く分水界遠きと、河流の屈曲多きとを以て、長大の河流を涵養せり。本邦第一の長河なる石狩川は、中央山彙より發して西流し、幽谷を刻み上川原野に出で、雨龍空地の大支流を合せ、遂に石狩港に注ぐ、下流には船舶輻湊し、鮭魚多し、上流の上川原野は、離宮の選定地なり。石狩川に次ぎて、天鹽川(七十)、十勝川(五十)あり、以上を北海道の三大河とす。其の他釧路川を始め河流多し、其の流域は何れも後來有望の原野にして、耕地又は牧場に適するもの茫々涯りな

し、殊に石狩川灌域の如きは、五億七千八百萬餘坪に上ると云ふ。

○湖水は北見の猿間湖最も大にして、周回十八里餘あり、根室の楓蓮湖、北見の網走湖等も稍大なり、其の他火口湖多く、膽振の洞爺湖、支笏湖、釧路の阿寒湖、釧路湖等是なり。

沿海

●沿海

本島の沿海は平遠の砂濱多く、渡島半島の端は津輕海峽に對し、東に惠山、西に白神の兩岬突出す、其の間は函館灣にして、灣頭に函館港あり、惠山岬の西北に、略圓形の灣あるは、内浦灣なり、灣口に繪鞆岬突出し、内に室蘭の貿易港あり、且軍港選定地にして、實に北門の要鎮たるに適す、繪鞆岬より襟裳岬に至る海岸は、弓形をなし、襟裳岬より根室半島の納沙布岬に至るまでの海岸も亦殆んど同形をな

し、其の東に厚岸灣、花咲灣あり、この沿海は昆布鮭を産すること夥し、納沙布岬と知床岬との間は根室灣にして、灣内の根室港は、東北沿海唯一の要港なれども、水淺く大船を容るるに適せず、知床岬より宗谷岬に至る北見の沿海も、東北に向へる弓形をなし、冬時は氷塊漂流し來り、波高く良港に乏し、宗谷岬は樺太島と相對し、其の間を宗谷海峽と云ふ、西に利尻、禮文の二火山島あり、野斜布岬より後志の積丹半島に到る沿海には、小樽港あるに過ぎず、積丹半島より渡島の白神岬に至る沿海にも、一二の港泊なきにあらず。

●處誌

古來「蝦夷島」と稱し、中古以來蝦夷人即「アイヌ」人專住の地なりし、「アイヌ」人は古本州の北半に蔓延せしも、屢征討を蒙り遂に本區に退き今は僅に邊隅に蟄居し、其の人

處誌  
「アイヌ」は日  
高に最も多く、  
六千三百餘人、  
次ぎは膽振三  
千九百餘人な  
り、



アイヌの風俗

を始め、農學校及各種の製造所、諸會社等あり、人口三萬七千市街殷賑にして、鐵道は東北炭山地方へ、西は小樽、南は室蘭

口一萬七千餘に過ぎず、體格は偉大にして、鬚髯多く、眼窠深く、穎高し。本區は土地廣大に、人口は未だ稀少なるを以て、若し本州の如き住民の密度に至らしめんには、猶數百萬の人を容るべし。

○札幌區は石狩平原の西南部に在り、本區の中央府にして、全道を管轄する北海道廳

小樽より札幌へ汽車程二十哩

函館の東北二十五町許に、五稜廓あり、維新の歴史に名あり、

へ通じ、交通至便なり。小樽は小樽灣に臨める、開港場の一にして、本區内の産物は、多く茲に集まり、内地に輸送す、從て船舶常に輻湊し、本區に入る門戸なるを以て、將來益、繁盛となるべし、小樽の西南海岸に、壽都、岩内の小都會、且又北方天鹽海岸には、増毛、留萌、苫前的名邑あり。

○函館區は、函館山を負ひ、函館灣に臨み、人口七萬八千を有する北海道第一の都會にして、豪商軒を聯ね、學校、諸會社、銀行等ありて、商況繁盛なり。船舶の出入頻繁にして、重なる輸出品は、昆布、硫黃、石炭等にして、輸入品は、米、茶、石油等なり。

○福山は渡島の西南隅に在り、元松前氏の城市なりしを以て松前と稱したり、本區中最も古き名邑なり、曾て「松前二千軒函館千軒」の稱ありしかども、今は遠く函館に及ばず、江差は

室蘭港は麥粉、木炭、セメン、下、硫黃、滿、備、晒粉、木材及板、竹材に限り輸出す、函館港へ七十、九海里、日高は蝦夷創業の地なりしを以て、古跡多く、今尙土人の部落多し、

福山の西北海岸の名邑なり、室蘭港は第五海軍區の鎮守府豫定地にして、開港場の一なり、鐵道札幌と相通じ、海には函館及陸奥の青森と、定期船の便あり、室蘭港は北方内地に入る、鐵道の起點にして、海陸交通の要衝にして、市街繁盛なり、日高十勝には、繁華の都邑なく、釧路には、厚岸、釧路の兩港あり、釧路港は開港場にして、盛に硫黃岳産の硫黃を出す、是がため鐵道を布設せり。

○根室は我國東北端の要港にして、此附近及千島の貨物集散所なり、人口一萬四千、市況漸次に繁盛ならんとす。

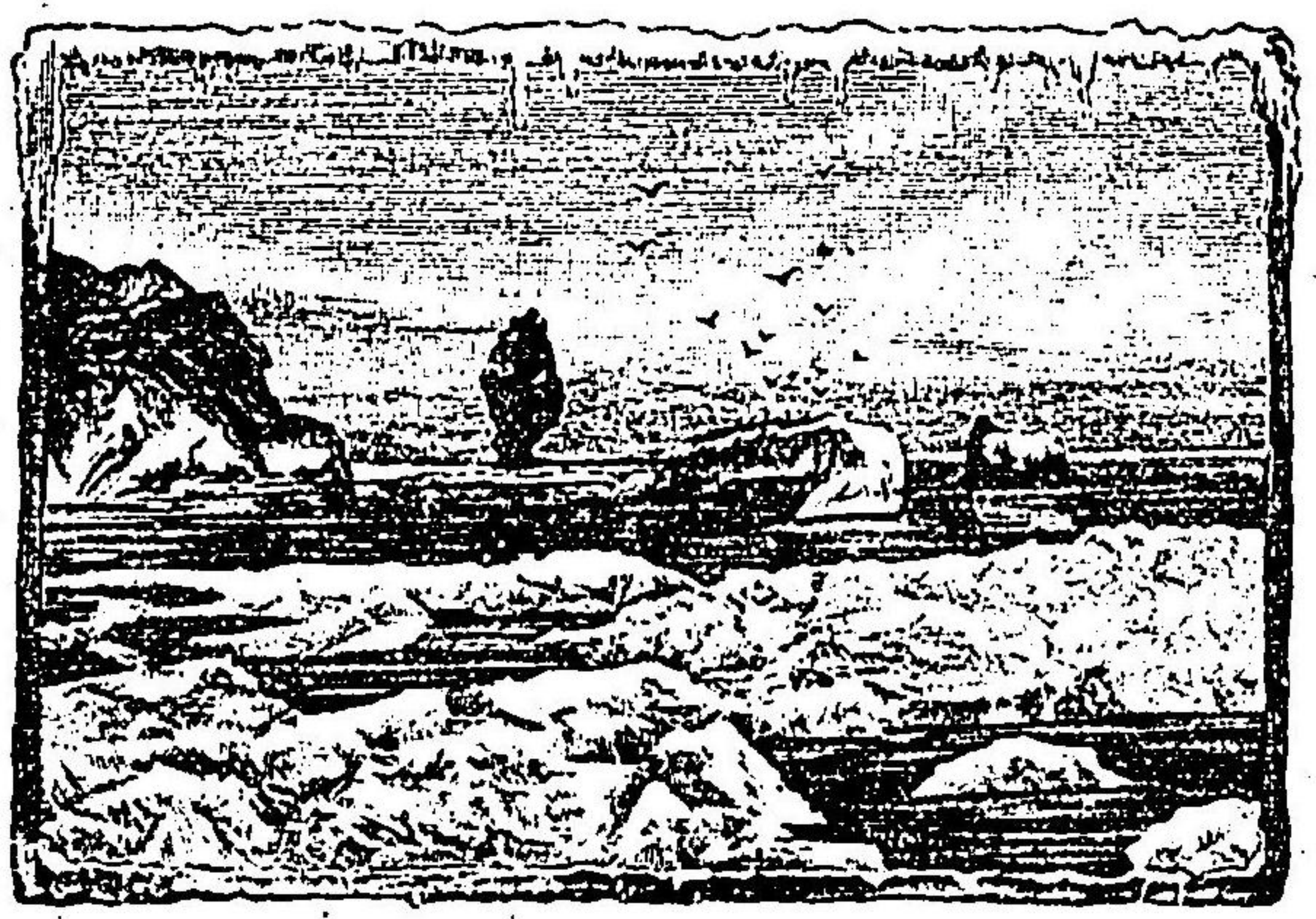
函館港



根室港結氷すれば、船舶花咲港に入る、花咲と根室は一里二十町の高原を隔て、恰も腹背を爲す、

玉鈔の陸奥越えて見まほしや蝦夷が千島の雪の夕暮、藤田東湖、占守島は久留里海峡を隔つる七里にして、堪察加に對す

○北見にも繁華の都邑港泊なく、唯東南岸の網走は、商港又は軍港たるに適すと、其の他枝幸の附近は、近時砂金の産出地として有名なり。



千島の島

○千島國は千島火山帶の噴起に係り、凡そ六百五十二哩の間に大小三十二島あり、其の總面積は四國島より稍小なり、然れども住民は南部諸島に、少許あるに過ぎず、擇捉島を最大とし、幌筵國後、得撫、色丹、之に次ぐ、此列島の東は、世界最深のタスカロラ海床に臨む、冬期は沿海波浪高く、春に至れば、巨

大の流水あり、各島には天然の良港多く、擇捉の紗那港、新知のブロートン港の如き是なり。諸島は産物に富み、硫黄の如き恐らくは世界第一ならんといふ、又臘虎、臘肭臍、鯨、鮭、昆布を始め許多の漁藻ありて、將來有望の地なり、現に報効義會の志士、占守島の開墾に従事せり。

交通

南海街道は函館より南方海岸を通じ、根室に達す、北海街道は北海沿岸に沿ひ、根室に達す、

●交通

本區は人口稀に、未墾の山野多きを以て、交通甚だ困難なり。道路は南海街道と北海街道あれども、完備せず、内地の跋涉の如きは、頗る困難なる處あり。然れども鐵道は割合に開け、日本海岸の手宮より起り、小樽、札幌を経て、諸炭山に到る、近時遠く北部の旭川を経て、和寒及上富良野に達せり、又南しては石見澤より岐れ、追分を経て、夕張炭山に到り、追分より室蘭に到る鐵道あり、又釧路にも少許里の布設

氣候

東海岸は平均温度五度乃至六度、西海岸は八度乃至九度

あり。海路は函館を要點とし、小樽、室蘭、釧路、根室と、定期船の往復あり。

●氣候

氣候の寒冷なるべきは、其の位置に依りて知られたり、然れども内地人の想像する如き、慘烈なる寒地にあらず、且人口の増殖に従ひ、漸く寒氣を減ずるは事實なり、本區の東海岸は親潮の寒流に洗はれ、寒威頗る強く、西海岸は暖流に洗はるゝを以て、稍温暖なり、中央内地は、海洋の調和なく、山脈起伏せるを以て、寒氣烈しく、氷點以下三十五度に下ることあり。要するに本地の氣候は、冬期長くして、夏期短く、十月既に初雪を見、四月に至るも未だ消へず、六七月に至れば、暖氣俄に催し、草木の發生速にして、桃、櫻、梅、李、一齊に開く、雨量は一般に寡し、殊に東北岸は寒流を以て洗はれ、降水



雨量は西南海岸より、中央山地に亘りては、稍々多し、

産業

札幌、旭川、夕張、空知等の炭坑は、産額多し、全國水産物、總額六千三百萬圓にして、本區にては一千四百萬圓を出し、殆んど四分の一に近し、住民は僅に全國の七十七分の一にして、水産額夥しき斯の如し、亦將來多額なりと謂へし、

稀に本邦中の最寡雨の地なり。故に大河は西南海岸より中央山地に涵養せられ、日本海に注ぐ。

●産業。區内平野甚だ多く、從て生産地域廣けれども、開拓日未だ淺きを以て、各種の事業發達せず、然れども水陸共に天然の産物に富み、採殖其の法を得ば、財源の豊なる、測る可からず、實に我國の寶庫なり、現今重要なる産物は、鑛産及水産なり。鑛産は各種の産あれども、就中石炭は無盡藏とも謂べく、近時砂金の産出多し。硫黄は石炭に次ぎて産出多し、

釧路の北部火山地方を第一とす。水産の豊なるは、獨り本邦に最たるのみならず、世界の三大豊魚帶の一にして、鱒、鮭、鯡、昆布、鱈、鰯、烏賊等各地の近海に群集し、海獸には鯨、海豹、千島の臘虎、膾、膾、膾等の貴重産あり。此の内最も多産なるは、鯡にし

風土比較

て全區の沿岸各地にて漁する所、實に夥し。昆布は天鹽、日高根室の近海最も有名にして、支那へ輸出する額多し。

○農産品の最も多きは馬鈴薯、甜菜とす。甜菜は砂糖を製す、次を麻とし、米、麥、豆も産せざるにあらず、又處々に廣大の良牧場ありて、馬及牛を産す。山森には榎、松、檜、蝦夷松、樺、落葉松等數百年の巨木翳鬱として、建築造船の良材なり、現今、摺付木の軸木は、概ね是より出で、且つ鐵道枕木として、内地及支那に輸出するもの多し。製造物は麥酒、砂糖、麻等を最とし、函館の天然氷亦著名なり。

●風土比較。以上述べし諸項に就き、東北山脈及び日高山脈により、全島を東西兩部に分ち、比較すれば左の如し。

西部

(渡島、後志、石狩、天鹽、膽振、日高)

○東に東北、日高兩山脈を負ひ支派域内を横断し、河流多く、西北又は西南流す。

○廣漠たる未墾の平野ありて、將來有望の地なり。

○沿海多くは暖流に洗はれ、氣候稍、暖和に、冬期船舶の航行を妨げず。

○交通稍、發達し、已に繁盛なる都會の建設を見る。

○降雨稍、多く、農産海産及石炭、少からず。

○本州に向ひ、屢、本土との關係の歴史あり。

東部

(北見、十勝、釧路、根室)

○西に東北、日高兩山脈を負ひ、千島の火山脈横貫し、河流多く、東北又は東南流す。

○廣漠たる未墾の平野ありて、將來有望の地なり。

○沿海多くは寒流に洗はれ、寒威強く、冬期は氷結して、船舶の航行自在ならず。

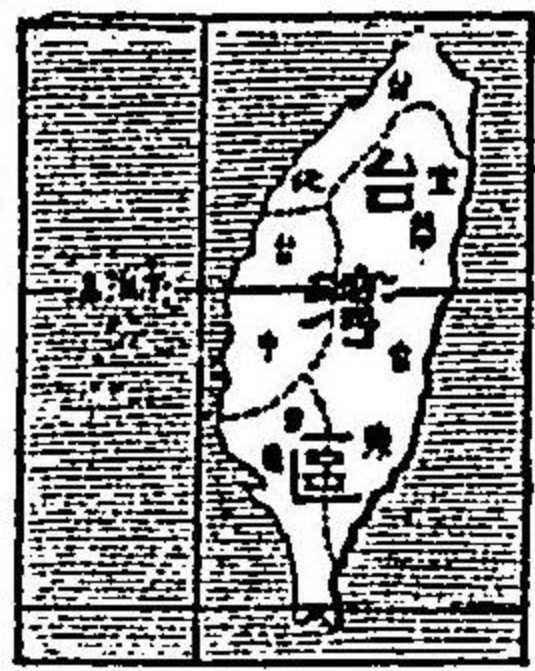
○交通不便にして、發達遅く、未だ繁盛なる都會を見ず。

○降雨寡く、農産に缺乏すれども、海産及び硫黄多し。

○本州に背き、本土と關係の歴史なし。

臺灣區誌

●臺灣は明治二十七八年の役、戰勝の結果によりて、清國より割讓したる、名譽の新版圖なり。其の位置琉球の西南に横はり、西は臺灣海峽を隔て、支那の福建省と相對し、南は比律賓群島と相望み、東は渺茫たる太平洋に瀕す。島形恰も木葉の如く南北に長し、面積二千二百五十九方里にして、人口約二百四十五萬を有す。政治區は臺灣總督府の下に、左の三縣三廳を置く。



臺灣區圖

臺灣區

- 臺北縣
- 臺中縣
- 臺南縣
- 宜蘭廳
- 臺東廳
- 澎湖廳

地勢  
沖つ浜高砂の島も今年より君が千歳を守り初めの山

●地勢 島の中央より稍東側に偏して地形に従ひ、南北に達する高峻なる中央大山脈ありて、脊梁を作れり、此脈島の中部に於て、最も高峻となり、其の最高點は、曾て玉山又はモリソン山と名けしが、勅して新に名を新高山と賜ふ、海拔一萬三千餘尺にして、日本第一の高山なり、故に此脈を新高山脈と稱すべし、其の北にシルヴィア山、海拔一萬一千三百尺餘あり、其の他高峻なる山甚だ多し、本島は此の新高山脈のため地勢東部及西部に分る、東部には支脈錯出して、山深く平地少く、峽間處々に蕃族の巢窟ありて、從來全く暗黒界なりしが、我領に歸してより、内地人屢探檢せり、西部は地域頗る開け、海濱に近づくに隨ひ、肥沃の平野あり、臺西平原是なり、此の平原は一般に河流灌漑の便ありて、田圃相連り、臺

大屯山に噴火口あり、此の脈附近處々に硫黄泉を噴出す

水系

灣主要の部なり、  
○本島の北部には、一の火山彙あり、此の脈は西方澎湖島より來り、其の地方の大屯山を経て、琉球帶の裏面に連り、遂に霧島帶となる。  
●水系 河流は新高山脈によりて、太平洋及臺灣海峽に分配せられ、長大の河流なく、大抵急流にして、強雨に逢へば氾濫の憂あり、淡水河は本島第一の大河なり、上流は太姑陷河(大岸)と云ひ、シルヴィア山の北麓に發し、北流して新店川、基隆川を合せ、淡水港を過ぎて海に注ぐ、灌域は主要の農産地なり、河口より艚艚に至る間、小汽船上下し、上流には奇巖峙ち、梅樹是に生じ、風景愛すべし、其の他太甲溪、濁水溪(以上西部)、花蓮溪、東部等あり、稍灌漑の便を資くと雖も、運輸の便は全

沿海

くなし。

●沿海

本島の海岸は屈曲甚だ乏し

東岸之嶮



く、従て良港なし、北海岸には、基隆、淡水の二開港場ありて、基隆は良港と稱せられ、大船巨舶を容るべしと雖も、東北風を防ぐべからず、當今内地との往復は、概ね此港に依る。淡水港は淡水河口を溯る半里餘、滬尾にあり、砂洲堆積せりと雖も、是を濶はゞ良港たるべしと云ふ。北方海岸の最東に突出する三貂角は、明治二十八年五月、北白川中將の宮の近衛師團を率ひて、始めて上陸せられし地なり。是より以南東海岸は

處誌

概ね斷巖急に海に迫りて、數千尺の嶮崖をなし、港灣少く、唯北部の蘇澳灣は水深く稍、船舶の碇泊に便に、其の南の花蓮港も、僅かに船を寄するべし、本島の極南を南岬と云ひ、本邦の最南端なり。西海岸は諸川より吐出する泥沙堆積して沿海一帶の遠淺となり、港灣に乏しく、僅に安平、打狗、鹿港等あれども、良港とは謂ひ難し。

○臺灣海峡に澎湖群島あり、重なる島を澎湖島、白沙島、漁翁島とす、澎湖島の馬公港は、臺灣第一の良港と稱せらる、風濤悪き時は、臺灣近海の船は、多く茲に避難すといふ、港口に砲臺及燈臺あり。

●處誌 本島は我戰國の頃より、屢、邦人の來航するものありて、既に其の一部を略取し、高砂島、或は中蜻島と稱した